

# 西ノ辻遺跡第30次発掘調査報告

1995

財団法人 東大阪市文化財協会

# 西ノ辻遺跡第30次発掘調査報告

1995

財団法人 東大阪市文化財協会

## はじめに

第二阪奈有料自動車道路は、大阪都心部と奈良県北部を最短距離で結ぶとともに関西国際空港や関西文化学術研究都市へのアクセス道路として計画されました。

この新道路の建設予定地内には、全国的にも著名な鬼虎川遺跡・西ノ辻遺跡・神並遺跡が所在しております。財団法人東大阪市文化財協会では、建設予定内において失われる埋蔵文化財を記録保存するため、昭和63年度から継続して発掘調査を実施してまいりました。今回の西ノ辻遺跡第30次調査では、中世および弥生時代の集落跡や同期の遺物を多量に検出し、貴重な成果を挙げることができました。本書が東大阪市の歴史を解明してゆく上での一助となれば幸いです。

最後に、現地調査および資料整理にあたり、ご尽力いただいた大阪府道路公社をはじめとする関係者の方々に厚くお礼申し上げます。

平成7年3月

財団法人 東大阪市文化財協会

## 例　　言

1. 本書は、平成2年度に実施した、第2阪奈有料道路建設工事に伴う西ノ辻遺跡第30次発調査の報告書である。
2. 発掘調査ならびに資料整理は、財団法人文化財協会が大阪府道路公社の委託をうけて実施した。
3. 現地調査は、平成2年6月13日から平成2年10月31日まで、資料整理を平成5年4月1日から平成7年3月31日まで実施した。
4. 調査・整理は以下の事務局体制のもとに進めた。(平成6年7月末日現在)

理事長　　清水行雄

常務理事　西脇實

事務局長　杉山浩三

調査部長　原田修(東大阪市教育委員会文化財課主幹)

調査副部長　松田順一郎

調査部員　上野節子

庶務部長　吉川正光(東大阪市教育委員会文化財課主幹)

庶務部員　大林享　朝田直実　村田周亮

調査担当　中西克宏

調査補助　東舍利樹　中村真　岡野明美　米田正雄　松坂誠二　猪田弘美　田中美由紀  
石割珠貴　伊藤美樹　中村里美　永井佐都子　西村慶子　八田美代子

5. 本書は、中西がI～IV・VIの執筆・編集、Vをパリノサーヴェイ株式会社が執筆した。
6. 遺構写真は、中西が撮影した。また遺物写真は、スタジオG.F.プロに委託して撮影した。
7. 人骨については、現地において大阪市立大学医学部解剖学第2講座、多賀谷昭氏に鑑定していただいた。
8. 遺構平面図は、航空写真測量によっており、関西航測株式会社に委託した。
9. 現地の土色および土器・土製品の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人色彩研究所監修の『新版標準土色帖』に準拠した。
10. 現地調査の実施にあたっては、大阪府道路公社、第2阪奈有料道路作業所(第1工区)、安西工業株式会社の方々にご協力いただいた。記して御礼申し上げます。

# 本文目次

## はしがき

## 例言

I	調査に至る経過	1
II	西ノ辻遺跡の位置と環境	1
III	調査の方法	4
IV	調査の成果	5
1	層序	5
2	遺構と遺物	5
1)	近世以降の遺構	5
2)	室町時代から鎌倉時代の遺構と遺物	11
3)	古墳時代の遺構と遺物	26
4)	弥生時代の遺構と遺物	26
V	木製品の樹種同定	32
VI	まとめ	36

# 挿図目次

第1図	西ノ辻遺跡周辺の遺跡分布図	2
第2図	調査地点位置図	4
第3図	調査地区の基準ライン設定図	4
第4図	北壁断面実測図(西半部)	6
第5図	北壁断面実測図(東半部)	7
第6図	近世以降の遺構実測図	8
第7図	中世から古墳時代の遺構実測図	9
第8図	井戸1実測図	12
第9図	井戸1出土遺物実測図	13
第10図	井戸2実測図	14
第11図	井戸3実測図	15
第12図	井戸3・5・6・7、土壙墓1、土壙1出土遺物実測図	16
第13図	井戸4実測図	17
第14図	井戸5実測図	18
第15図	西ノ辻遺跡の井戸検出面計測図	20
第16図	西ノ辻遺跡の井戸底面計測図	20
第17図	土壙1実測図	21

第18図 土壌墓1実測図	22
第19図 西ノ辻遺跡の中世墓分布図	23
第20図 溝1・6・13、Pit出土遺物	24
第21図 土壌17実測図	26
第22図 弥生時代の遺構実測図	27
第23図 落ち込み1実測図	29
第24図 溝20・21、落ち込み1出土遺物実測図	30
第25図 土壌7・8・9・16、第9層出土遺物実測図	31
第26図 第9層出土遺物実測図	32

## 表 目 次

第1表 西ノ辻遺跡の調査一覧表	3
第2表 西ノ辻遺跡の中世井戸計測値一覧表	19
第3表 西ノ辻遺跡周辺の中世墓一覧表	23
第4表 根石一覧表	25
第5表 出土材の樹種同定結果一覧表	34
第6表 西ノ辻遺跡30次調査遺構一覧表	37
第7表 西ノ辻遺跡第30次調査出土遺物観察表	46

## 図 版 目 次

図版 1 遺構	1. 近代以降の段に伴う杭列検出状況（西より） 2. 北壁東端部分断面
図版 2 遺構	1. 近世遺構検出状況（南より） 2. 近世溝検出状況（西より）
図版 3 遺構	1. 中世から古墳時代遺構検出状況（西より） 2. 中世から古墳時代遺構検出状況（調査区西寄り部分）
図版 4 遺構	1. 中世から古墳時代遺構検出状況（調査区中央寄り部分） 2. 中世から古墳時代遺構検出状況（調査区東寄り部分）
図版 5 遺構	1. 井戸 1 東西断面 2. 井戸 1 検出状況
図版 6 遺構	1. 井戸 4 遺物出土状況 2. 井戸 5 東西断面
図版 7 遺構	1. 井戸 5 立割り状況（南東方向） 2. 井戸 2 立割り状況（東西方向）

- 図版8 遺構 1. 溝1・3検出状況（南より）  
2. 土壙1検出状況（南より）
- 図版9 遺構 1. 土壙墓1・井戸6・井戸7検出状況（南より）  
2. 土壙墓1人骨出土状況
- 図版10 遺構 1. 土壙墓1人骨出土状況  
2. 土壙墓1人骨出土状況
- 図版11 遺構 1. Pit61根石検出状況  
2. Pit26根石検出状況
- 図版12 遺構 1. Pit169根石検出状況  
2. Pit169立割り状況
- 図版13 遺構 1. 弥生時代遺構検出状況（西より）  
2. 溝20・溝21検出状況（南より）
- 図版14 遺構 1. 溝20・溝21検出状況（南より）  
2. 溝21検出状況（南より）
- 図版15 遺構 1. 溝20検出状況（南より）  
2. 溝20東西断面
- 図版16 遺構 1. 落込み1検出状況（南より）  
2. 落込み1土器出土状況
- 図版17 遺構 1. 落込み1土器出土状況  
2. 土壙17土器出土状況
- 図版18 遺物 井戸1出土遺物
- 図版19 遺物 井戸1出土遺物
- 図版20 遺物 井戸1出土遺物
- 図版21 遺物 井戸2出土遺物
- 図版22 遺物 井戸3・井戸6・井戸7・土壙墓1出土遺物
- 図版23 遺物 井戸5・井戸7・土壙1出土遺物
- 図版24 遺物 溝1・溝6・溝13出土遺物
- 図版25 遺物 Pit49・Pit51・Pit72・Pit83・Pit125出土遺物
- 図版26 遺物 溝20・溝21・落込み1出土遺物
- 図版27 遺物 落込み1・土壙17出土遺物
- 図版28 遺物 近世溝・第9層出土遺物
- 図版29 遺物 樹種顕微鏡写真
- 図版30 遺物 樹種顕微鏡写真

## I 調査に至る経過

近年、大阪府や奈良県北部地域の開発に伴い自動車交通量の増加が著しい。大阪府道路公社と奈良県道路公社は、大阪都心部と奈良県北部地域を短時間で結ぶとともに、阪神高速道路や近畿自動車道と連絡し、広域的な道路網を形成するために、国道308号線のバイパスとして、東大阪市西石切町を起点とし、奈良市宝来町を終点とする13.4kmの第二阪奈有料自動車道路の建設を計画した。この計画では、有料自動車道路のうち、大阪外環状線以東の部分が、近畿日本鉄道東大阪線とほぼ平行し、鬼虎川遺跡・西ノ辻遺跡・神並遺跡のなかを東西に横断している。これらの3遺跡では、これまでの発掘調査によって、縄文時代から室町時代の遺構・遺物の存在することが十分に予想された。このため東大阪市教育委員会は、道路建設工事に先立って発掘調査を必要とする見解を大阪府道路公社に提示した。その後、大阪府道路公社と東大阪市教育委員会文化財課で協議を重ねた結果、道路建設予定地内の埋蔵文化財の発掘調査を順次実施することになった。

発掘調査は、大阪府道路公社からの委託をうけた、財団法人東大阪市文化財協会が昭和63年度に神並遺跡第13次発掘調査、平成元年度に西ノ辻遺跡第27次発掘調査、鬼虎川遺跡第32次発掘調査、平成2年度に鬼虎川遺跡第32次発掘調査、西ノ辻遺跡第30次発掘調査、西ノ辻遺跡第32次発掘調査、神並遺跡第14次発掘調査、平成3年度に鬼虎川遺跡第33次発掘調査、西ノ辻遺跡第32次発掘調査、神並遺跡第14次発掘調査、平成4年度に鬼虎川遺跡第33次発掘調査、西ノ辻遺跡第33次・35次発掘調査、神並遺跡第14次発掘調査を実施している。

## II 位置と環境

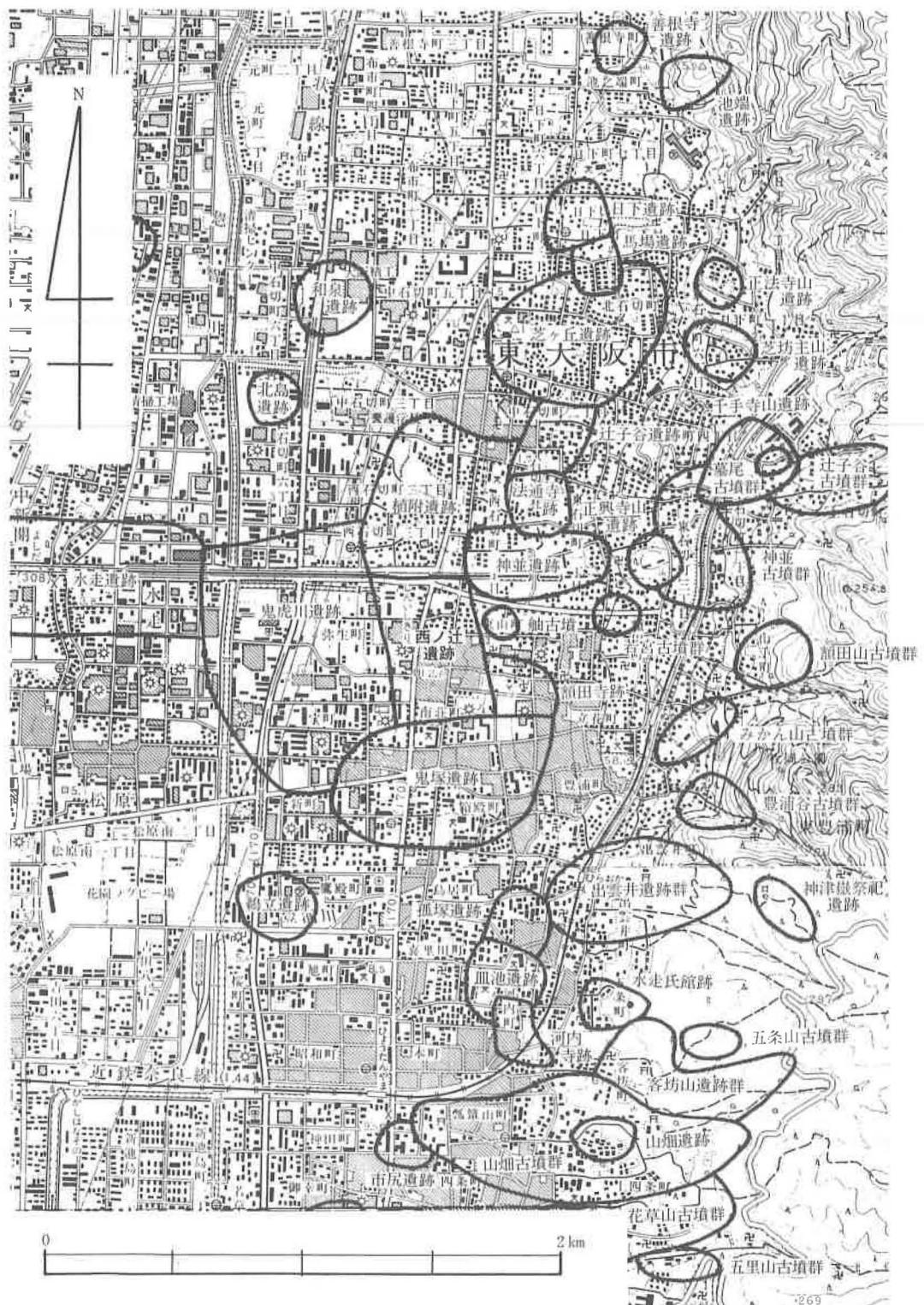
西ノ辻遺跡は生駒山西麓部、標高7~20mの扇状地上に立地し、行政区分では、東大阪市東山町・弥生町・西石切町3丁目にかけて所在する。

西ノ辻遺跡第30次発掘調査地点は、本遺跡の推定範囲に西端部分、鬼虎川遺跡と接する地点にあたる標高約7m付近である。地籍では東大阪市西石切町3丁目地内にあたる。

西ノ辻遺跡は、昭和16年に発見されて以来京都大学や大阪府教育委員会、東大阪市遺跡保護調査会・財団法人東大阪市文化財協会などによって発掘調査がおこなわれてきている。このうち、昭和16年・17年の京都大学小林行雄氏のA~N地点の調査では、各地点で様式のことなる弥生時代中期から後期の土器が出土し、これをもとに弥生時代中期から後期の土器編年を組んでいる。このことが西ノ辻遺跡を学史上著名なものにしている。以後の発掘調査の概要は、第1表を参照していただきたい。

本遺跡の周辺には、旧石器時代から室町時代にいたる多くの遺跡が分布している。

旧石器時代の遺跡には、ナイフ形石器が採集されている千手寺山遺跡・正興寺山遺跡がある。縄文時代の遺跡は、早期の神並遺跡・前期の海岸線の一部を確認している鬼虎川遺跡・後期から晩期の日下遺跡や鬼塚遺跡・芝ヶ丘遺跡などが分布している。弥生時代の遺跡は、本遺跡のほか神並遺跡・鬼虎川遺跡・植附遺跡・芝ヶ丘遺跡・鬼塚遺跡など多くの遺跡がある。古墳時



第1図 西ノ辻遺跡周辺の遺跡分布図

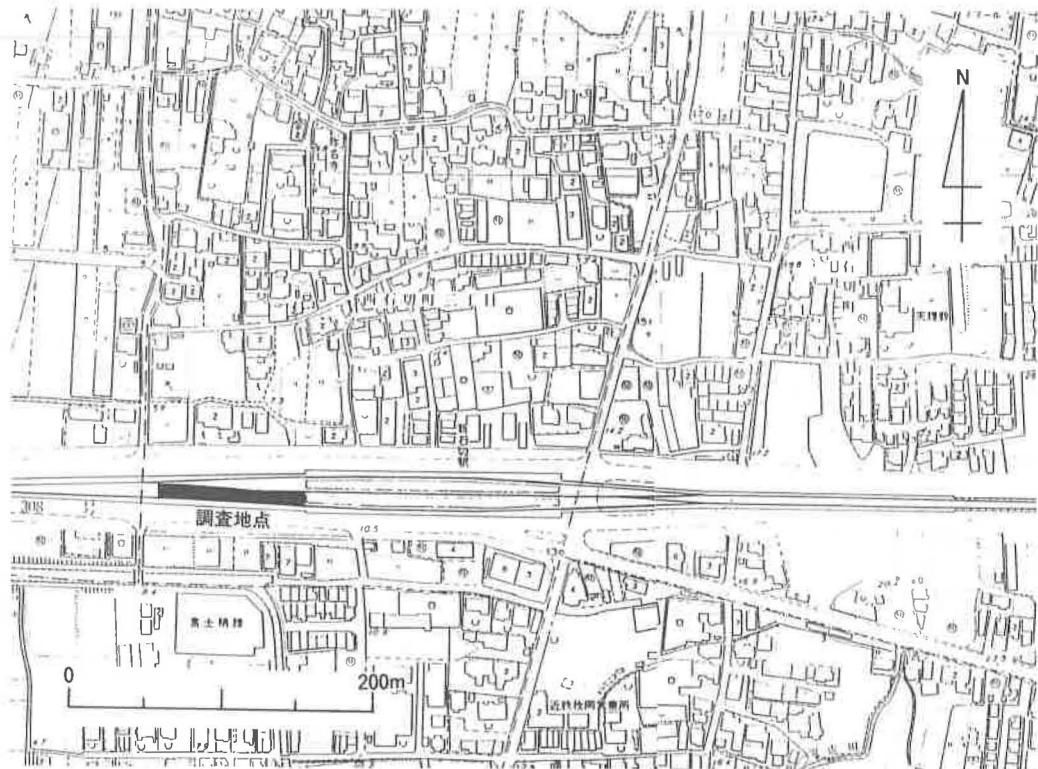
次数	事業名	地点	主体	面積(㎡)	期間	要約	文献
00次	下水道渠化工事に伴う調査	西石切町 3丁目	東大阪市道路保 護調査会	16	730601~ 730630	遺構なし。須恵器、瓦器出土。	東大阪市教育委員会。 (財)東大阪市文化財協会 「発掘20年のあゆみ」1987
01次	都市下水路に伴う調査	西石切町 3丁目	東大阪市道路保 護調査会	29	760304~ 760311	遺構なし。須恵器、瓦器出土。	東大阪市道路保護調査公 「調査会ニュースNo.4」 1976
02次	新鬼鹿川郡市下水路背稟築造 工事に伴う調査	東山町 4	東大阪市道路保 護調査会	25	770111~ 770117	遺構なし。室町から江戸時代の土 器出土。	東大阪市教育委員会・ (財)東大阪市文化財協会 「発掘30年のあゆみ」1987
03次	新鬼鹿川郡市下水路事業に伴 う調査	東山町 1260	東大阪市道路保 護調査会	83	771126~ 771208	近世の井戸、室町時代の自然流路 検出。	東大阪市教育委員会・ (財)東大阪市文化財協会 「発掘20年のあゆみ」1987
04次	住宅建設に伴う調査	東山町	東大阪市教育委 員会	30	7710~ 7711	弥生時代中期の柱穴、土壙検出。	東大阪市教育委員会。 (財)東大阪市文化財協会 「発掘20年のあゆみ」1987
05次	貸しビル建設に伴う調査	東山町 63~65	東大阪市道路保 護調査会	270	810825~ 811028	弥生時代中期から後期の自然流路、 室町時代の土壙、柱穴を検出。	東大阪市教育委員会・ (財)東大阪市文化財協会 「発掘20年のあゆみ」1987
06次	鉄道建設に伴う調査(余沢外) (林)	西石切町 4丁目	東大阪市文化財 協会	209	820817~ 820903	中世の柱穴、井戸、土壙を検出。	東大阪市教育委員会・ (財)東大阪市文化財協会 「西ノ辻、鬼鹿川遺跡」
07次	鉄道建設に伴う調査	西石切町 3丁目	東大阪市文化財 協会	2536	8211~ 830331	弥生時代中期の方形周溝墓、櫛柄 全極出。	東大阪市教育委員会・ (財)東大阪市文化財協会 「西ノ辻、鬼鹿川遺跡」
08次	鉄道建設に伴う調査(道路局) (関係部)	西石切町 3丁目	東大阪市文化財 協会	189	831101~ 831128	室町時代の溝、土壙、井戸、柱穴 を検出。	東大阪市教育委員会・ (財)東大阪市文化財協会 「西ノ辻、鬼鹿川遺跡」
09次	鉄道建設に伴う調査(道路局) (関係部)	西石切町 3丁目	東大阪市文化財 協会	800	831227~ 840523	鎌倉時代から室町時代の木棺墓、 井戸、溝、土壙、柱穴を検出。	東大阪市教育委員会・ (財)東大阪市文化財協会 「発掘20年のあゆみ」1987
10次	鉄道建設に伴う調査(都府局) (関係部)	西石切町 3丁目	東大阪市文化財 協会	2030	840101~ 840197	鎌倉時代から室町時代の集落跡、 土壙墓、金鳥時代から弥生時代の 窓、古墳時代の水利施設を検出。	東大阪市教育委員会・ (財)東大阪市文化財協会 「発掘20年のあゆみ」1987
11次	鉄道建設に伴う調査(大阪府 教育委員会(57~4))	西石切町 3丁目	大阪府教育委員 会	1994	830411~ 830825	平安時代~中世の井戸、弥生時代 中期の方形周溝墓、櫛柄を検出。	大阪府教育委員会・神並 ・西ノ辻、鬼鹿川遺跡発 掘調査整理概要 4 (1987)
12次	鉄道建設に伴う調査 (大阪府教育委員会(58~5))	西石切町 3丁目	大阪府教育委員 会	614	840102~ 840510	中世の柱穴群、弥生時代~南北朝 時代の自然河川	大阪府教育委員会・神並 ・西ノ辻、鬼鹿川遺跡発 掘調査整理概要 4 (1987)
13次	鉄道建設に伴う調査 (大阪府教育委員会(58~2))	西石切町 3丁目	大阪府教育委員 会	1082	840228~ 840625	弥生時代の櫛柄、壺格、繩文時代 から古墳時代の自然河川	大阪府教育委員会・神並 ・西ノ辻、鬼鹿川遺跡発 掘調査整理概要 3 (1986)
14次	鉄道建設に伴う調査 (大阪府教育委員会(58~7))	西石切町 3丁目	大阪府教育委員 会	575	840325~ 840622	鎌倉時代~家原時代の井戸、弥生 時代中期の方形周溝墓	大阪府教育委員会・神並 ・西ノ辻、鬼鹿川遺跡発 掘調査整理概要 4 (1987)
15次	鉄道建設に伴う調査 (大阪府教育委員会(58~3))	西石切町 3丁目	大阪府教育委員 会	312	840391~ 840704	鎌倉時代の土壙墓、弥生時代の自 然河川	大阪府教育委員会・神並 ・西ノ辻、鬼鹿川遺跡発 掘調査整理概要 4 (1987)
16次	鉄道建設に伴う調査	西石切町 1丁目	東大阪市文化財 協会	2960	840524~ 850403	弥生時代から古墳時代の柱、古墳 時代の水利施設、室町時代の集落 跡を検出。	東大阪市教育委員会・ (財)東大阪市文化財協会 「発掘20年のあゆみ」1987
17次	鉄道建設に伴う調査	西石切町 3丁目	東大阪市文化財 協会	1731	840709~ 850501	弥生時代中期の遺構、中世の聚落 跡、自然河川を検出。	東大阪市教育委員会・ (財)東大阪市文化財協会 「発掘20年のあゆみ」1987
18次	鉄道建設に伴う調査 (大阪府教育委員会(59~3))	西石切町 3丁目	大阪府教育委員 会	545	851203~ 860212	弥生時代中期の方形周溝墓、土壙 墓群	大阪府教育委員会・神並 ・西ノ辻、鬼鹿川遺跡発 掘調査整理概要 4 (1987)
19次	鉄道建設に伴う調査 (大阪府教育委員会(59~2))	西石切町 3丁目	大阪府教育委員 会	625	平安時代~室町時代の井戸	平安時代~室町時代の井戸	大阪府教育委員会・神並 ・西ノ辻、鬼鹿川遺跡発 掘調査整理概要 4 (1987)
20次	鉄道建設に伴う調査 (大阪府教育委員会(59~4))	西石切町 3丁目	大阪府教育委員 会	688	860107~	室町時代~鎌倉時代の井戸。神代 時代~古墳時代の自然河川	大阪府教育委員会・神並 ・西ノ辻、鬼鹿川遺跡発 掘調査整理概要 4 (1987)
21次	鉄道建設に伴う調査	西石切町 1丁目	東大阪市文化財 協会	925	861203~ 860212	中世から近世の井戸、柱穴、溝、 水田路を検出。	(財)東大阪市文化財協会 「西ノ辻遺跡第21次発掘 調査報告」1990
22次	送水管埋設工事に伴う調査 鉄道建設に伴う調査	西石切町 3丁目	東大阪市文化財 協会	485	860916~ 860905	弥生時代から奈良時代の河川を接 出。	東大阪市教育委員会・ (財)東大阪市文化財協会 「発掘20年のあゆみ」1987
23次	鉄道建設に伴う調査	西石切町 3丁目	東大阪市文化財 協会	641	861119~ 870520	中世の掘立柱建物、井戸、弥生時 代中期の壺格、縄文時代から中世 の柱穴などを検出。	東大阪市文化財協会(財) 東大阪市文化財協会概 要書 1989年度 (1989)
24次	共同住宅建設に伴う調査	西石切町 3丁目	東大阪市文化財 協会	35	870803~ 870812	弥生時代中期の溝、柱穴などを検 出。	東大阪市文化財協会(財) 東大阪市文化財協会概 要書 1989年度 (1989)
25次	共同住宅建設に伴う調査	西石切町 3丁目	東大阪市文化財 協会	330	870907~ 871028	鎌倉時代の掘立柱建物、平安時代 水路の掘立柱建物、古墳時代後期 の森を検出。	東大阪市文化財協会(財) 東大阪市文化財協会概 要書 1989年度 (1989)
26次	ビル建設に伴う調査	西石切町 3丁目	東大阪市文化財 協会	67	890304~ 890727	中世の溝、溝ち込み、弥生時代中 期の方形周溝墓を検出。	東大阪市文化財協会(財) 東大阪市文化財協会概 要書 1989年度 (1989)
27次	第二阪奈有料道路建設に伴う 文化財調査	西石切町 3丁目	東大阪市文化財 協会	110	890626~ 890811	鎌倉時代の溝、土壙、柱穴、弥生 時代中期の土壙槽を検出。	東大阪市文化財協会(財) 東大阪市文化財協会概 要書 1989年度 (1989)
28次	土木工事に伴う発掘調査	西石切町 3丁目	東大阪市文化財 協会	390	891113~ 900127	5世紀から平安時代の井戸、土壙・溝 ・柱穴、古墳時代後期頃の土壙、溝、 弥生時代中期の方形周溝墓を確定。	東大阪市文化財協会(財) 東大阪市文化財協会概 要書 1989年度 (1989)
29次	住友銀行新石切支店建設に伴 う発掘調査	西石切町 3丁目	東大阪市文化財 協会	364	900208~ 900330	中世の井戸、溝ち込み、土壙、柱 穴、土壙墓、古墳時代の土壙、弥 生時代中期の溝を検出。	東大阪市文化財協会(財) 東大阪市文化財協会概 要書 1989年度 (1989)
30次	第二阪奈有料道路建設に伴う 文化財調査	西石切町 3丁目	東大阪市文化財 協会	710	900701~ 901031	鎌倉時代から室町時代の井戸、土 壙、土壙墓、溝、弥生時代中期の 森を検出。	東大阪市文化財協会(財) 東大阪市文化財協会概 要書 1989年度 (1989)
31次	工場建設に伴う調査	宝町1615	東大阪市文化財 協会	220	900910~ 901020	中世末頃の耕作に伴う溝、古墳時 代中期末頃の溝、古墳時代前半~ 弥生時代の谷筋を確認。	東大阪市文化財協会(財) 東大阪市文化財協会概 要書 1989年度 (1989)
32次	第二阪奈有料道路建設に伴う 文化財調査	西石切町 3丁目	東大阪市文化財 協会	178	910108~ 910331	中世の井戸、古墳時代~弥生時代 中期の溝、弥生時代の井戸を検出。	東大阪市文化財協会(財) 東大阪市文化財協会概 要書 1989年度 (1989)
33次	第二阪奈有料道路建設に伴う 文化財調査	西石切町 3丁目	東大阪市文化財 協会				東大阪市文化財協会(財) 東大阪市文化財協会概 要書 1989年度 (1989)
34次							
35次	第一阪奈有料道路建設に伴う 文化財調査	西石切町 3丁目	東大阪市文化財 協会				

第1表 西ノ辻遺跡の調査一覧表

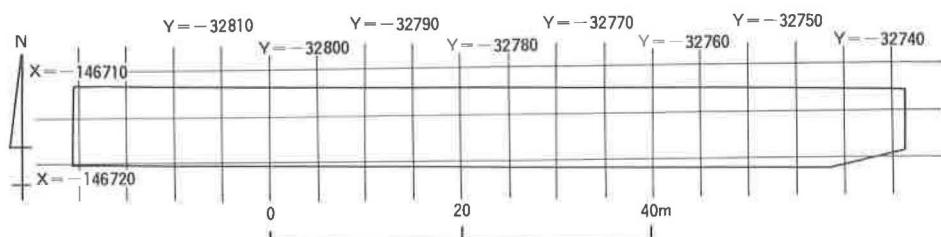
代には、神並遺跡・鬼虎川遺跡・植附遺跡などで集落跡を検出しているほか、後期の神並古墳群も分布している。歴史時代には、法通寺・河内寺などの寺院のほか、鬼虎川遺跡・神並遺跡・植附遺跡などで集落跡を検出している。

### III 調査の方法

発掘調査は、道路建設予定地内のうちの東西約85m、南北約8.4mの710m<sup>2</sup>を対象とした。調査区内のうち、現道路と平行する調査区南壁および東西壁側は、鋼矢板を打設して調査をすすめた。調査の手順は当初、現道路の盛土・耕土・床土さらに埋設管付設部分を機械によって掘削し、以下の層位を人力によって掘削した。次に各堆積層の上面で遺構検出をおこない、遺構の確認できた場合、写真撮影と実測図を作成した。調査区内的測量は、既述したように周辺の発掘調査で検出されている遺構との整合性をはかるため、国家座標を移設し、これに沿った基



第2図 調査地点位置図



第3図 調査地区の基準ライン設定図

準ラインを設定した。調査地区内は、原則として基準ラインによって囲まれる5m区画に分割した。なお、遺構図は、このラインを基準に作成している。調査地区内の堆積土層観察用のアゼは、基準ラインに沿って20m間隔で南北方向に3箇所設定した。そして東側から順にA地区、B地区、C地区と仮称した。

西ノ辻遺跡第30次発掘調査地点の周囲は、東側が西ノ辻遺跡第9次発掘調査区、西側が西ノ辻遺跡第35次発掘調査区、南側が鬼虎川遺跡第18次発掘調査区・西ノ辻遺跡第7・8次発掘調査区、北側が鬼虎川遺跡第25次発掘調査区であり、すでに本調査地区の西側を除く部分の調査が完了している。このため、今回の第30次発掘調査では、これらの既調査で確認している遺構とのつながりを明確にすることが一つの課題といえる。

## IV 調査の成果

西ノ辻遺跡第30次調査地区は、後述するように既に著しく削平され、遺物包含層がまったく残存していない。このため、遺構はすべて地山の上面で確認している。また、調査地区内の南側は、東西方向に水道管や下水道管が埋設されており広範囲に搅乱されている。したがって、検出できた遺構の多くは、調査区の北寄り部分に分布している。しかし、調査区南寄り部分からも井戸・溝などの深く掘り込まれた遺構を検出していることや本調査区の南側で既に実施している鬼虎川遺跡第18次調査・西ノ辻遺跡第7・8次調査区で多くの遺構を確認していることから、本来は、調査区南寄り部分にも北寄り部分同様に多数の遺構が存在していたものと推定できる。調査区西端部分は、近代以降の段によって大きく削り取られているため、遺構をまったく確認することができなかった。

検出できた遺構の時期は、各遺構の重複関係や出土遺物から近世以降・室町時代から鎌倉時代・古墳時代・弥生時代に大別できる。これらのうち室町時代以前の遺構について遺構一覧表を作成したので各々のデータは第6表を参照していただきたい。また、出土遺物のうち図化したもののは遺物観察表を参照して頂きたい(第7表)。以下では、層序の説明の後、時期毎に遺構と出土遺物の記述をすすめてゆくことにする。

### 1. 層序

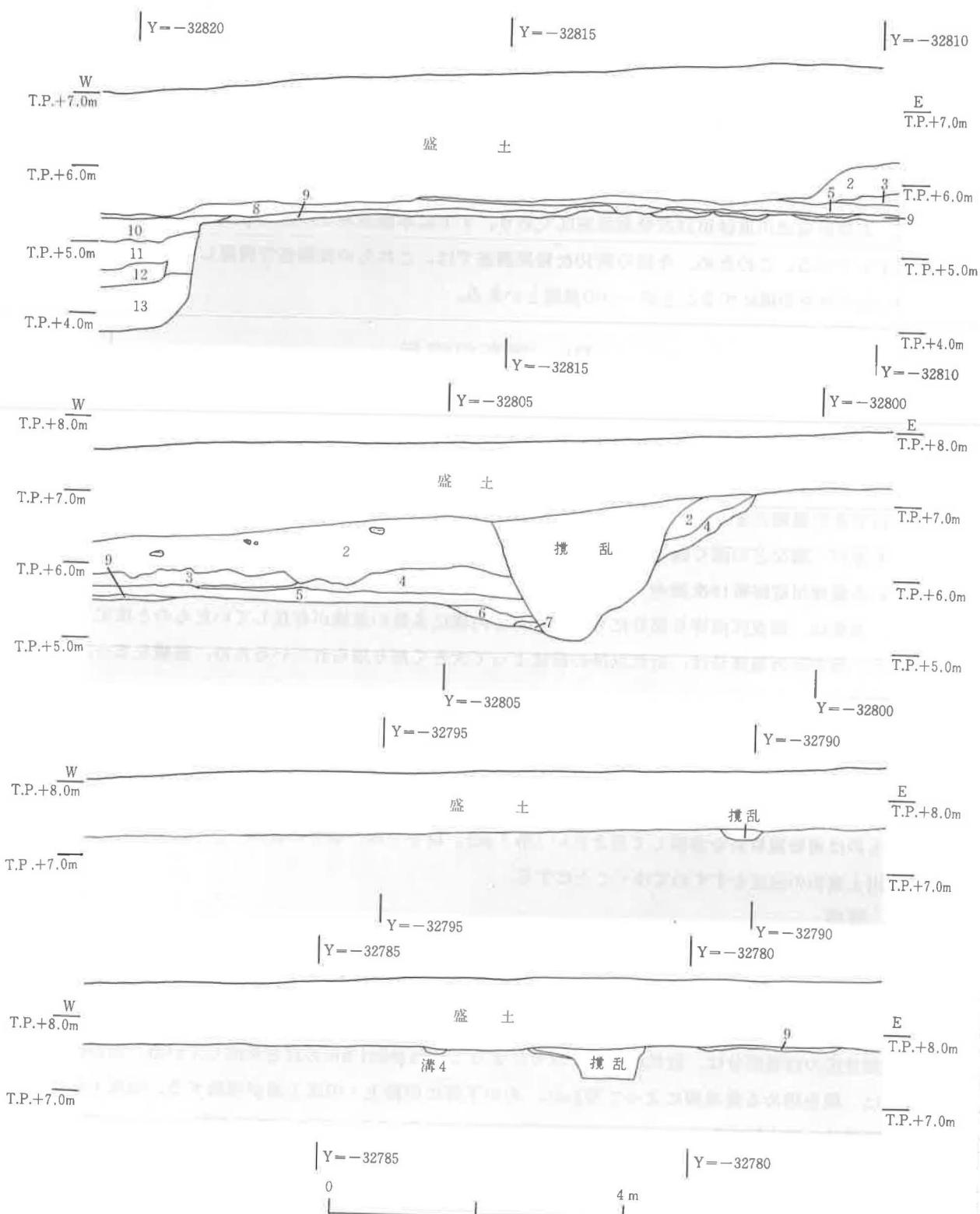
調査地区は、全面現道路の中央分離帯内にあたる。盛土を機械によって除去すると、調査区西端部分を除いて地山を検出した。したがって第30次調査地区は、調査前に既に著しく削平されていたものと推測できる。このため、遺物包含層は、まったく確認できなかった。

調査区の西端部分は、近代以降の土取りによって比高差約1.6mの段を形成している。段の部分は、段を埋める整地層によって覆われ、その下部に旧耕土・旧床土層が堆積する。旧床土層の下部は、地山層である。

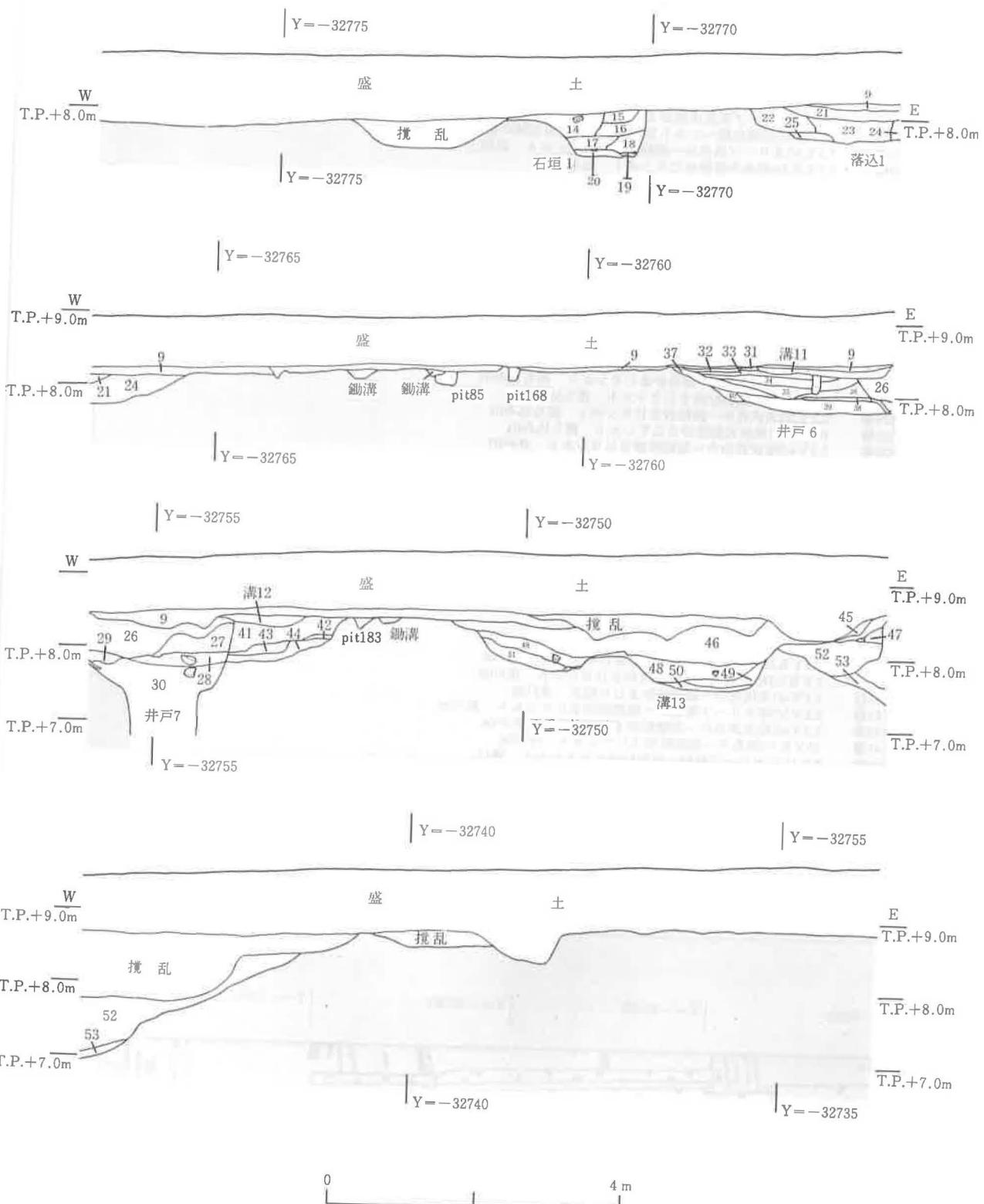
### 2. 遺構と遺物

#### 1) 近世以降の遺構

近世の遺構は、第30次調査区の中央から東寄りで確認している南北方向の溝11条がある。溝



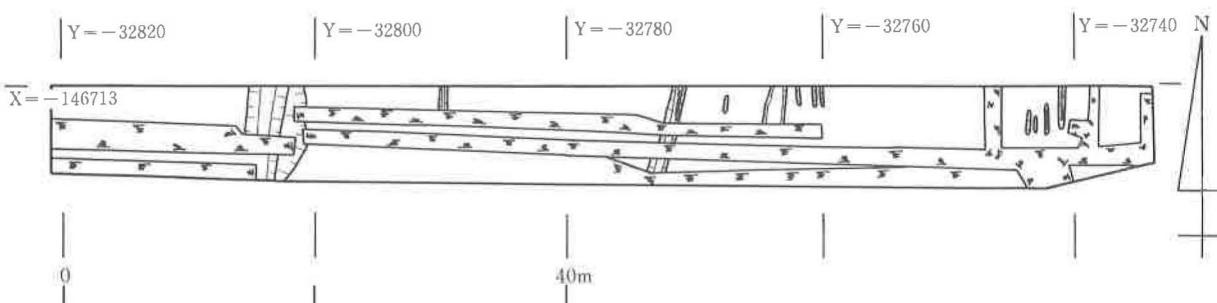
第4図 北壁断面図(西半部)



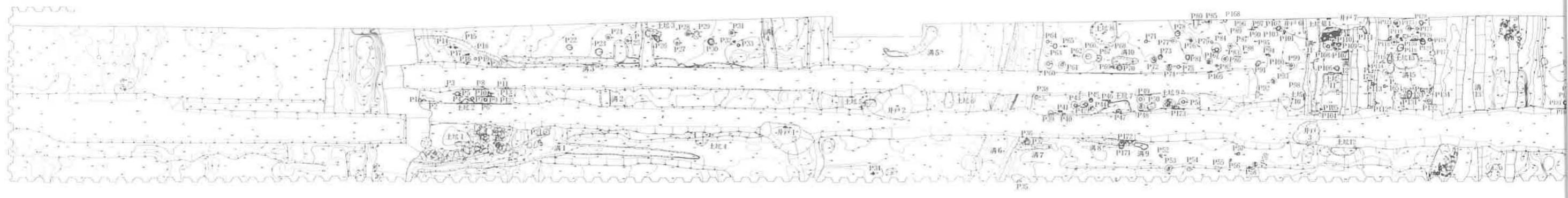
第5図 北壁断面図(東半部)

### 西ノ辻遺跡第30次調査区北壁断面土層名

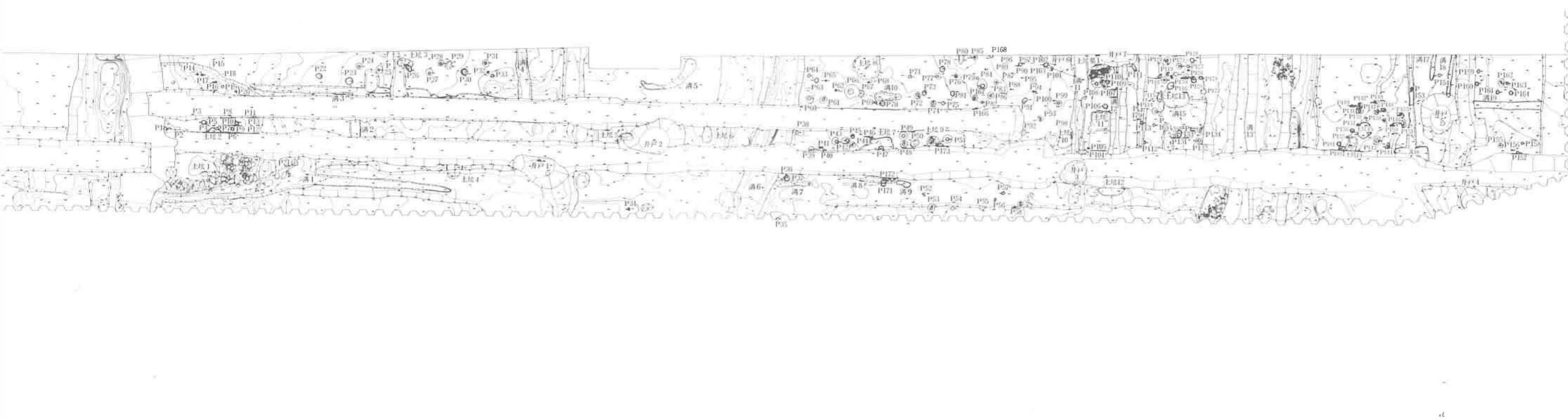
第1層	盛土
第2層	10Y R 4/6褐色粗～中粒砂まじりシルト 近世以降の整地層
第3層	10Y R 4/2灰黄褐色粗～中粒砂まじりシルト 近世以降の整地層
第4層	2.5 Y 4/2暗灰黄色粗～中粒砂まじりシルト 近世以降の整地層
第5層	2.5 Y 3/2黒褐色細～極細粒砂 近世以降の整地層
第6層	10Y 4/2オリーブ灰色中粒砂まじりシルト 近世以降の整地層
第7層	10Y R 3/2黒褐色細～シルトまじり粘土 近世以降の整地層
第8層	7.5 Y 3/1オリーブ黒色中～極細粒砂まじりシルト 旧耕土
第9層	7.5 Y R 7/6橙色中粒砂まじりシルト 旧床土
第10層	5 Y 3/1オリーブ黒色粗～細粒砂まじりシルト 段の埋土
第11層	5 Y 2/1黒色中～シルトまじり粘土 段の埋土
第12層	2.5 G Y 2/1黒色シルト～粘土 段の埋土
第13層	10Y 3/1オリーブ黒色シルト～粘土 段の埋土
第14層	2.5 Y 5/3黄褐色中粒砂まじりシルト 石垣01
第15層	10Y R 4/3にぶい黄褐色粗～中粒砂まじりシルト 石垣01
第16層	10Y R 4/4褐色粗～中粒砂まじりシルト 石垣01
第17層	10Y R 4/2灰黄褐色細粒砂まじりシルト～粘土 石垣01
第18層	10Y R 4/1褐色中粒砂まじりシルト 石垣01
第19層	2.5 Y 4/1黄灰色シルト～粘土 石垣01
第20層	2.5 Y 4/1黄灰色シルト 石垣01
第21層	10Y R 4/1褐灰色極細粒砂～シルト 落ち込み01
第22層	10Y R 5/1褐灰色中～細粒砂まじりシルト 落ち込み01
第23層	2.5 Y 5/1黄灰色細粒砂まじりシルト 落ち込み01
第24層	2.5 Y 5/1黄灰色中～細粒砂まじりシルト 落ち込み01
第25層	10Y R 4/1褐灰色細粒砂まじりシルト 落ち込み01
第26層	2.5 Y 4/2暗灰黄色中～極細粒砂まじりシルト 井戸07
第27層	2.5 Y 3/2黒褐色中～極細粒砂まじりシルト 井戸07
第28層	2.5 Y 4/1黄灰色細～極細粒砂まじりシルト 井戸07
第29層	5 Y 3/1オリーブ黒色大礫まじりシルト 井戸07
第30層	2.5 Y 4/1黄灰色中～極細粒砂まじりシルト 井戸07
第31層	2.5 Y 4/1黄灰色シルトまじり細粒砂～極細粒砂 井戸06
第32層	2.5 Y 4/2暗灰黄色中～極細粒砂まじりシルト 井戸06
第33層	7.5 Y R 2/2黒褐色中～極細粒砂まじりシルト 井戸06
第34層	5 Y R 3/1黒褐色中～極細粒砂まじりシルト 井戸06
第35層	7.5 Y R 3/2黒褐色シルトまじり細～極細粒砂 井戸06
第36層	7.5 Y R 3/2黒褐色シルトまじり中～極細粒砂 井戸06
第37層	7.5 Y R 2/2黒褐色シルトまじり細～極細粒砂 井戸06
第38層	10Y R 4/1褐灰色細～極細粒砂まじりシルト 井戸06
第39層	7.5 Y R 2/2黒褐色中～極細粒砂まじりシルト 井戸06
第40層	5 Y R 3/2暗赤褐色中～極細粒砂まじりシルト 井戸06
第41層	2.5 Y 4/1黄灰色中～極細粒砂まじり粘土 井戸06
第42層	2.5 Y 3/3暗オリーブ褐色中～極細粒砂まじりシルト 井戸06
第43層	2.5 Y 4/2暗灰黄色中～極細粒砂まじりシルト 井戸06
第44層	10Y R 4/4褐色中～極細粒砂まじりシルト 井戸06
第45層	5 Y 4/2灰オリーブ色細～極細粒砂まじりシルト 溝13
第46層	2.5 Y 3/2黒褐色中～極細粒砂まじりシルト 溝13
第47層	10Y R 3/4暗褐色中～極細粒砂まじりシルト 溝13
第48層	10Y R 3/3暗褐色中～極細粒砂まじりシルト 溝13
第49層	2.5 Y 3/2黒褐色中～極細粒砂まじりシルト 溝13
第50層	5 Y 3/1オリーブ黒色シルト～粘土 溝13
第51層	2.5 Y 2/1黒色中～極細粒砂まじりシルト 溝20
第52層	2.5 Y 3/2黒褐色粗～細粒砂まじりシルト 溝20
第53層	5 Y 3/1オリーブ黒色シルト～粘土 溝20



第6図 近世以降の遺構実測図



第7図 中世～古墳時代の遺構実測図 ( $S = 1/200$ )



は小規模なもので、埋土からみて耕作に伴う鋤溝と推測できる。調査区中央部分にある溝の東肩部分には馬頭大の石が一列分残存するものもある。

## 2) 室町時代から鎌倉時代の遺構と遺物

室町時代から鎌倉時代の遺構には、調査区の西寄り部分を除く全域の地山上面から検出した井戸・溝・Pit・土壙・土壙墓がある。同期の遺構は、本調査で最も多く検出できた。以下では、遺構毎に記述をすすめてゆく。

### 井戸

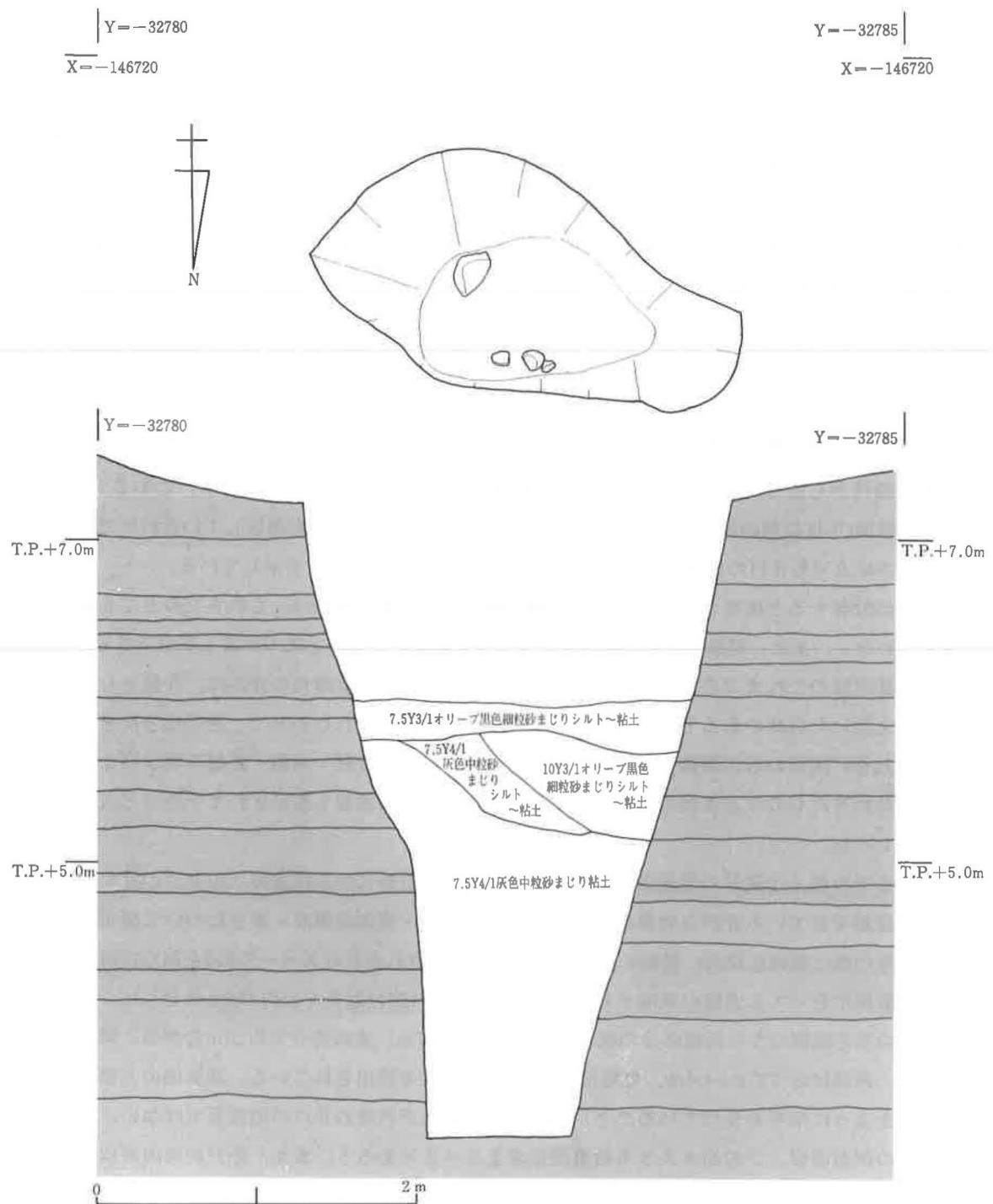
井戸は、調査区中央から東寄り部分で7基検出している。7基のうち調査区端部分に接する3基(井戸4・6・7)は、底面まで確認できなかつたかたが残り4基(井戸1・2・3・5)は、人力および機械掘削によって底面まで確認した。井戸底面まで確認できた4基の井戸はいずれも素掘りである。井戸1・2・3・6・7は埋土内から土器類をはじめ瓦類・木製品など多種多量の遺物が出土しているのに対し井戸4・5からの出土遺物は極めて少ない。なお、井戸6・7および土壙墓1は当初それぞれの重複関係を確認できず、同一遺構として掘削していた。このため遺物については、3者が混同してしまった。しかし、その後の北壁断面の観察によって井戸6→井戸7→土壙墓1の順に変遷することが確認できた。

室町時代から鎌倉時代の井戸は、西ノ辻遺跡の全域に散在的に分布している。このことは、地下の状態(中世以前の埋積谷の存在や地山)によって井戸の開削地点を選択しているわけではなく、どの地点でも井戸の掘削が可能で地下水を得ることができたことを示している。

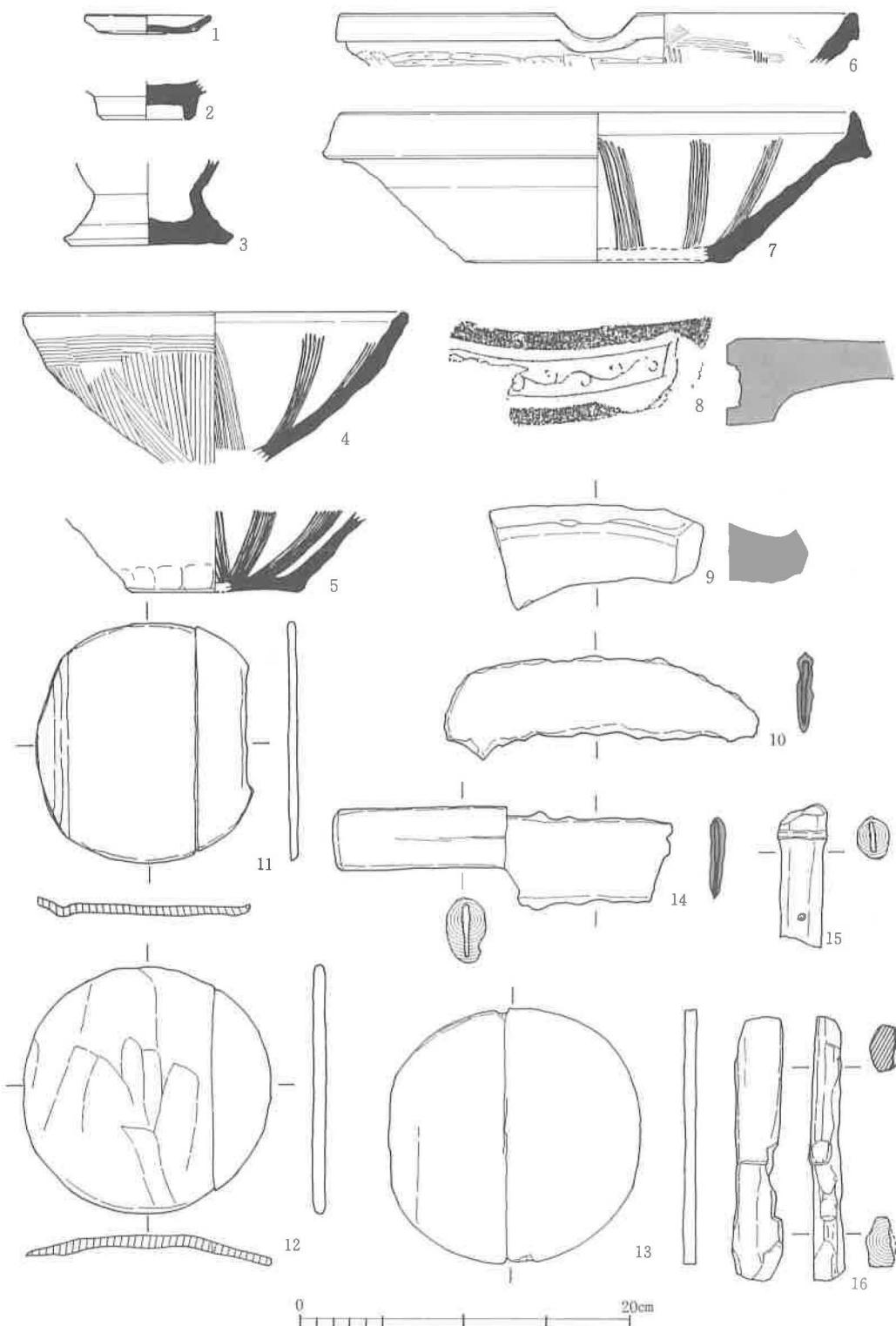
井戸に付随すると推定される覆屋や水の汲上施設などの地上施設は、これまでのところ確認されていない。また、屋敷地内の建物配置および井戸の配置と数などについても不明である。

西ノ辻遺跡のこれまでの調査で確認している室町時代から鎌倉時代の井戸は、井筒として曲物を据え置いた痕跡のあるものや石組の構造のものが数例知られるのみで、そのほとんどは素掘りである。同期の若江遺跡では、曲物・土師器釜・桶側・石組・木組・瓦積みおよびこれらを組み合わせたものなど各種のものが知られ、これらの変遷過程も推定されているのと大きく異なる。

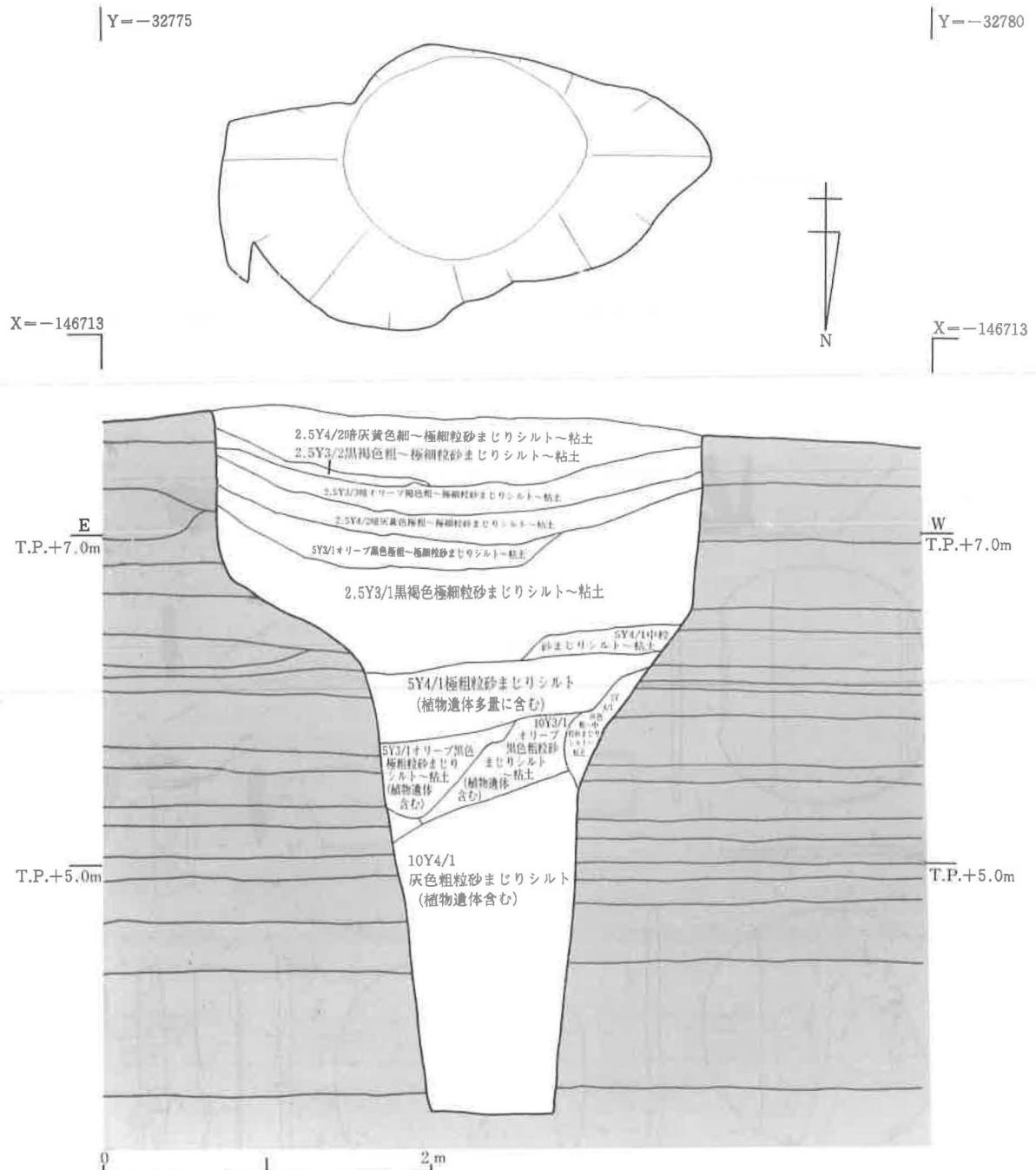
これまでの西ノ辻遺跡の発掘調査で検出されている室町時代から鎌倉時代の井戸のなかで底面まで確認できている井戸を対象に位置・検出時の標高・底面の標高・深さについて図示してみた。第15図は縦軸に標高、横軸に本遺跡の西端と推定される付近X=-32835を起点にほぼ近鉄東大阪線に沿って本遺跡の東端と考えられるX=-32450付近までの約385m分とした。西ノ辻遺跡の推定範囲のうち西端部分の現地表面の標高は約7m、東端部分で約20mを測る。同期の井戸は、西端付近でT.P.+4.4m、東端部でT.P.+15m前後で検出されている。調査地の大部分が既述したように削平を受けていることから井戸の検出面が当時の井戸の開削面ではない。井戸の本来の掘削面は、この高さよりも高位置に考えるべきであろう。また、井戸の検出面は、地山上面の場合がほとんどであることから井戸の検出面は、現在確認できる地山の上面の高さということになる。



第8図 井戸1実測図



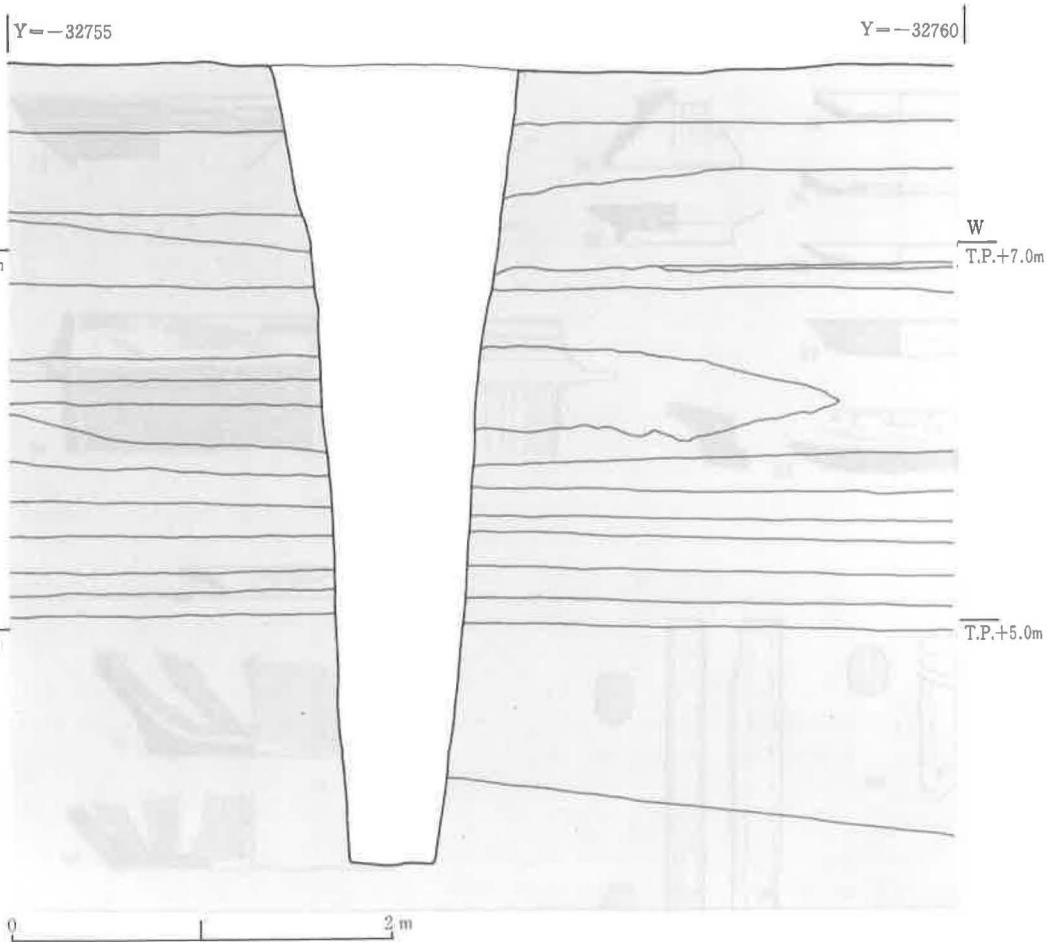
第9図 井戸1出土遺物実測図



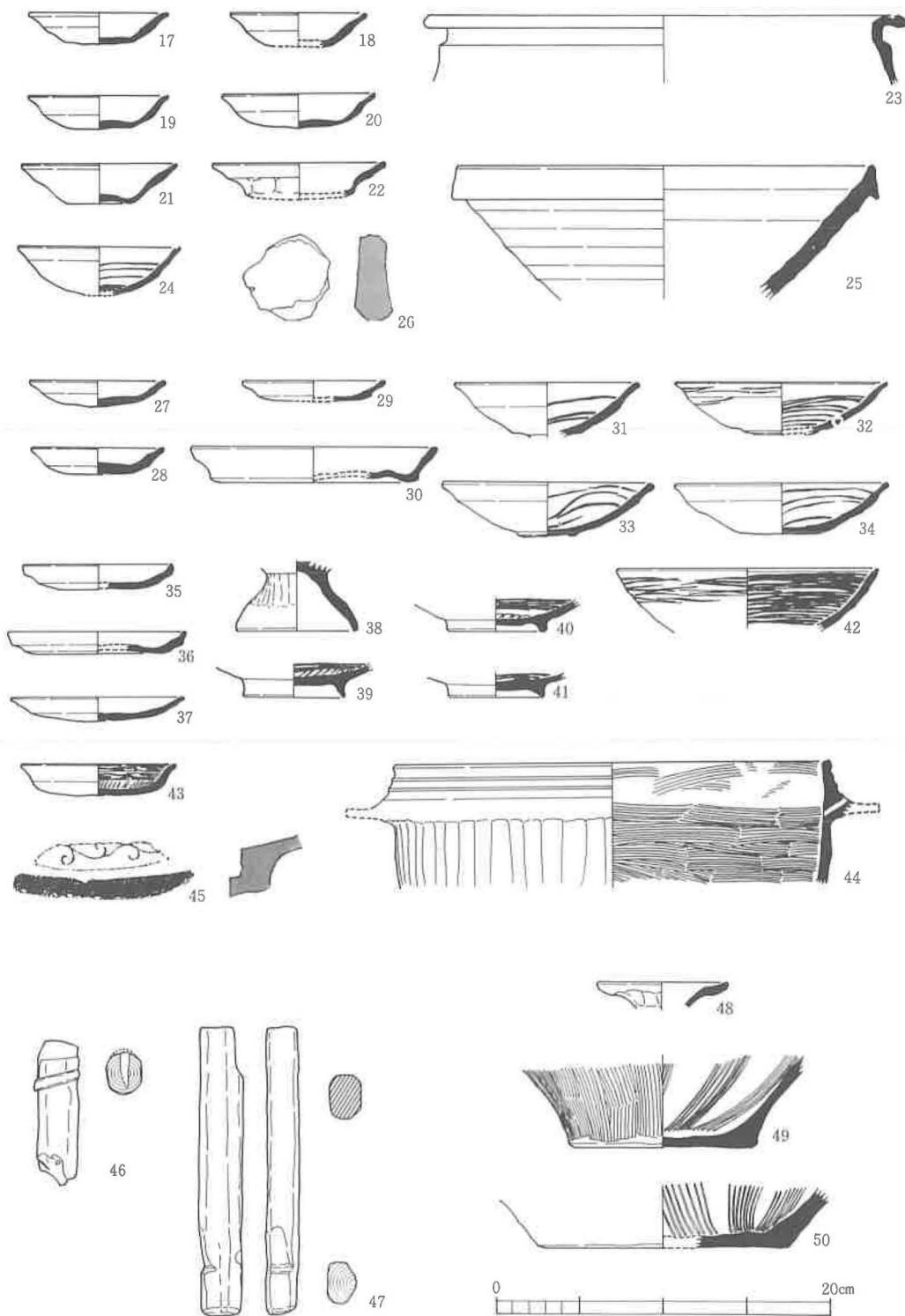
第10図 井戸2実測図

Y = -32755  
X = -146720

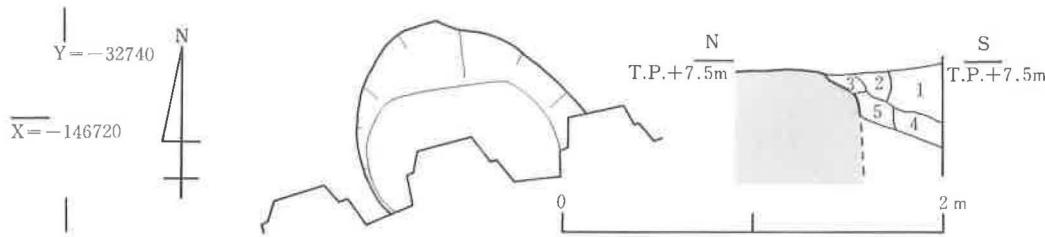
Y = -32760  
X = -146720



第11図 井戸3実測図



第12図 井戸3・5・6・7、土壤墓1、土壤1出土遺物実測図



井戸4断面土層名

- 1 5Y2/2オリーブ黒色粗～極細粒砂まじりシルト～粘土
- 2 7.5Y2/1黒色極粗～粗粒砂まじりシルト～粘土
- 3 5Y2/1黒色シルト～粘土
- 4 7.5Y3/1オリーブ黒色細粒砂まじりシルト～粘土
- 5 7.5Y2/2オリーブ黒色シルト～粘土

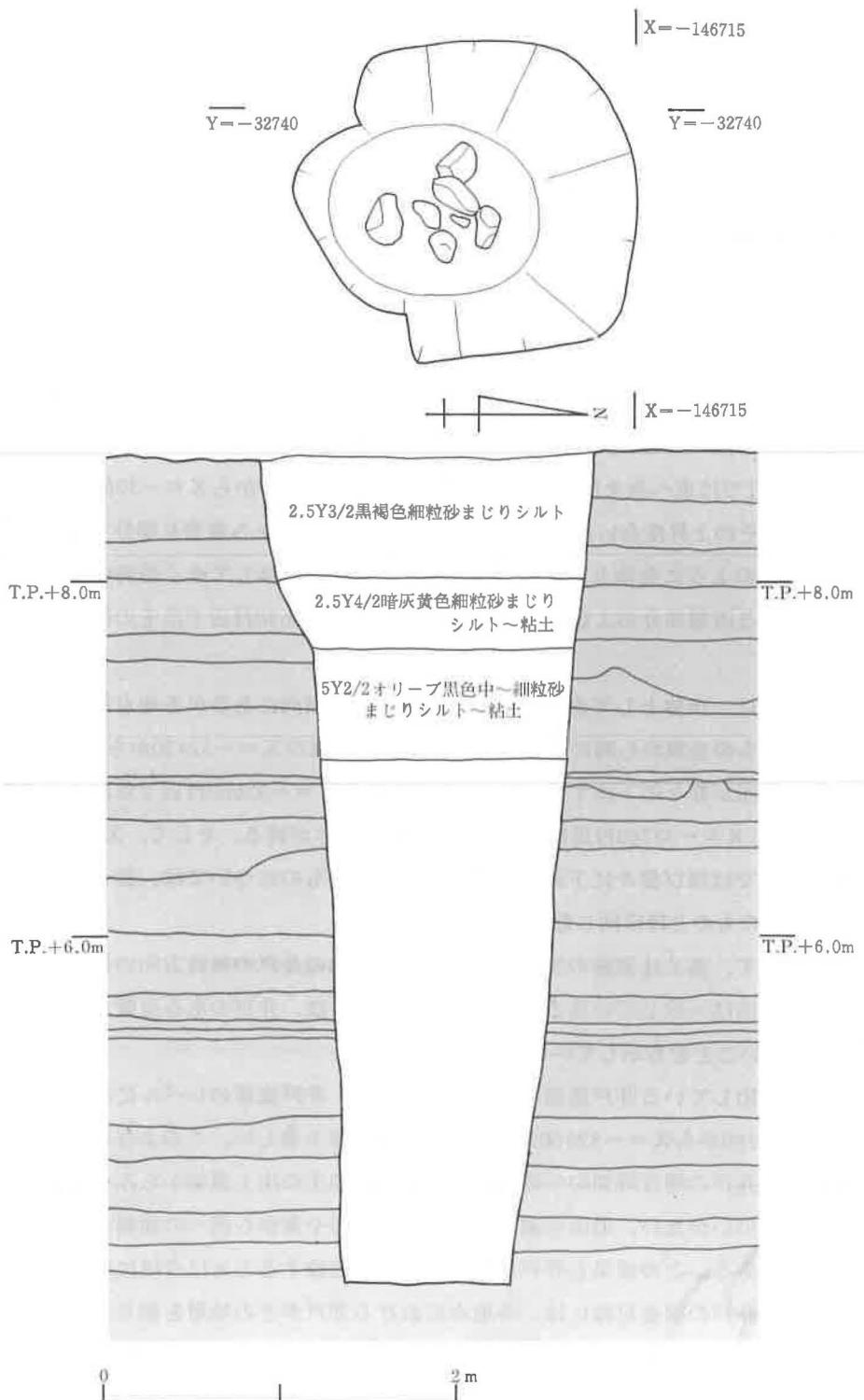
第13図 井戸4実測図

室町時代から鎌倉時代の井戸は、現地表面に沿って東方ほど高位置で確認されている。しかし、その確認面は西から徐々に上昇するのではなく、いくつかの変化が認められる。西から順にみてゆくと起点から西へ35m、X = -32800付近までの検出面は、著しく低い。X = -32800からX = -32740付近では東へ徐々に高くなってゆく。X = -32740からX = -32650付近では、T.P.+8.0m～8.4mでその上昇度合いが鈍る。そして、X = -32650から東寄り部分で再び検出面が上昇してゆく。このように全体として東へ向かって検出面が上昇してゆく傾向のなかで近・現代の溜池や段がある西端部分およびX = -32740からX = -32650付近ではその検出面が著しく低くなっている。

井戸底面のレベルは、全体として東ほど高く、西ほど低い傾向にあるが各地点毎にややひらきがある。低位置のものを東から順に結び付けてみると、東端のX = -32430からX = -32550付近までは、井戸底面が徐々に下降する。X = -32550からX = -32660付近で急激な下降を示す。X = -32660からX = -32760付近にかけては一旦その傾きが鈍る。そして、X = -32760付近から西寄りの地点では再び徐々に下降してゆく。高位置のものについては、若干位置的な差があるものの低位置のものとほぼ同じ傾向をもつ。

これらのことからみて、西ノ辻遺跡の室町時代から鎌倉時代の井戸の東西方向の傾斜の傾向と井戸底面の傾斜の傾向は一致していることになる。このことは、井戸のある位置が井戸自体の深さを規定していないことを示している。

ほぼ同一地点で検出している井戸底面を比較してみると、井戸底面のレベルには、高低差がある。特にX = -32750からX = -32660付近での高低差が最も著しい。このような井戸底面にみられる高低差は、井戸の埋没時期の一時点を示す井戸内埋土の出土遺物からみた場合、時期差を示しているとはいいがたい。地山を構成する土層の分布や東から西への傾斜角度は、近年検討が加えられつつある。この成果と井戸底面の高低差を比較することは今後に残された課題である。これまでの井戸の調査記録には、各地点における井戸がどの地層を掘り抜き、どの地層まで掘削しているのかの記録が欠損している。各時期の湧水層の確認・各井戸の使用時における井戸内の水量の検討には、井戸の立ち割り断面土層図の作成を必要とすることを指摘しておきたい。

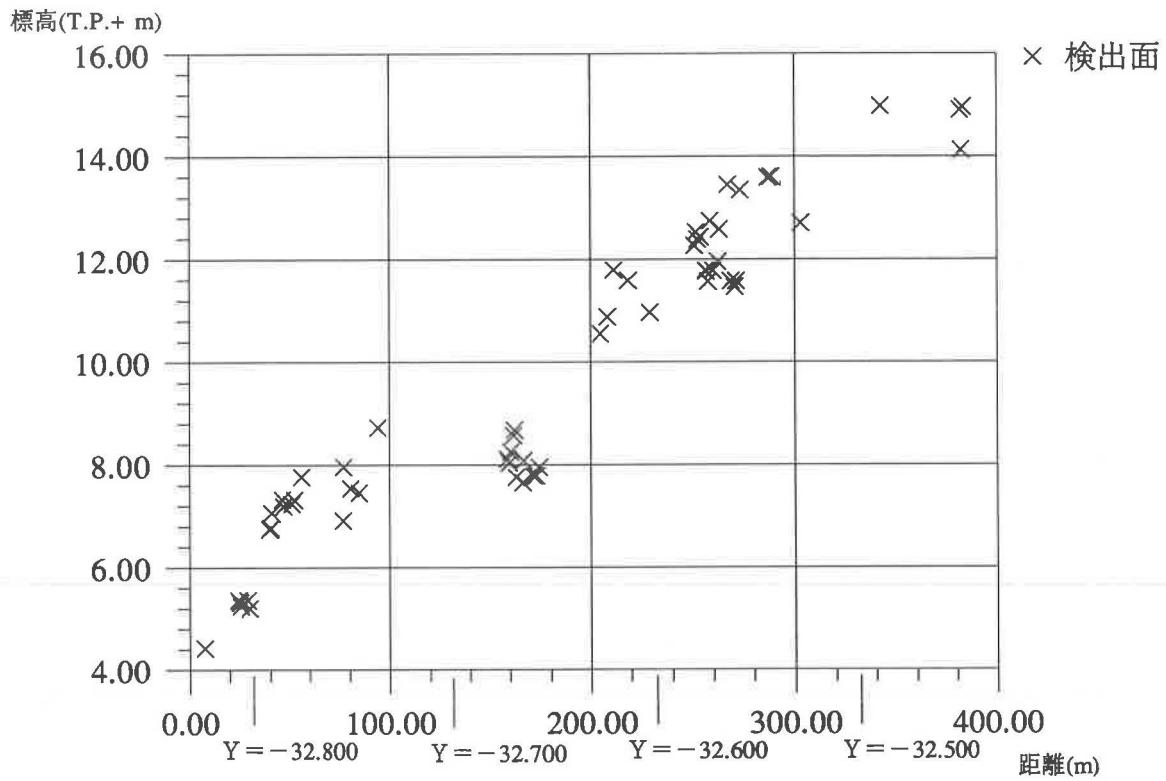


第14図 井戸5実測図

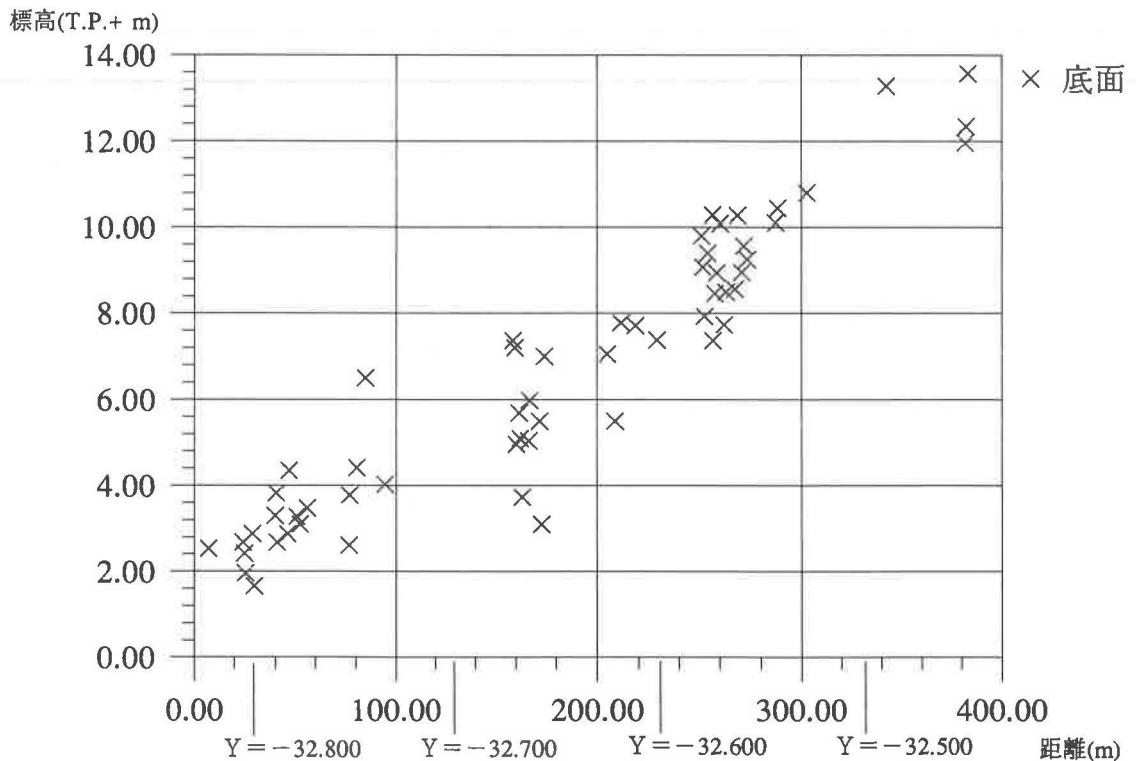
第2表 西ノ辻遺跡の中世井戸計測値一覧表

資料No.	調査次	遺構名	位置	検出面	底面レベル	深さ	長径	短径	時期
01	35次	井戸01	Y=-32828	T.P.+4.42m	T.P.+2.52m	1.9m	0.84m	0.78m	13世紀後半
02	鬼虎川26次	井戸01	Y=-32806	T.P.+5.36m	T.P.+2.86m	2.5m	1.30m	1.10m	南北朝～室町時代
03	鬼虎川26次	井戸02	Y=-32805	T.P.+5.20m	T.P.+1.64m	3.6m	1.20m	1.20m	室町時代
04	鬼虎川26次	井戸03	Y=-32810	T.P.+5.31m	T.P.+2.41m	2.9m	1.30m	1.20m	南北朝～室町時代
05	鬼虎川26次	井戸04	Y=-32810	T.P.+5.36m	T.P.+2.66m	2.7m	2.30m	2.20m	平安時代末期
06	鬼虎川26次	井戸05	Y=-32809	T.P.+5.24m	T.P.+1.94m	3.3m	1.60m	1.20m	室町時代
07	30次	井戸01	Y=-32784	T.P.+7.24m	T.P.+3.26m	4.0m	2.20m	1.12m	15世紀
08	30次	井戸02	Y=-32779	T.P.+7.76m	T.P.+3.46m	4.3m	2.76m	1.30m	15世紀
09	30次	井戸03	Y=-32758	T.P.+7.96m	T.P.+3.76m	4.2m	1.20m	1.02m	14世紀
10	30次	井戸05	Y=-32740	T.P.+8.72m	T.P.+4.02m	4.7m	1.64m	0.93m	中世
11	鬼虎川24次	井戸01	Y=-32794	T.P.+7.06m	T.P.+2.66m	4.4m	2.04m	2.00m	鎌倉時代末期
12	鬼虎川24次	井戸02	Y=-32789	T.P.+7.32m	T.P.+2.86m	4.5m	(1.98)m	(1.88)m	南北朝
13	鬼虎川24次	井戸03	Y=-32788	T.P.+7.19m	T.P.+4.33m	2.9m	2.29m	2.26m	南北朝
14	鬼虎川24次	井戸05	Y=-32782	T.P.+7.31m	T.P.+3.08m	4.2m	2.31m	2.05m	南北朝～室町時代
15	鬼虎川24次	井戸09	Y=-32795	T.P.+6.74m	T.P.+3.28m	3.5m	1.70m	1.44m	鎌倉時代末期
16	鬼虎川24次	井戸10	Y=-32794	T.P.+6.77m	T.P.+3.81m	3.0m	1.55m	1.49m	平安時代末期
17	鬼虎川24次	井戸11	Y=-32758	T.P.+6.91m	T.P.+2.59m	4.3m	1.92m	1.50m	室町時代
18	鬼虎川24次	井戸13	Y=-32754	T.P.+7.54m	T.P.+4.40m	3.1m	1.84m	1.40m	鎌倉時代後期～南北朝
19	08次	井戸01	Y=-32750	T.P.+7.45m	T.P.+6.49m	1.0m	1.30m	0.90m	14世紀末～15世紀初
20	19次	井戸01	Y=-32662	T.P.+7.78m	T.P.+3.08m	4.7m	2.90m	2.80m	南北朝～室町時代
21	19次	井戸02	Y=-32663	T.P.+7.78m	T.P.+5.48m	2.3m	2.60m	1.70m	室町時代
22	19次	井戸04	Y=-32672	T.P.+7.75m	T.P.+3.72m	4.0m	1.20m	1.10m	平安時代末期～鎌倉時代
23	19次	井戸06	Y=-32668	T.P.+7.65m	T.P.+5.03m	2.6m	0.80m	0.80m	平安時代末～鎌倉時代初
24	19次	井戸07	Y=-32673	T.P.+8.68m	T.P.+5.08m	3.6m	1.20m	1.20m	鎌倉時代末～南北朝
25	19次	井戸08	Y=-32674	T.P.+8.25m	T.P.+4.95m	3.3m	1.10m	1.10m	南北朝
26	19次	井戸11	Y=-32673	T.P.+8.57m	T.P.+5.67m	2.9m	1.10m	0.90m	鎌倉時代末期～南北朝
27	19次	井戸13	Y=-32668	T.P.+8.08m	T.P.+5.98m	2.1m	1.20m	1.10m	鎌倉時代後期
28	19次	井戸14	Y=-32675	T.P.+8.04m	T.P.+7.19m	0.9m	1.20m	1.00m	平安時代後期
29	19次	井戸15	Y=-32676	T.P.+8.11m	T.P.+7.36m	0.8m	1.50m	1.40m	平安時代末期
30	19次	井戸16	Y=-32660	T.P.+7.95m	T.P.+6.99m	1.0m	1.60m	1.40m	鎌倉時代末期～南北朝
31	18次	井戸01	Y=-32626	T.P.+10.88m	T.P.+5.48m	5.4m	2.60m	2.50m	鎌倉時代
32	18次	井戸05	Y=-32630	T.P.+10.55m	T.P.+7.05m	3.5m	1.60m	1.60m	鎌倉時代～南北朝
33	11次	井戸04	Y=-32616	T.P.+11.58m	T.P.+7.70m	3.9m	3.25m	3.11m	平安時代後期～鎌倉時代
34	11次	井戸09	Y=-32583	T.P.+12.52m	T.P.+9.08m	3.4m	2.00m	1.82m	鎌倉時代後期
35	11次	井戸10	Y=-32582	T.P.+12.38m	T.P.+7.93m	4.5m	2.19m	1.19m	鎌倉時代後期
36	11次	井戸11	Y=-32581	T.P.+12.43m	T.P.+9.40m	3.0m	2.99m	2.41m	鎌倉時代前期
37	11次	井戸16	Y=-32584	T.P.+12.26m	T.P.+9.80m	2.5m	4.09m	(2.04)m	鎌倉時代中期
38	11次	井戸18	Y=-32576	T.P.+12.74m	T.P.+8.94m	3.8m	2.40m	2.31m	鎌倉時代前期
39	11次	井戸23	Y=-32572	T.P.+11.95m	T.P.+7.73m	4.2m	1.90m	(0.89)m	鎌倉時代中期
40	11次	井戸27	Y=-32623	T.P.+11.79m	T.P.+7.77m	4.0m	2.46m	1.52m	鎌倉時代中期～後期
41	11次	井戸31	Y=-32572	T.P.+12.58m	T.P.+8.50m	4.1m	1.31m	1.26m	鎌倉時代後期
42	11次	井戸32	Y=-32605	T.P.+10.96m	T.P.+7.37m	3.6m	2.78m	(1.14)m	鎌倉時代後期
43	28・29次	井戸01	Y=-32561	T.P.+13.34m	T.P.+9.26m	4.1m	1.76m	1.56m	平安時代～室町時代
44	28・29次	井戸02	Y=-32548	T.P.+13.58m	T.P.+10.10m	3.5m	1.34m	1.26m	平安時代～室町時代
45	28・29次	井戸03	Y=-32546	T.P.+13.60m	T.P.+10.44m	3.2m	1.58m	1.00m	平安時代～室町時代
46	28・29次	井戸05	Y=-32567	T.P.+13.44m	T.P.+8.56m	4.9m	2.92m	2.00m	平安時代～室町時代
47	20次	井戸01	Y=-32575	T.P.+11.78m	T.P.+10.08m	1.7m	1.70m	1.30m	室町時代
48	20次	井戸03	Y=-32563	T.P.+11.57m	T.P.+9.57m	2.0m	2.50m	2.40m	鎌倉時代？
49	20次	井戸04	Y=-32577	T.P.+11.56m	T.P.+8.46m	3.1m	1.60m	1.30m	鎌倉時代～南北朝
50	20次	井戸05	Y=-32578	T.P.+11.78m	T.P.+10.28m	1.5m	3.10m	3.00m	室町時代
51	20次	井戸06	Y=-32564	T.P.+11.46m	T.P.+8.96m	2.5m	4.80m	4.40m	平安時代
52	20次	井戸07	Y=-32578	T.P.+11.76m	T.P.+7.36m	4.4m	1.60m	1.40m	平安時代
53	20次	井戸08	Y=-32566	T.P.+11.57m	T.P.+10.27m	1.3m	1.60m	1.50m	鎌倉時代～南北朝
54	21次	井戸01	Y=-32532	T.P.+12.70m	T.P.+10.80m	1.9m	0.80m	0.80m	14世紀中頃
55	06次	中世井戸	Y=-32492	T.P.+14.97m	T.P.+13.27m	1.7m	3.00m	2.60m	14～15世紀
56	32次	井戸01	Y=-32451	T.P.+14.96m	T.P.+13.56m	1.4m	3.50m	2.52m	中世
57	32次	井戸02	Y=-32453	T.P.+14.90m	T.P.+11.96m	2.9m	2.12m	1.70m	中世
58	32次	井戸03	Y=-32452	T.P.+14.12m	T.P.+12.34m	1.8m	1.10m	1.10m	中世

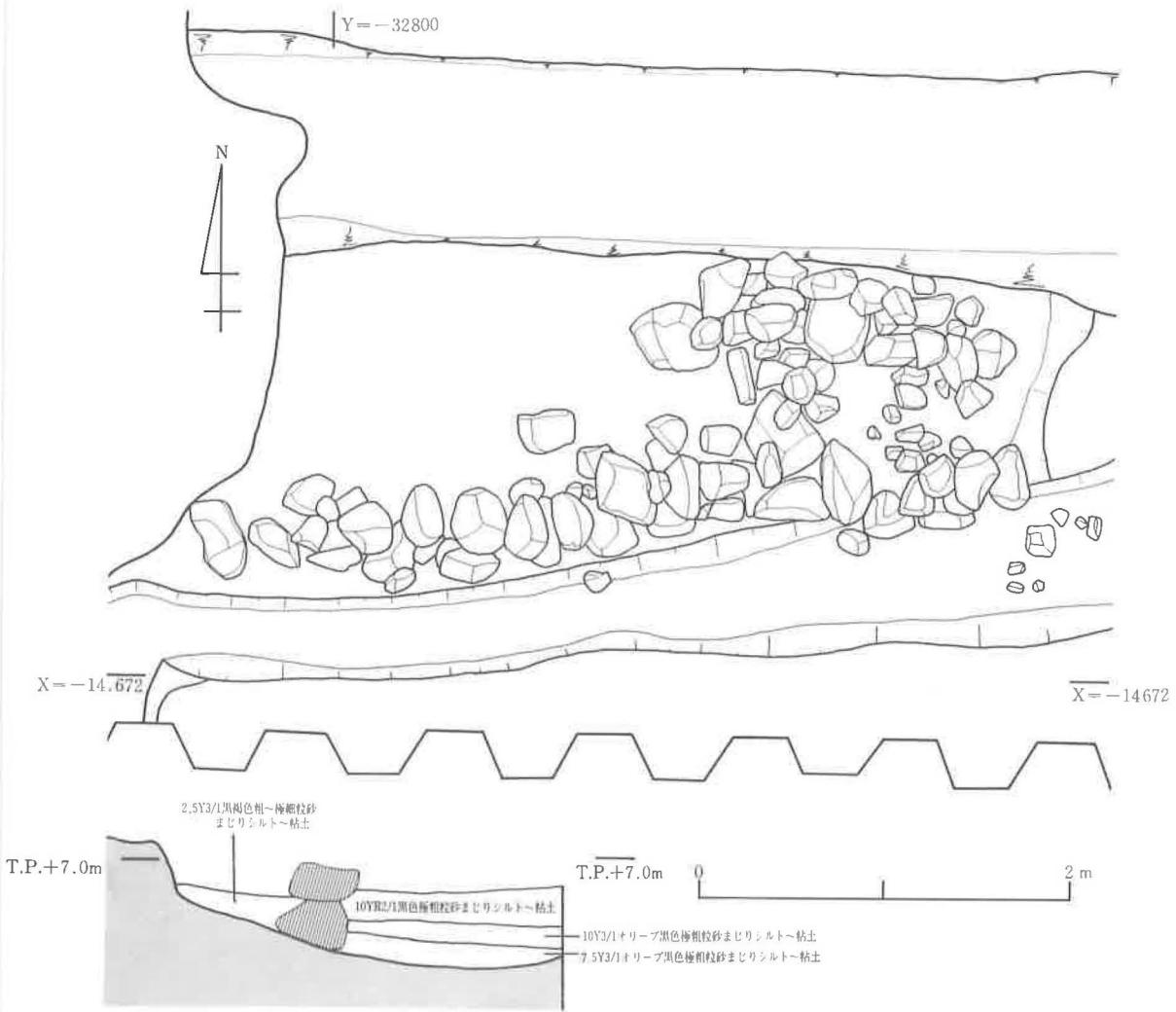
資料No.02～06・11～18は調査時点では、鬼虎川遺跡の範囲と考えられていたが、現在では西ノ辻遺跡の推定範囲に含まれる。



第15図 西ノ辻遺跡井戸検出面計測図



第16図 西ノ辻遺跡井戸底面計測図



第17図 土壌1実測図

### 土壤

当期の土壤は、調査区全域から15基確認している。このうち、調査区南西寄りにある土壤1は、西側を近代以降の段、北側を攪乱、南側を溝1によって削り取られるが、南辺および東辺に沿って人頭大の自然石を使用した石積みが残存する。石は小口積みにし、保存状態の良好な部分で2段分確認できる。

### 土壤墓

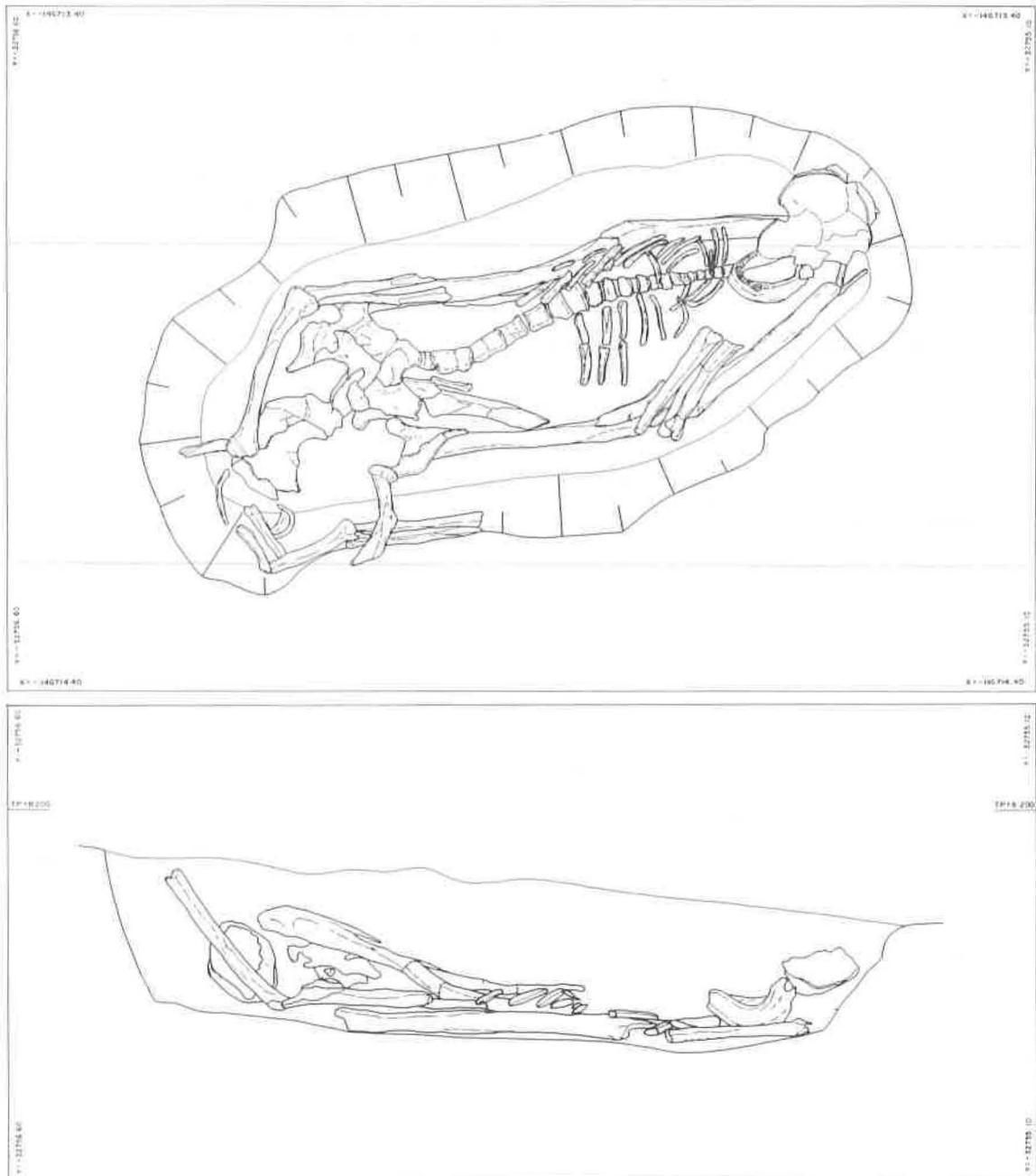
調査区中央からやや東寄りの地点から土壤墓1基を検出している。土壤墓1は、井戸6・7の埋没後に築かれている。墓壙の主軸は、座標に対してE-18°-Nである。

墓壙内からは比較的保存状態のよい2体の人骨を検出している。人骨の出土状況を詳細にみてゆくと、2体の人骨は、頭を向き合うように上下に重なり合った状態で出土している。下部の人骨は頭を西に向かって、墓壙の西壁に上半身をもたせかけ、手足をやや折曲げた姿勢を取る。現地での田賀谷先生の鑑定では、成人男性の可能性が強い。上部の1体は、前述した人骨の足の直上

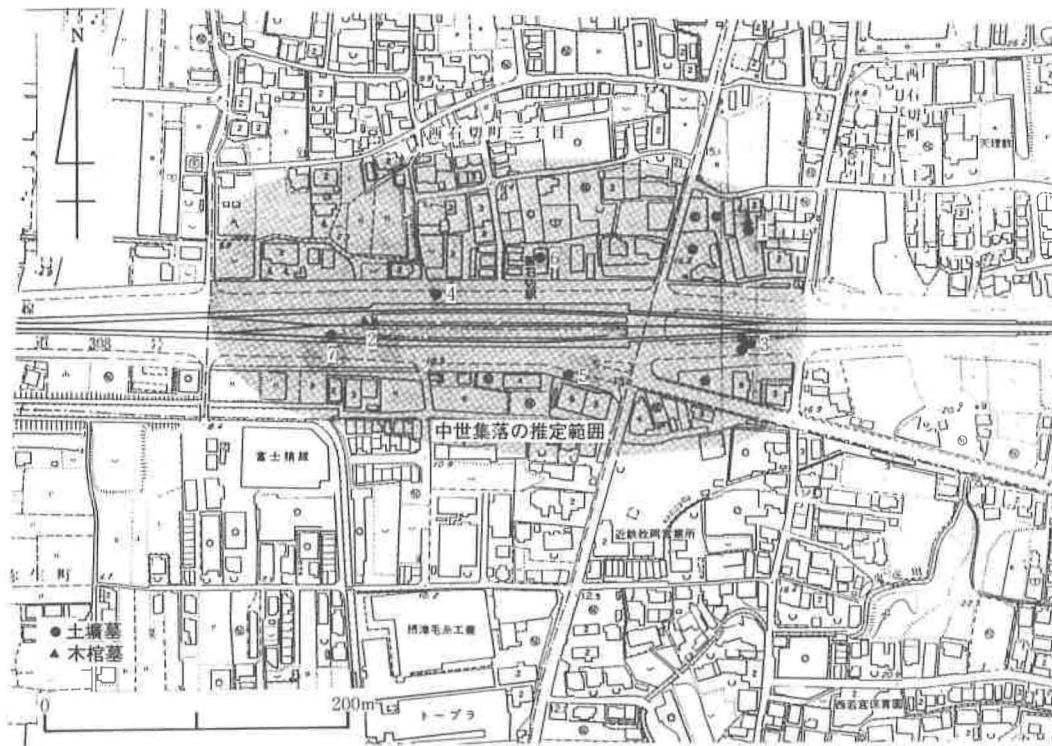
に頭を東に向けて仰臥屈葬の姿勢を呈している。現地での鑑定では40才台の男性の可能性が強い。なお、眉間と下顎部分には、黒く焼け焦げた痕跡をとどめる。このような出土状態から2体はほぼ同時に埋葬したものと推定できる。副葬品や鉄釘・棺の痕跡はまったく検出できない。

室町時代から鎌倉時代の墓は、西ノ辻遺跡の従前の発掘調査や本遺跡の周辺にある植附遺跡・水走遺跡から検出されている。これらの諸例を次に掲げる。

この表より次の点を指摘できる。本遺跡周辺の同期の墓には、死者を直接穴の中に埋めた土



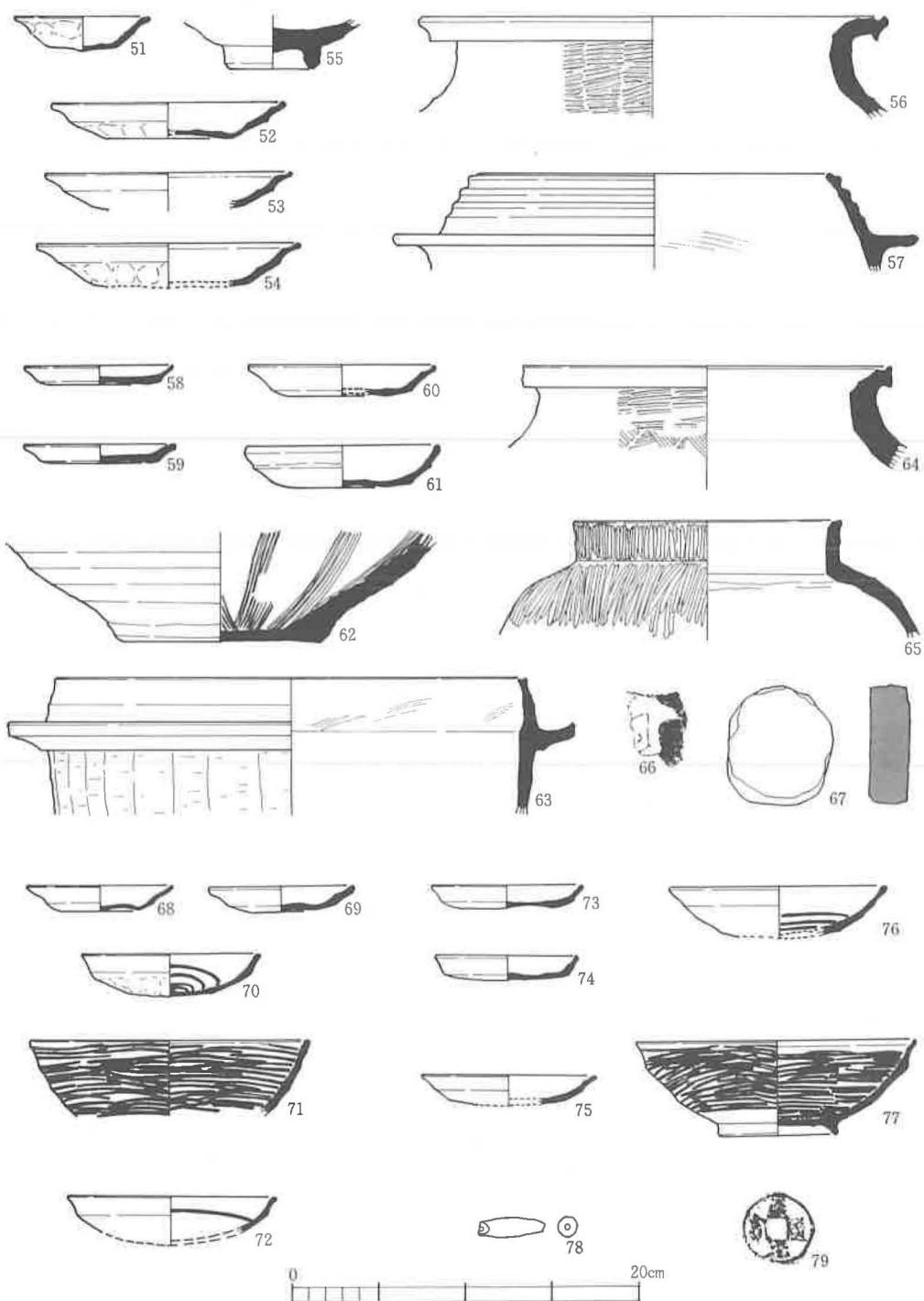
第18図 土壌墓1実測図 ( $S = 1/10$ )



第19図 西ノ辻遺跡の中世墓分布図

番号	遺跡名	調査次	遺構名	埋葬形式	長(m)	幅(m)	深(m)	形態	埋葬數	埋葬姿勢	性別	年令	頭位	副葬品種類	副葬品器種	副葬品数量	時期	備考
1	植附遺跡	01次	木棺墓1	木棺墓				隅丸方形	1	仰臥屈葬	男性	成人	北北西	青磁 白磁 瓦器 土師器 金属製品	椀 椀 椀 皿 鉢	1 1 3 4		
1	植附遺跡	01次	木棺墓2	土塚墓				楕円形	1	仰臥屈葬	不明	不明	北					
	水走遺跡	02次	土塚墓	土塚墓	1.26	0.63	0.26	楕円形	1	屈葬	男性	成人	東	瓦器 土師器	椀	1 5	鎌倉時代	上野利明・才原金弘「水走遺跡第2次・鬼虎川遺跡第26次発掘調査報告」財団法人東大阪市文化財協会 1992
2	西ノ辻遺跡	09次	木棺墓1	木棺墓	1.13	0.65		隅丸方形	1	仰臥屈葬	女性	中壮	北	青磁 土師器 金屬製品	椀 皿 鉢	1 5	14世紀初	若林敏夫「大阪府東大阪市西ノ辻遺跡出土の中世木棺墓について」『考古学ジャーナル』237 1984
2	西ノ辻遺跡	09次	木棺墓2	木棺墓	1.47	0.83		隅丸方形	1	仰臥屈葬	男性	中壮	北	土師器 金屬製品	皿 鉢	8	14世紀初	香原章夫「大阪府東大阪市西ノ辻遺跡出土の中世木棺墓について」『考古学ジャーナル』237 1984
3	西ノ辻遺跡	10次	土塚墓1	土塚墓	1.68	1.00		楕円形	1	仰臥屈葬	男性	中壮	北	土師器	皿	3		
3	西ノ辻遺跡	10次	土塚墓2	土塚墓	1.72	1.08		楕円形	1	不明	不明	不明	北					
3	西ノ辻遺跡	10次	土塚墓3	土塚墓	1.48	0.72		楕円形	1	仰臥屈葬	男性	中壮	北	土師器 瓦器	皿 椀		14世紀	
4	西ノ辻遺跡	15次	土塚墓	土塚墓	1.55	0.55	0.16	長方形	1	仰臥屈葬	男性	成人	北	なし				西口龍一・宮崎泰史「神楽・西ノ辻・鬼虎川遺跡全般調査概要・Ⅱ」大阪府教育委員会 1984
5	西ノ辻遺跡	22次	土塚墓	土塚墓	0.8	0.6	0.1	隅丸方形	1	側臥屈葬	女性	成人	北	なし	椀		14世紀	
6	西ノ辻遺跡	29次	土塚墓	土塚墓	0.4 以上	0.8	0.1	楕円形?	1	不明	不明	不明	北東	白磁		1	13世紀	才原金弘「西ノ辻遺跡第28・29次発掘調査報告」財団法人東大阪市文化財協会 1991
7	西ノ辻遺跡	30次	土塚墓1	土塚墓	1.16	0.58	0.24	楕円形	2	仰臥葬1 仰臥屈葬1	男性 男性	成人	西 東	なし				

第3表 西ノ辻遺跡周辺の中世墓一覧表



第20図 溝1・6・13、Pit出土遺物実測図

壙墓と木棺に埋納したうえで埋めた木棺墓がある。本調査例を除き死者は、頭を北に向け、屈葬の姿勢で墓壙内に1体葬る。

被葬者は、成人男性が多いが、成人女性が2例みられる。木棺の使用に性差は認められない。副葬品には、複数の土師器皿・瓦器椀・輸入磁器がある。土壙墓には、副葬品を全く含まないこともある。木棺墓には、輸入磁器の椀1点を伴う。

これらの墓は、ほぼ同一地点に2~3基が近接して存在するものと単独で検出される場合がある。次に西ノ辻遺跡およびその周辺にある遺跡で確認している中世の集落の拡がりをみると本遺跡西方の鬼虎川遺跡や東接する神並遺跡の西端部分から同期の遺構・遺物は、ほとんどみつかっていない。また、北寄りにある植附遺跡の第1・2次調査では、調査区の北端部分ほど当期の遺構が少なくなる傾向にある。さらに、近鉄東大阪線新石切駅の南部分でもこれまでのところ当期の遺構・遺物はほとんど知られていない。したがって室町時代から鎌倉時代における集落の拡がりは、近鉄東大阪線新石切駅付近を中心に東西約350m・南北約100mに拡がるものと推定できる。このような集落の拡がりのなかでの墓の位置は、集落の推定範囲の周縁部分に占地していることになる。

#### 溝

室町時代から鎌倉時代の溝は、調査区全域から19条検出している。溝の方向は、概ね東西南北方向と南北方向のものがある。

溝13は、中央部分に南北方向の土手状の高まりがある。溝の南端と北端部分の底面のレベル差は、ほとんどない。なお、溝13は本調査の南側で実施している西ノ辻遺跡第8次調査SD15と同一の遺構である。さらに、本調査区北側の鬼虎川遺跡第25次調査でも同一の溝を検出している。これらの3度の調査によって、この溝は、全長約20.7mを確認したことになる。

溝12は、その位置や方向から西ノ辻遺跡第8次調査SD18と同一の遺構で全長約20.8m検出したことになる。

#### Pit

Pitは総数183個検出している。これらのPitの多くは、調査区東寄り部分で検出しており、重複関係や埋土・出土遺物からみて室町時代から鎌倉時代のものと思われる。

遺跡名	根石平面形	根石断面形	長(cm)	巾(cm)	厚(cm)	重量(g)	石材	種類	根石上面高	掘り方底面高	備考
Pit026	菱形	台形	29.0	9.7	7.9	3500	斑櫟岩	割石	T.P.+7.62m	T.P.+7.54m	
Pit030	菱形	長方形	10.9	15.0	8.7	6000	斑櫟岩	自然石	T.P.+7.67m	T.P.+7.58m	
Pit036	菱形	台形	24.1	14.2	14.8	9000	斑櫟岩	割石	T.P.+8.02m	T.P.+7.87m	
Pit061	菱形	台形	23.4	10.4	9.1	5500	斑櫟岩	自然石	T.P.+7.87m	T.P.+7.78m	焦げ跡あり
Pit131											
Pit141											
Pit153											
Pit169	五角形	長方形	18.0	17.0	7.4	5500	斑櫟岩	割石	T.P.+7.92m	T.P.+7.85m	焦げ跡あり
Pit169	三角形	三角形	13.4	9.5	8.5	1500	斑櫟岩	割石	T.P.+7.86m	T.P.+7.77m	

第4表 根石一覧表

Pit内には、根石の存在するものが9個ある。根石は、斑礫岩の自然石や割石を使用し、平坦な面を上に向けて据え付けている。

Pitによって構成される建物は、当調査区内では復原できない。

### 3) 古墳時代の遺構と遺物

古墳時代の遺構は、調査区中央の北端部分で土壙1基(土壙8)のみを検出している。周辺の調査区からも当期の遺構は、ほとんど確認されていないことから既に削平されたものを考慮しても数少ないものと推定できる。

### 4) 弥生時代の遺構と遺物

弥生時代の遺構は、当調査区の東南側で既に実施している西ノ辻遺跡第7次調査で中期の方形周溝墓が多数検出されている。第30次調査で確認できた弥生時代の遺構は、調査区中央から東寄り部分で溝2条・土壙2基・落ち込み1基のみである。

#### 溝

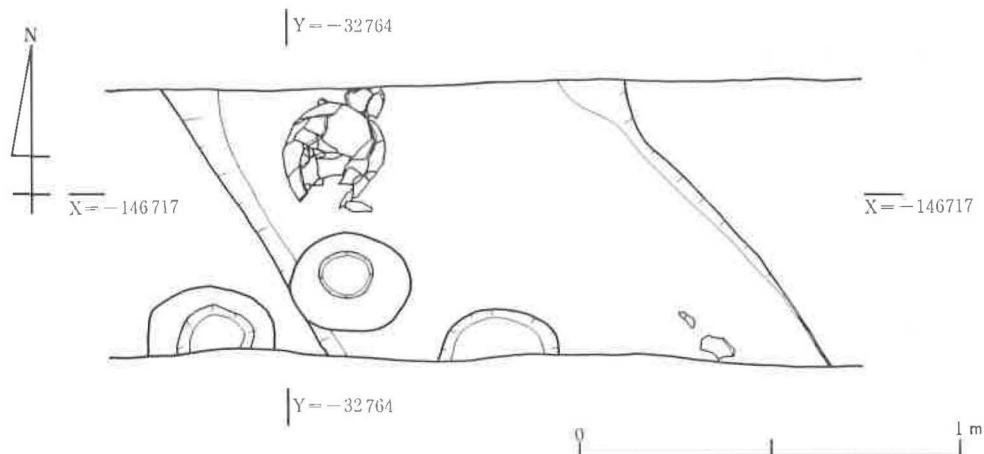
溝20は、位置と方向からみて本調査の南側で実施している西ノ辻遺跡第8次調査のSD29と同一の遺構である。また、北側の調査区(鬼虎川遺跡第25次調査)でもこの溝の続きを検出している。これらの3度の調査によってこの溝は西南方向から北東方向に26.6mを検出したことになる。

#### 土壙

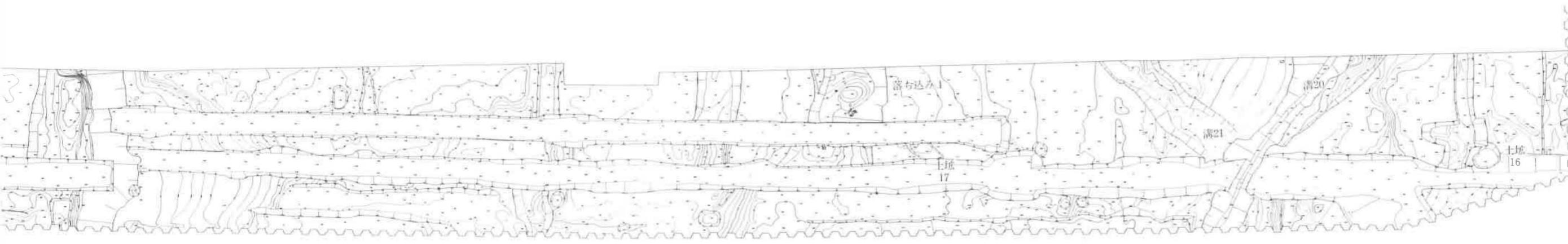
土壙17は、南北両側が搅乱によって削り取られている。土壙内の西寄りからは、体部下半に穿孔のある弥生時代中期の壺1個体が口縁部を北に向けた状態で出土している。

#### 落ち込み

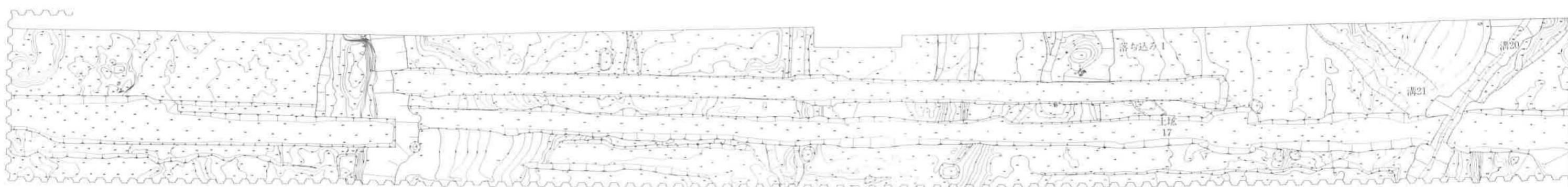
落ち込み1は、南側を搅乱によって削り取られている。さらに北側は、調査地区外にのびてゆくため平面形は不明である。埋土の下層から弥生時代中期の土器類、上層から古墳時代中期末頃の土器が出土している。



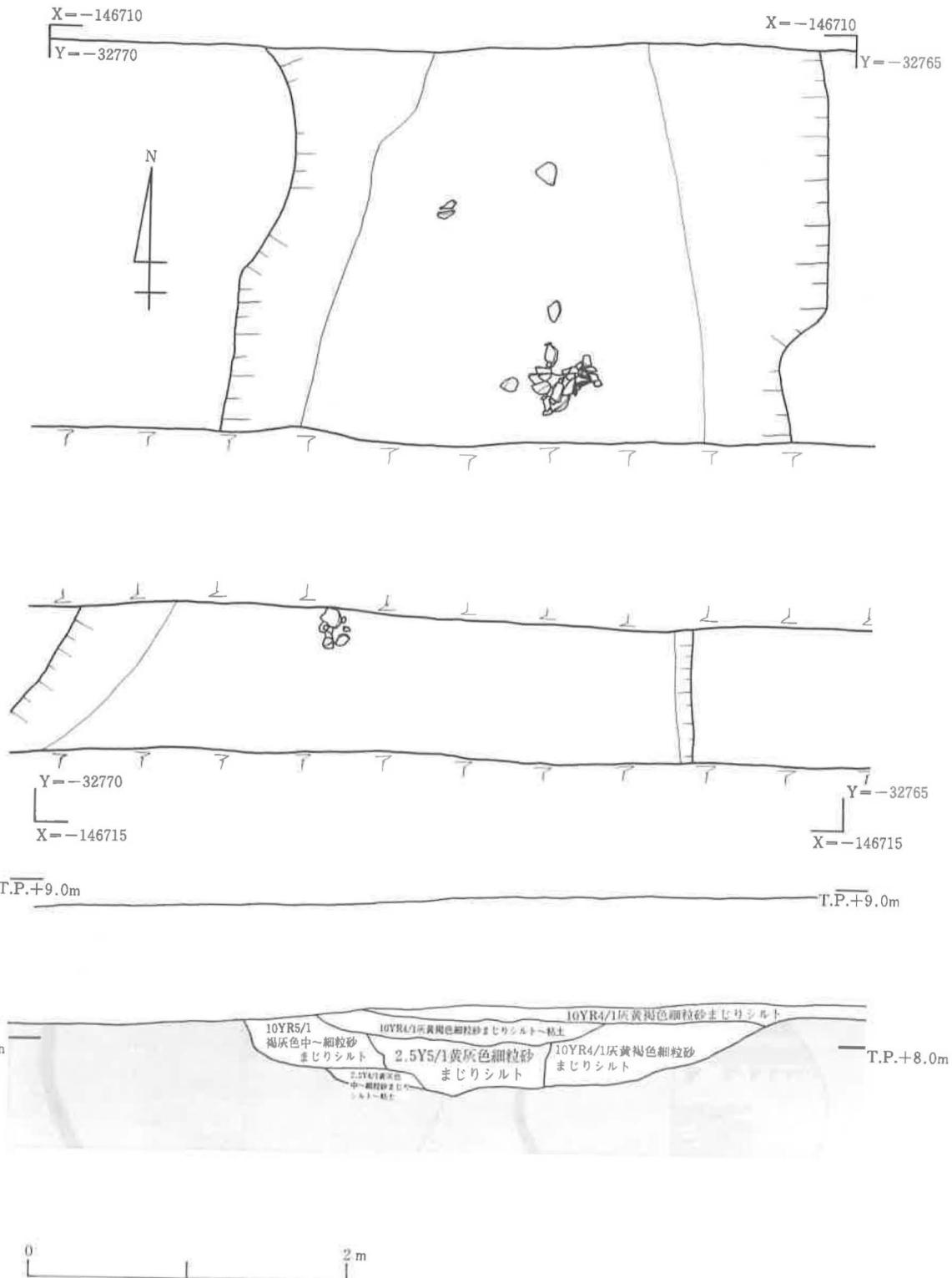
第21図 土壙17実測図



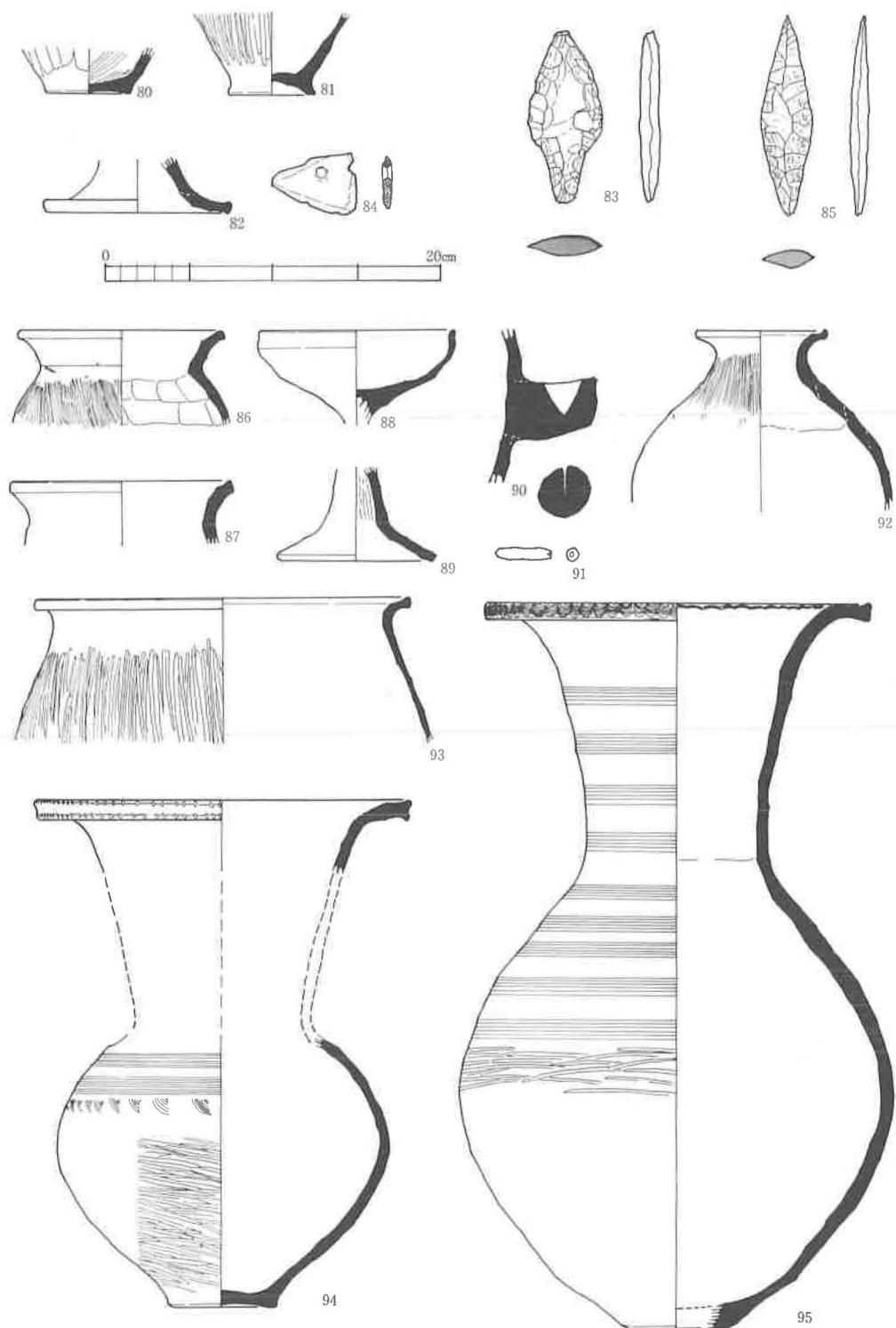
第22図 弥生時代の遺構実測図 ( $S=1/200$ )



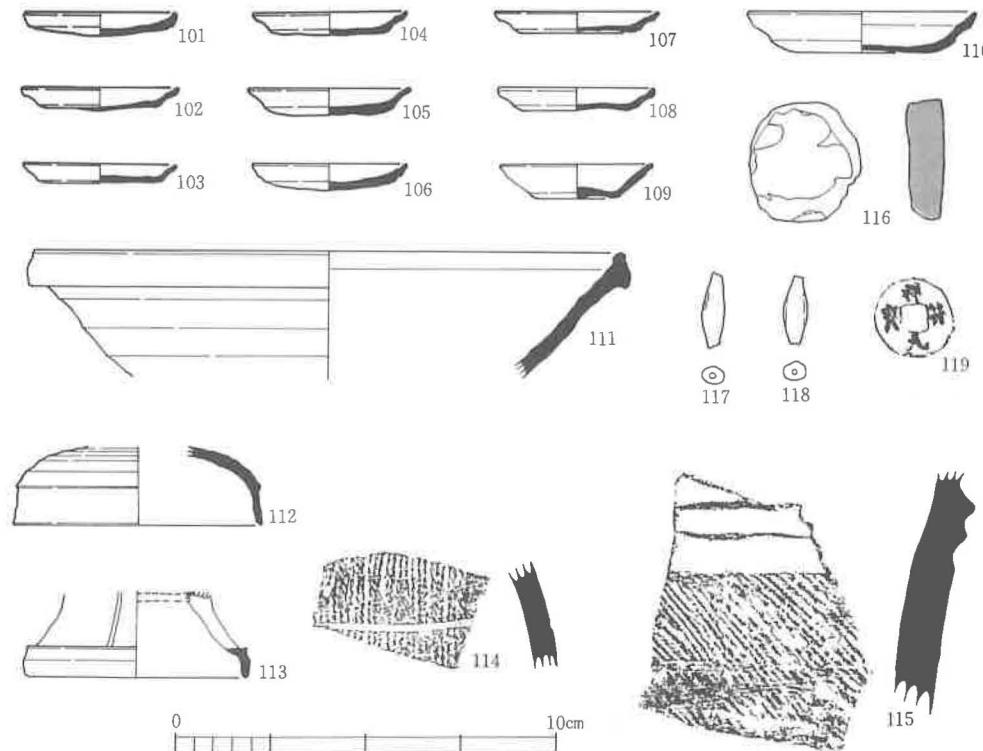
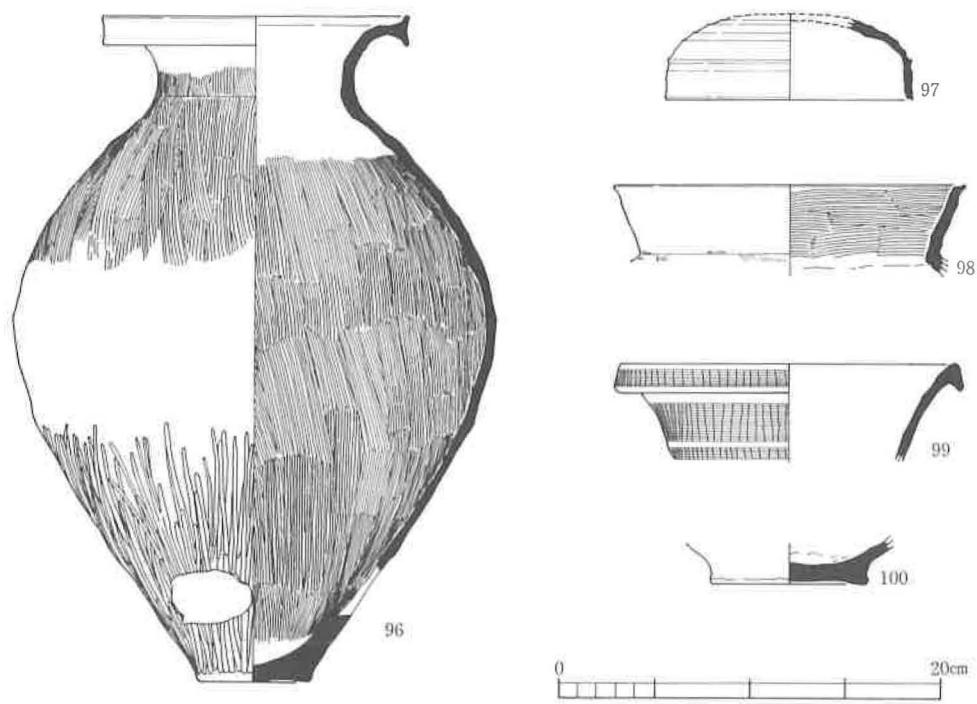
第22図 弥生時代の遺構実測図 ( $S=1/200$ )



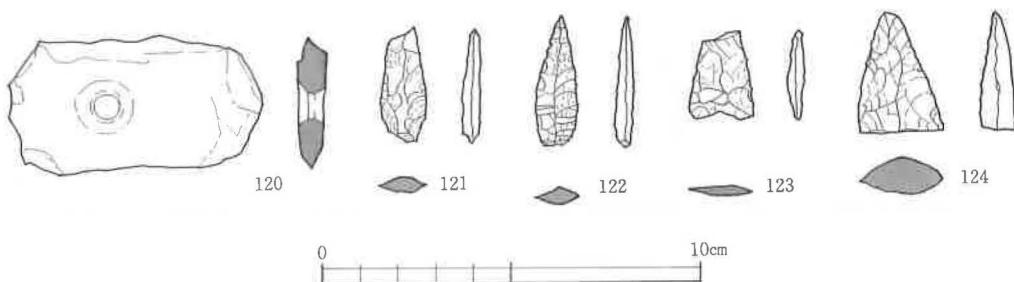
第23図 落ち込み1実測図



第24図 溝20・21、落ち込み1出土遺物実測図



第25図 土壌7・8・9・16、第9層出土遺物実測図 (114・115・119はS=1/2)



第26図 第9層出土遺物実測図

## V 出土木製品の樹種同定

パリノ・サーヴェイ株式会社

### はじめに

西ノ辻遺跡(東大阪市西石切町～弥生町所在)は、生駒山西麓の低位段丘上に位置する。西ノ辻遺跡では、これまでに弥生時代中期から室町時代までの遺構・遺物が検出されている。今回の発掘調査では中世の井戸址が検出され、内部から同時代のものと推定される木製品が出土した。

今回の分析調査では、井戸址内から出土した木製品(容器底板3点・包丁柄1点・鎌柄4点)8点について材同定を行い、中世木製品の用材選択について検討を行う。

### 1. 試料

試料は、中世井戸(井戸01, 05)から出土した木製品8点(井戸01: 6点, 井戸05: 2点)である。

### 2. 方法

剃刀の刃を用いて、試料の木口(横断面)・柾目(放射断面)・板目(接線断面)の3断面の徒手切片を作製し、ガム・クロラール(抱水クロラール、アラビアゴム粉末、グリセリン、蒸留水の混合液)で封入し、プレペラートを作製した。作製したプレペラートは、生物顕微鏡で木材組織の特徴を観察し、同定した。

### 3. 結果

試料は、マツ属複維管束亜属の一種1点(014)、ヒノキ属の一種3点(011-013)、コナラ属アカガシ亜属の一種1点(015)、クリ1点(047)、シイノキ属の一種2点(016、046)であった(表1)。各種類の主な解剖学的特徴や現生種の一般的性質等を以下に記す。なお和名・学名等は、主として「原色日本植物図鑑 木本編II」(北村・村田, 1979)に従い、現生種の一般的性質等については「木の事典 第2巻～第7巻」(平井, 1979-1980)も参考にした。

・マツ属複維管束亜属の一種(*Pinus* subgen.*Diploxylon* sp.) マツ科

早材部から晩材部への移行は急～やや緩やかで、晩材部の幅は広く、年輪界は明瞭。樹脂細胞はなく、樹脂道が認められる。放射組織は仮道管、柔細胞とエピセリウム細胞よりなり、分

野壁孔は窓状、仮道管内壁には顕著な鋸歯状の突出が認められ、単列、1～15細胞高のものと水平樹脂道をもつ紡錘形のものがある。

複維管束亜属(いわゆる二葉松類)には、アカマツ(*Pinus densiflora* Sieb. et Zucc.)、クロマツ(*P.thunbergii* Parlatoore)、リュウキュウマツ(*P.luchuensis* Mayr)の3種がある。アカマツとクロマツは本州・四国・九州に分布するが、クロマツは暖地の海沿いに多く生育し、また古くから砂防林として植栽されてきた。リュウキュウマツは琉球列島特産である。材は重硬で強度が大きく、保存性は中程度であるが耐水性に優れる。建築・土木・建具・器具・家具材など広い用途が知られている。

ヒノキ属の一種(*Chamaecyparis* sp.) ヒノキ科

早材部から晩材部への移行は緩やか～やや急で、晩材部の幅は狭く、年輪界は明瞭。樹脂細胞は晩材部に限って認められ、樹脂道はない。放射仮道管はなく、放射柔細胞の壁は滑らか、分野壁孔はヒノキ型で1～4個。放射組織は単列、1～15細胞高。

ヒノキ属には、ヒノキ(*Chamaecyparis obtusa* (Sieb. et Zucc.) Endlicher)とサワラ(*C.pisifera* (Sieb. et Zucc.) Endlicher)の2種がある。ヒノキは本州(福島県以南)・四国・九州に分布し、また各地で植栽される常緑高木で、国内ではスギに次ぐ植林面積を持つ重要樹種である。材はやや軽軟で加工は容易、割裂性は大きいが、強度・保存性は高い。建築・器具材など各種の用途が知られている。サワラは本州(岩手県以南)・九州に自生し、また植栽される高木で多くの園芸品種がある。材は軽軟で割裂性は大きく、加工も容易、強度的にはヒノキに劣るが耐水性が高いため、樽や桶にするほか各種の用途がある。

・コナラ属アカガシ亜属の一種(*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis* sp.) ブナ科

放射孔材で、管壁厚は中庸～厚く、横断面では楕円形、単独で放射方向に配列する。道管は單穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、放射組織との間では柵状となる。放射組織は同性、単列、1～15細胞高のものと複合組織よりなる。柔組織は短接線上および散在状。柔細胞はしばしば結晶を含む。年輪界は不明瞭。

アカガシ亜属(カシ類)には、アカガシ(*Quercus acuta* Thunberg)、イチイガシ(*Q.gilva* Blume)、アラカシ(*Q.glaucia* Thunberg)など7種があるが、果実の構造からコナラ亜属に分類される常緑低木～小高木のウバメガシ(*Q.phillyraeoides* Asa Gray)も、材構造上はカシ類と類似する。カシ類は、暖温帶常緑広葉樹林(いわゆる照葉樹林)の主要な構成種であり、主として西南日本に分布する。このうち最も高緯度地域にまで分布するのがアカガシで、宮城・新潟県が北限である。材は重硬・強韌で、器具・機械・建築・薪炭材などに用いられる。また種子は食用となる。

・クリ(*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.) ブナ科

環孔材は孔圈部は1～4列、孔圈外で急激に管径を減じたのち漸減しながら火炎状に配列する。大道管は単独、横断面では円形～楕円形、小道管は単独および2～3個が斜(放射)方向に複合、横断面では角張った楕円形～多角形、ともに管壁は薄い。道管は單穿孔を有し、壁孔は交互状に

配列、放射組織との間では柵状～網目状となる。放射組織は同性、単列、1～15細胞高。柔組織は周囲状および短接線状。年輪界は明瞭。

クリは北海道南西部・本州・四国・九州の山野に自生し、また植栽される落葉高木である。材はやや重硬で、強度は大きく、加工はやや困難であるが耐朽性が高い。土木・建築・器具・家具・薪炭材、舟木や海苔粗朶などの用途が知られている。樹皮からはタンニンが採られ、果実は食用となる。各地の遺跡からの出土例の多い樹種の一つである。

・シイノキ属の一種(*Castanopsis* sp.) ブナ科

環孔材～放射孔材で孔圈部は3～4列、孔圈外で急激に管径を減じたのち漸減しながら火炎状に配列する。大道管は単独、横断面では梢円形、小道管は単独および2～3個が斜(放射)方向に複合、横断面では角張った梢円形～多角形、ともに管壁厚は中庸～薄い。道管の穿孔は單穿孔であるが、小道管には1～6段前後の階段穿孔が現れることがある。道管内壁の壁孔は交互状に配列、放射組織との間では柵状～網目状となる。放射組織は同性、単列、1～20細胞高。柔組織は周囲状、散在状および短接線状。年輪界は明瞭。

シイノキ属には、ツブラジイ(コジイ)(*Castanopsis cuspidata* (Thunberg) Schottky)とその変種スダジイ(*C. cuspidata* var.*sieboldii*(Makino) Nakai)がある。この内、典型的なツブラジイは集合～複合放射組織が存在することで分けられる。しかし、ツブラジイの中にも集合～複合放射組織の出現頻度が少なく、作成した切片に観察できないときがある。したがって、集合～複合放射組織があらわれればツブラジイと同定できるが、あらわれないからスダジイであるとはいえない。

シイノキ属は、カシ類とともに、暖温帯常緑広葉樹林の主要構成種である。ツブラジイは本州(伊東半島以西南)・四国・九州に、スダジイは本州(福島・新潟県以南)・四国・九州・琉球に分布し、また植栽される高木である。一般には、スダジイが沿海地、ツブラジイが内陸地に生育する。材はやや重硬で、割裂性は大きく、加工はやや容易、耐朽性は中程度～低い。材質的にはツブラジイはスダジイより劣るものとされている。薪炭材としての用途が最も多く、器具・家具・建築材などにも用いられる。種子は食用となり、樹皮はタンニン原料となる。

#### 4. 考察

各用途の種類は、容器底板がヒノキ属、包丁柄がマツ属複維管束亞属、鎌柄がアカガシ亞

番号	出土遺構	器種	時代	樹種名
011	井戸01	容器底板	中世	ヒノキ属の一種
012	井戸01	容器底板	中世	ヒノキ属の一種
013	井戸01	容器底板	中世	ヒノキ属の一種
014	井戸01	包丁柄	中世	マツ属複維管束亞属の一種
015	井戸01	鎌柄	中世	コナラ属アカガシ亞属の一種
016	井戸01	鎌柄	中世	シイ属の一種
046	井戸05	鎌柄	中世	シイ属の一種
047	井戸05	鎌柄	中世	クリ

第5表 出土材の樹種同定結果一覧表

属・シイノキ属・クリであった。

容器底板については、本遺跡周辺でこれまでに同様の木製品について同定を行った例は知られていない。しかし、他地域では曲物底板などの木製品にヒノキ属が多く用いられており(島地・伊東1988)、今回の結果はこれまでの傾向と調和する。また、市内では鬼虎川遺跡などから出土した弥生時代を主とする板材にヒノキ属が多く同定され(例えば、嶋倉, 1990; 松田, 1980等)、弥生時代以降板状の加工を施す木製品にヒノキ属が多く用いられたことが示唆される。ヒノキ属が多く用いられた背景には、加工が容易であること、水湿に強いこと、入手が比較的容易であつたこと等が考えられる。

包丁柄に使用されているマツ属複維管束亜属(いわゆる二葉松類)は、針葉樹材の中では比較的堅い材質をもつ。中世の包丁の柄に用いられる材に、どの程度の強度や加工性が要求されたのかは不明であるが、遺物の実測図を見る限り、金属製の刃をはめ込む場所には高い加工性が必要であつたと思われる。加工性と強度の両方を兼ね備えた木材としてマツ属複維管束亜属が選択された可能性があるが、断定はできな。

鎌柄には3種類が使用されていたが、いずれもブナ科の堅い木材である。特にアカガシ亜属は、農具の柄としても多く用いられ(島地・伊東, 1988)、東大阪市内でも時代は異なるが、鬼虎川遺跡第4・5次調査(林ほか, 1988)等で報告されている。また、シイノキ属も鬼虎川遺跡7次調査(島地ほか, 1987)で報告されている。今回の結果も弥生時代の例と同様に、堅く丈夫な木材を選択した結果と考えられる。また、このような用材選択が弥生時代以降継続して行われていたと考えられる。

## 5まとめ

今回の結果は、いずれも用途も使用する木材の強度や加工性等を把握した上で適切な用材選択があったことを伺わせる。このような傾向は、周辺の遺跡から出土した弥生時代を中心とする木製品の材同定結果でも見られ、弥生時代以降適材適所の用材選択が継続して行われていたことを示唆する。本地域における中世木製品の用材選択に関する資料は、弥生時代の資料と比較するとはるかに少ない。したがって、今後同様の木製品が出土した際には、可能な限り材同定を行い資料の蓄積を行う必要がある。

## 文献

- 林 昭三・島地 謙・植田弥生(1988)出土木製品の樹種(第4・5次)。「鬼虎川遺跡調査概要 I 遺物編 木製品」, p.69-94, 財団法人東大阪市文化財協会。  
平井信二(1979-1980)木の事典 第2巻~第7巻。かなえ書房。  
北村四郎・村田 源(1979)原色日本植物図鑑 木本編 (II), 545p, 保育社。  
松田隆嗣(1980)木製遺物の樹種について。「瓜生堂 近畿自動車道天理~吹田線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一本文編一」, p.445-448, 財団法人大阪文化財センター。

島地 謙・伊東隆夫編(1988)日本の遺跡出土木製品総覧。296p, 雄山閣。

島地 謙・林 昭三・植田弥生(1987)鬼虎川遺跡出土木製品の樹種(第7次)。「鬼虎川の木質遺物—第7次発掘調査報告書 第4冊一。p.39-67, 財団法人東大阪市文化財協会。

嶋倉巳三朗(1990)東大阪市鬼虎川遺跡から出土した加工木の樹種。「鬼虎川遺跡第1次~3次発掘調査報告」, p.54-56, 財団法人東大阪市文化財協会。

## VI まとめ

西ノ辻遺跡第30次発掘調査では、以上のような資料を得ることができた。以下では、調査成果と今後の課題について列挙しまとめとしたい。

### 室町時代から鎌倉時代

当期では、井戸・土壙・溝・柱穴・土壙墓などの集落を構成する遺構を確認することができた。遺構の重複関係や出土遺物からみて検出した遺構は、鎌倉時代初め頃のものと鎌倉時代末から室町時代のものに大別できる。

同期の建物跡やその配置については、根石をもつ柱穴をはじめ多数の柱穴が検出されているもののこれまでのところ復原するに至っていない。

調査地周辺での集落内にある土壙墓の検出例は、本例を加え11例を数える。これらの土壙墓は、鎌倉時代から室町時代のもので集落の各所に散在している。本例は、男性2人を同時に埋葬している点や被葬者の頭位の点で他の諸例と異なっている。集落内の居住空間に墓を造営することは、弥生時代から鎌倉時代まで認められず当期から始まる。その歴史的意義については、今後の検討に委ねる。

### 古墳時代

本調査では5世紀末から6世紀初頭ころの遺物を含む土壙1基を検出したのみである。調査地点の西側にあたる鬼虎川遺跡第33次発掘調査で同期の竪穴住居や掘立柱建物が検出されていることから、当期の集落は本調査区の北西寄りに存在していたものと推定できる。

### 弥生時代

本調査区の東側の地点や西側の鬼虎川遺跡では中期の方形周溝墓群が確認されているものの、本調査では中期の溝・土壙・落ち込みを検出したのみである。弥生時代中期以降の削平を考慮にいれても同期の遺構は少ない。したがって、本調査地点付近が同期の鬼虎川遺跡と西ノ辻遺跡との境界部分にあたるという従来からの推定を追認する結果となった。

西ノ辻遺跡30次調査遺構一覧表

整理遺構名	番号	検出面	位置	平面形	東西長(cm)	南北長(cm)	深さ(cm)	埋 土	時 期	種 類	器 物
pit	1	地山上面	A地区	円形	25.0	15以上		10Y R4/3 細粒砂混シルト	中世		
pit	2	地山上面	A地区	円形	21.0	9以上	2.0	10Y R4/3 細粒砂混シルト	中世		
pit	3	地山上面	A地区	円形	23.0	20.0	3.0	2.5Y3/2 細粒砂混シルト	中世		
pit	4	地山上面	A地区	楕円形	11.5	19.5	4.5	2.5Y4/1 中粒砂～細粒砂混シルト	中世		
pit	5	地山上面	A地区	楕円形	10.5	15.0	2.0	2.5Y4/1 中粒砂～細粒砂混シルト	中世		
pit	6	地山上面	A地区	楕円形	30.0	7以上	2.5	2.5Y4/2 中粒砂～極細粒砂混シルト～粘土	中世		
pit	7	地山上面	A地区	円形	15.0	15.0	2.5	2.5Y3.5/2 中粒砂～極細粒砂混シルト～粘土	中世		
pit	8	地山上面	A地区	円形	10.0	7.5	3.0	2.5Y3.5/2 中粒砂～極細粒砂混シルト～粘土	中世		
pit	9	地山上面	A地区	円形	13.0	9.5	3.0	2.5Y3.5/2 中粒砂～極細粒砂混シルト～粘土	中世		
pit	10	地山上面	A地区	円形	13.5	11.5	5.5	2.5Y4/1.5 中粒砂～細粒砂混シルト	中世		
pit	11	地山上面	A地区	円形	6.5	8.0	3.0	2.5Y4/1.5 中粒砂～細粒砂混シルト	中世		
pit	12	地山上面	A地区	円形	11.0	13.0	2.5	2.5Y4/1.5 中粒砂～細粒砂混シルト	中世		
pit	13	地山上面	A地区	円形	6.0	7.0	2.0	2.5Y4/1.5 中粒砂～細粒砂混シルト	中世		
pit	14	地山上面	A地区	楕円形	8.5	12.0	2.5	10Y R3/1.5 中粒砂混シルト	中世		
pit	15	地山上面	A地区	円形	13.0	12.0	3.5	10Y R3/1.5 中粒砂混シルト	中世		
pit	16	地山上面	A地区	円形	15.0	10.5以上	4.0	10Y R3/1 中粒砂混シルト	中世		
pit	17	地山上面	A地区	円形	10.5	11.0	2.5	10Y R3/1 中粒砂混シルト	中世		
pit	18	地山上面	A地区	円形	10.0	8.0	3.5	10Y R3/1 中粒砂混シルト	中世		
pit	19	地山上面	A地区	楕円形	9.0	15.0	3.0	10Y R3/1 中粒砂混シルト	中世		
pit	20	地山上面	A地区	楕円形	14.0	10.0	5.5	10Y R3/2 中粒砂混シルト	中世		
pit	21	地山上面	A地区	円形	31.0	26.0	30.0	2.5Y4/2 中粒砂～細粒砂混シルト	中世		
pit	22	地山上面	B地区	楕円形	23.0	32.0	4.5	2.5Y3.5/2 細粒砂～極細粒砂混シルト～粘土	中世		
pit	23	地山上面	B地区	円形	30.0	31.0	4.5	2.5Y3.5/2 中粒砂～極細粒砂混シルト～粘土	中世		
pit	24	地山上面	B地区	円形	25.0	29.0	13.5	2.5Y4/1 細粒砂～極細粒砂混シルト～粘土	14世紀後半	瓦器 土師器	椀
pit	25	地山上面	B地区	円形	31.5	38.5	23.5	2.5Y3.5/2 中粒砂～極細粒砂混シルト	中世		
pit	26	地山上面	B地区	楕円形	24.0	38.5	3.0	2.5Y3.5/1 細粒砂～極細粒砂混シルト～粘土	中世		
pit	27	地山上面	B地区	円形	32.5	29.0	16.5	2.5Y3.5/1 細粒砂～極細粒砂混シルト～粘土	中世		
pit	28	地山上面	B地区	円形	27.0	27.5	12.5	2.5Y3.5/2 細粒砂～極細粒砂混シルト～粘土	中世		
pit	29	地山上面	B地区	楕円形	28.0	40.5	15.0	2.5Y3.5/1 細粒砂～極細粒砂混シルト～粘土	中世	土師器 須恵器	
pit	30	地山上面	B地区	円形	28.0	33.0	7.0	2.5Y3.5/2 細粒砂～極細粒砂混シルト～粘土	中世	瓦器 土師器	椀 皿
pit	31	地山上面	B地区	円形	29.0	31.0	18.0	2.5Y3.5/1 細粒砂～極細粒砂混シルト	中世		
pit	32	地山上面	B地区	円形	13.0	11.5	2.0	2.5Y3.5/1 細粒砂～極細粒砂混シルト	中世		
pit	33	地山上面	B地区	円形	12.5	11.0	4.0	2.5Y3.5/1 細粒砂～極細粒砂混シルト	中世		
pit	34	地山上面	B地区	円形	11.0	10.5	19.0	2.5Y3.5/2 中粒砂混シルト	中世		
pit	35	地山上面	C地区	楕円形	62.5	12以上	38.0	2.5Y4/2 中粒砂～極細粒砂混シルト～粘土	中世	弥生土器	
pit	36	地山上面	C地区	楕円形	34.0	15以上	2.0	2.5Y4/1 中粒砂～極細粒砂混シルト～粘土	中世		
pit	37	地山上面	C地区	円形	26.5	28.0	14.0	2.5Y3.5/1 中粒砂～極細粒砂混シルト～粘土	中世	土師器	皿 箕
pit	38	地山上面	C地区	楕円形	49.0	26.0	18.0	2.5Y3.5/2 中粒砂～極細粒砂混シルト～粘土	中世	瓦器 土師器	椀 皿
pit	39	地山上面	C地区	楕円形	21.0	18.5以上	21.0	2.5Y4/1 細粒砂～極細粒砂混シルト	中世	瓦器 土師器 黒色土器	椀 皿

第6表 西ノ辻遺跡第30次調査遺構一覧表

整理遺構名	番号	検出面	位置	平面形	東西長(cm)	南北長(cm)	深さ(cm)	埋 土	時 期	種 類	器 物
pit	40	地山上面	C地区	楕円形	32.5	13.5以上	51.5	2.5Y3.5/1 中粒砂～極細粒砂混シルト	中世	瓦器 土師器 磁器	碗 皿 筒 青磁碗
pit	41	地山上面	C地区	円形	6.5	5.5	2.0	2.5Y4/2 細粒砂～極細粒砂混シルト～粘土	中世		
pit	42	地山上面	C地区	円形	30.5	31.5	53.0	2.5Y4/2 細粒砂～極細粒砂混シルト～粘土	13世紀	瓦器 土師器 須恵器 弥生土器	碗 皿
pit	43	地山上面	C地区	長方形	39.5	25.0	58.0	5 Y3.5/2 細粒砂～極細粒砂混シルト	中世	土師器 弥生土器	皿 筒
pit	44	地山上面	C地区	円形	26.5	25.0	40.0	2.5Y3.5/2 極細粒砂混シルト～粘土	中世		
pit	45	地山上面	C地区	円形	17.5	16.5	56.0	2.5Y3.5/2 極細粒砂混シルト～粘土	中世		
pit	46	地山上面	C地区	円形	11.0	9.0	5.0	2.5Y3.5/1 極細粒砂混シルト～粘土	中世		
pit	47	地山上面	C地区	楕円形	25以上	17以上	30.0	2.5Y3/2 傾細粒砂混シルト～粘土	中世		
pit	48	地山上面	C地区	円形	29.0	36.0	30.0	5 Y4/1 細粒砂混シルト～粘土	中世	土師器	皿
pit	49	地山上面	C地区	楕円形	40.5	46以上	7.0	5 Y4/1 粗粒砂混シルト～粘土	中世	土師器 錢貨	
pit	50	地山上面	C地区	楕円形	40.0	29.0	11.0	5 Y3/1.5 中粒砂～極細粒砂混シルト	中世		
pit	51	地山上面	C地区	円形	43.0	39.0	22.0	2.5Y4/1 細粒砂混シルト	13世紀	瓦器 土師器 弥生土器	碗 皿
pit	52	地山上面	C地区	円形	12.0	11.0	11.0	10Y3/1 極細粒砂混シルト	中世		
pit	53	地山上面	C地区	円形	31.0	35.0	7.0	10Y3/1 極細粒砂混シルト	中世	瓦器 土師器	碗
pit	54	地山上面	C地区	円形	16.0	15.0	17.0	5 Y3/1 細粒砂混シルト	中世	瓦器 土師器	碗
pit	55	地山上面	C地区	楕円形	26.0	19.0	18.0	2.5Y3/1.5 極細粒砂混シルト	中世	瓦器 土師器 弥生土器	碗 皿 蓋
pit	56	地山上面	C地区	円形	8.0	7.0	15.0	10Y R2/2 シルト～粘土	中世		
pit	57	地山上面	C地区	円形	14.0	14.0	20.0	10Y R2/2 シルト～粘土	中世		
pit	58	地山上面	C地区	円形	9.0	9.0	8.0	10Y R3/1 細粒砂混シルト	中世		
pit	59	地山上面	C地区	円形	23.0	21.0	21.0	10Y R3/1 細粒砂混シルト	中世	瓦器 土師器	
pit	60	地山上面	C地区	円形	31.0	36.0	25.0	5 Y3/1 細粒砂混シルト～粘土	中世	瓦器 土師器	碗
pit	61	地山上面	C地区	楕円形	31.5	38.0	21.0	2.5Y3.5/2 細粒砂混シルト～粘土	中世	土師器 須恵器 弥生土器	皿 蓋
pit	62	地山上面	C地区	円形	8.0	11.0	5.0	2.5Y3.5/2 極細粒砂混シルト～粘土	中世	瓦器	碗
pit	63	地山上面	C地区	円形	16.0	19.0	3.0	5 Y3/1 シルト～粘土	中世	須恵器	
pit	64	地山上面	C地区	円形	16.0	14.5	3.5	5 Y3/1 シルト～粘土	中世		
pit	65	地山上面	C地区	円形	9.0	9.5	6.0	2.5Y3.5/2 中粒砂混シルト～粘土	中世		
pit	66	地山上面	C地区	楕円形	73.0	67.0	62.0	2.5Y3.5/2 極細粒砂混シルト～粘土	中世	瓦器 土師器 須恵器 弥生土器	碗 皿 蓋

第6表 西ノ辻遺跡第30次調査遺構一覧表

整理遺構名	番号	検出面	位置	平面形	東西長(cm)	南北長(cm)	深さ(cm)	性質	土	時期	種類	器種
pit	67	地山上面	C地区	円形	18.0	32.0	61.0	5 Y4/1	中粒砂混シルト～粘土	中世	瓦器 土師器 須恵器 弥生土器 石製品	椀
pit	68	地山上面	C地区	円形	8.0	9.0	15.5	5 Y3.5/1	極細粒砂混シルト～粘土	中世	土師器 須恵器	
pit	69	地山上面	C地区	円形	12.0	11.0	30.0	5 Y3.5/1	極細粒砂混シルト～粘土	中世		
pit	70	地山上面	C地区	楕円形	26.0	21.0	2.5	7.5Y3.5/1	細粒砂混シルト～粘土	中世		
pit	71	地山上面	C地区	楕円形	12.0	15.0	5.0	2.5Y3.5/1	極細粒砂混シルト～粘土	中世		
pit	72	地山上面	C地区	円形	28.0	30.0	32.0	2.5Y4/2	中粒砂混シルト～粘土	中世	瓦器 土師器 須恵器 石製品	椀 皿 甌 土鍾
pit	73	地山上面	C地区	方形	20.0	19.0	10.5	2.5Y4.5/1	シルト	中世	瓦器	椀
pit	74	地山上面	C地区	円形	27.0	28.0	26.0	2.5Y4.5/1	シルト	中世	瓦器 土師器 須恵器	椀 皿
pit	75	地山上面	C地区	円形	17.5	16.0	11.5	2.5Y4.5/1	シルト	中世	須恵器	
pit	76	地山上面	C地区	楕円形	17.0	25.0	5.0	2.5Y4/1	中粒砂混細粒砂～極細粒砂混シルト	中世	瓦器 土師器 須恵器	椀 皿
pit	77	地山上面	C地区	楕円形	36.5	30.0	21.0	2.5Y4/1	中粒砂混細粒砂～極細粒砂混シルト	中世	瓦器 土師器 弥生土器	
pit	78	地山上面	C地区	円形	27.5	27.0	3.0	10YR3/1	中粒砂混細粒砂～極細粒砂混シルト	中世	土師器	
pit	79	地山上面	C地区	円形	21.0	23.0	24.0	2.5Y4/1	中粒砂混細粒砂～極細粒砂混シルト	中世		
pit	80	地山上面	C地区	楕円形	27.0	46.0	6.5	2.5Y4/1	中粒砂混細粒砂～極細粒砂混シルト	中世		
pit	81	地山上面	C地区	円形	27.0	30.0	61.0	2.5Y4/1	中粒砂混細粒砂～極細粒砂混シルト	中世	瓦器 土師器	椀
pit	82	地山上面	C地区	円形	13.0	13.0	3.0	2.5Y4/1	中粒砂混細粒砂～極細粒砂混シルト	中世		
pit	83	地山上面	C地区	円形	47.0	52.0	39.0	2.5Y4/1	中粒砂混細粒砂～極細粒砂混シルト	12世紀	瓦器 土師器 陶器	椀
pit	84	地山上面	C地区	楕円形	10.0	7.0	6.0	2.5Y3/1	中粒砂混細粒砂～極細粒砂混シルト	中世		
pit	85	地山上面	C地区	楕円形	33.0	20.0	17.0	2.5Y4/1	中粒砂混細粒砂～極細粒砂混シルト	中世	瓦器 土師器 弥生土器	椀 皿
pit	86	地山上面	C地区	円形	36.0	36.0	19.0	10YR2.5/1	中粒砂混細粒砂～極細粒砂混シルト	中世	瓦器 土師器	椀 皿
pit	87	地山上面	C地区	円形	22.0	25.0	29.0	5 Y4/1	中粒砂混極細粒砂混シルト	中世	瓦器 土師器	椀 皿
pit	88	地山上面	C地区	円形	3.0	3.0	9.5	2.5Y4/2	シルト	中世		
pit	89	地山上面	C地区	円形	4.0	5.0	8.5	2.5Y4/2	シルト	中世		
pit	90	地山上面	C地区	円形	3.0	3.0	10.0	2.5Y4/2	シルト	中世		
pit	91	地山上面	C地区	楕円形	30.0	21.0	45.5	2.5Y3/2	細粒砂～シルト	中世	瓦器 土師器	椀 皿

第6表 西ノ辻遺跡第30次調査遺構一覧表

整理遺構名	番号	検出面	位置	平面形	東西長(cm)	南北長(cm)	深さ(cm)	埋 土	時期	種類	器 種
pit	92	地山上面	D地区	楕円形	16以上	31.0	12.0	2.5Y3.5/1 極細粒砂混シルト～粘土	中世		
pit	93	地山上面	C地区	方形	30.0	27.0	21.5	2.5Y3/1 中粒砂混シルト～粘土	中世	瓦器 土師器	碗 皿
pit	94	地山上面	C地区	円形	3.0	3.0	9.0	2.5Y2/1 細粒砂混シルト	中世		
pit	95	地山上面	C地区	円形	3.0	3.0	13.5	2.5Y4/2 シルト	中世		
pit	96	地山上面	C地区	円形	3.0	4.0	20.0	2.5Y3/1 粗粒砂～中粒砂混シルト	中世		
pit	97	地山上面	C地区	円形	19.0	24.0	11.5	2.5Y4/1.5 中粒砂混シルト	中世	瓦器 土師器	碗 皿
pit	98	地山上面	C地区	円形	10以上	13.0	3.5	5 Y3/1 極細粒砂混シルト～粘土	中世		
pit	99	地山上面	C地区	円形	24.5	23.5	28.0	2.5Y3.5/1 中粒砂～極細粒砂混シルト～粘土	中世	瓦器 土師器	碗 皿
pit	100	地山上面	C地区	円形	4.0	5.0	11.5	2.5Y3/2 細粒砂混シルト	中世		
pit	101	地山上面	C地区	円形	11.0	11.0	6.0	5 Y3/1 中粒砂混シルト～粘土	中世		
pit	102	地山上面	C地区	楕円形	25.0	18.0	35.0	5 Y3/1 粗粒砂～中粒砂混シルト～粘土	中世	瓦器 土師器	碗 皿
pit	103	地山上面	C地区	円形	17.5	16.0	22.0	5 Y3.5/2 極細粒砂混シルト～粘土	14世紀	土師器	皿
pit	104	地山上面	C地区	円形	13以上	20.0	12.0	5 Y3/1 極細粒砂混シルト～粘土	中世		
pit	105	地山上面	C地区	円形	7.0	9.0	15.0	5 Y3/1 極細粒砂混シルト～粘土	中世		
pit	106	地山上面	C地区	円形	23.0	22.5	22.0	2.5Y3/2 粗粒砂～中粒砂混シルト～粘土	中世		
pit	107	地山上面	C地区	円形	22.0	22.0	22.0	5 Y3/1 中粒砂～極細粒砂混シルト～粘土	中世	土師器	皿
pit	108	地山上面	C地区	円形	52.0	45.0	30.0	5 Y2/1 中粒砂～極細粒砂混シルト～粘土	中世	瓦器 土師器 須恵器	碗 皿
pit	109	地山上面	C地区	円形	14.5以上	16.5	10.0	2.5Y3/1.5 中粒砂～極細粒砂混シルト～粘土	中世	土師器	
pit	110	地山上面	C地区	円形	23.0	22.0	17.0	2.5Y3/1 中粒砂～極細粒砂混シルト～粘土	中世	瓦器 土師器	碗 皿
pit	111	地山上面	A地区	円形	16以上	25.0	15.0	2.5Y3/1 極細粒砂混シルト～粘土	中世	土師器 弥生土器	碗 鐸
pit	112	地山上面	D地区	円形	6以上	12.5	15.0	5 Y3/2 極細粒砂混シルト～粘土	中世		
pit	113	地山上面	D地区	円形	9.0	11.0	11.0	2.5Y3/3 極細粒砂混シルト～粘土	中世		
pit	114	地山上面	D地区	円形	28.0	32.0	9.0	2.5Y3/3 極細粒砂混シルト～粘土	中世	瓦器 土師器	碗 皿
pit	115	地山上面	D地区	楕円形	23.5	54.0	4.0	2.5Y3/3 極細粒砂混シルト～粘土	中世	弥生土器	鐸
pit	116	地山上面	D地区	楕円形	27.0	36.0	24.0	2.5Y3/1 極細粒砂混シルト～粘土	中世	瓦器 土師器 須恵器	碗 皿
pit	117	地山上面	D地区	円形	26.0	30.0	32.0	2.5Y3/2 極細粒砂混シルト～粘土	中世	瓦器 土師器	碗 皿
pit	118	地山上面	D地区	円形	17.0	14.0	15.0	2.5Y3/2 中粒砂～極細粒砂混シルト～粘土	中世		
pit	119	地山上面	D地区	円形	8.0	9.5	11.0	2.5Y3/2 極細粒砂混シルト～粘土	中世		
pit	120	地山上面	D地区	円形	10.0	10.0	13.0	2.5Y3/2 細粒砂～極細粒砂混シルト～粘土	中世		
pit	121	地山上面	D地区	円形	26.5	27.5	15.0	2.5Y3/2 細粒砂～極細粒砂混シルト～粘土	中世	瓦器 弥生土器	碗 鐸
pit	122	地山上面	D地区	楕円形	24.0	19.5	24.0	2.5Y3/2 中粒砂～細粒砂混シルト～粘土	中世		
pit	123	地山上面	D地区	円形	23.5	29.0	15.0	2.5Y3/2 中粒砂～細粒砂混シルト～粘土	中世	土師器	皿
pit	124	地山上面	D地区	円形	10.0	13.0	27.0	2.5Y3/2 極細粒砂混シルト～粘土	中世		
pit	125	地山上面	D地区	楕円形	22.5	33.5	22.0	2.5Y3/1 極細粒砂混シルト～粘土	14世紀	瓦器	碗

第6表 西ノ辻遺跡第30次調査遺構一覧表

整理遺構名	番号	検出面	位置	平面形	東西長(cm)	南北長(cm)	深さ(cm)	理 土	時 期	種 類	器 種
pit	125									土師器	皿
pit	126	地山上面	D地区	円形	10.0	9.0	1.5	2.5Y4/2 極細粒砂混シルト～粘土	13世紀		
pit	127	地山上面	D地区	円形	14.0	14.0	2.5	2.5Y4/2 極細粒砂混シルト～粘土	中世		
pit	128	地山上面	D地区	楕円形	17.0	23.0	2.0	2.5Y4/1.5 中粒砂～極細粒砂混シルト～粘土	中世		
pit	129	地山上面	D地区	円形	22.0	24.0	3.0	2.5Y3/1 極細粒砂混シルト～粘土	中世		
pit	130	地山上面	D地区	円形	10.0	9.0	22.0	2.5Y3/2 極細粒砂混シルト～粘土	中世	土師器	
pit	131	地山上面	D地区	楕円形	19以上	34.0	4.0	2.5Y3/1.5 中粒砂～細粒砂混シルト～粘土	中世	弥生土器	
pit	132	地山上面	D地区	楕円形	31.5	26.0	29.0	2.5Y3/1.5 中粒砂～極細粒砂混シルト～粘土	中世	土師器	
pit	133	地山上面	D地区	円形	16.0	14.5	14.0	2.5Y3/2 中粒砂～極細粒砂混シルト～粘土	中世		
pit	134	地山上面	D地区	楕円形	32以上	28.0	35.0	2.5Y3.5/1 細粒砂混シルト～粘土	中世		
pit	135	地山上面	D地区	楕円形	16.0	20.0	13.0	2.5Y4/1.5 極細粒砂混シルト	中世		
pit	136	地山上面	D地区	楕円形	19.0	16.0	11.0	2.5Y3.5/1 細粒砂混シルト～粘土	中世		
pit	137	地山上面	D地区	円形	8.0	10.0	12.0	2.5Y3.5/1 中粒砂混シルト～粘土	中世		
pit	138	地山上面	D地区	円形	11.0	11.0	3.0	2.5Y3.5/1 細粒砂混シルト～粘土	中世		
pit	139	地山上面	D地区	楕円形	36.0	23.0	13.0	2.5Y3/1.5 細粒砂混シルト～粘土	中世	須恵器	
pit	140	地山上面	D地区	楕円形	12.0	14.0	25.0	2.5Y3/3 中粒砂混シルト～粘土	中世	土師器	皿
pit	141	地山上面	D地区	円形	19.0	19.0	10.0	2.5Y3.5/2 細粒砂混シルト～粘土	中世		
pit	142	地山上面	D地区	円形	20.0	22.0	20.5	2.5Y3.5/2 細粒砂混シルト～粘土	中世		
pit	143	地山上面	D地区	方形	28.0	38.0	27.0	2.5Y3.5/2 細粒砂混シルト～粘土	中世		
pit	144	地山上面	D地区	円形	20.0	18.0	15.0	2.5Y4/1 極細粒砂混シルト～粘土	中世	瓦器 土師器	輪 皿
pit	145	地山上面	D地区	円形	8.0	10.0	20.0	2.5Y4/1.5 細粒砂～極細粒砂混シルト～粘土	中世		
pit	146	地山上面	D地区	楕円形	23.0	17.0	22.0	2.5Y3/1.5 細粒砂混シルト～粘土	中世		
pit	147	地山上面	D地区	楕円形	23.0	27.5	20.5	2.5Y3.5/1 細粒砂混シルト～粘土	中世		
pit	148	地山上面	D地区	楕円形	15.0	22.0	15.0	2.5Y4/1.5 細粒砂混シルト～粘土	中世		
pit	149	地山上面	D地区	円形	9.5	10.0	12.0	2.5Y4/1.5 細粒砂混シルト～粘土	中世		
pit	150	地山上面	D地区	楕円形	14.0	9.0	4.0	2.5Y3.5/2 中粒砂～細粒砂混シルト～粘土	中世		
pit	151	地山上面	D地区	方形	18以上	37.0	7.5	2.5Y4/1.5 細粒砂混シルト	中世	土師器	
pit	152	地山上面	D地区	円形	23.0	22.0	3.0	2.5Y3.5/2 細粒砂混シルト	中世	土師器	
pit	153	地山上面	D地区	円形	12.0	12.0		2.5Y4/2.5 中粒砂～細粒砂混シルト	中世	瓦器 土師器	輪
pit	154	地山上面	D地区	楕円形	14.5	18.0	2.5	2.5Y3/3 細粒砂～中粒砂混シルト～粘土	中世	弥生土器	
pit	155	地山上面	D地区	円形	20.0	21.0	15.0	2.5Y3/2 極細粒砂混シルト～粘土	中世		
pit	156	地山上面	D地区	円形	5.5	5.5	9.5	2.5Y3/2 極細粒砂混シルト～粘土	中世		
pit	157	地山上面	D地区	円形	13.5	10.5以上	11.0	10YR2.5/2 極細粒砂混シルト～粘土	中世		
pit	158	地山上面	D地区	円形	10.5	11.0	14.0	5Y3.5/1 極細粒砂混シルト～粘土	中世		
pit	159	地山上面	D地区	楕円形	14.5	17.5	2.0	2.5Y3.5/1 極細粒砂～中粒砂混シルト～粘土	中世		
pit	160	地山上面	D地区	円形	12.5	13.5	15.5	2.5Y3.5/1 中粒砂～細粒砂混シルト～粘土	中世		
pit	161	地山上面	D地区	円形	16.0	19.0	13.0	5Y2.5/2 極粗粒砂～極細粒砂混シルト～粘土	中世	土師器 陶器	皿
pit	162	地山上面	D地区	楕円形	24.0	30.0	26.0	2.5Y3.5/1 極粗粒砂～極細粒砂混シルト～粘土	中世	土師器	
pit	163	地山上面	D地区	楕円形	25.0	27.0	27.0	2.5Y3.5/1 極粗粒砂～極細粒砂混シルト～粘土	中世	土師器	
pit	164	地山上面	D地区	円形	15.0	15.0	3.5	2.5Y3.5/1 極細粒砂混シルト～粘土			
pit	165	地山上面	地区	楕円形	25.0	29以上	34.0	2.5Y3/1 細粒砂混シルト～粘土	中世	瓦器	
pit	166	地山上面	C地区	楕円形	13.0	12以上		2.5Y3.5/1 シルト～粘土	中世		
pit	167	地山上面	C地区	円形	12.0	12.0		2.5Y3/2 極細粒砂混シルト～粘土	中世		
pit	168	地山上面	C地区	楕円形	17.0	13以上		2.5Y3/1.5 極細粒砂混シルト	中世		

第6表 西ノ辻遺跡第30次調査遺構一覧表

整理遺跡名	番号	検出面	位置	平面形	東西長(m)	南北長(m)	深さ(cm)	埋 土	時 期	種 類	器 種
pit	169	地山上面	C地区	楕円形	36.0	38以上		2.5Y3/2 極細粒砂混シルト～粘土	中世	瓦器 土師器	椀 皿
pit	170	地山上面	C地区	円形	32.0	27.0		2.5Y3/1.5 極細粒砂混シルト～粘土	中世		
pit	171	地山上面	C地区	円形	8.0	6.0		2.5Y3/2 極細粒砂混シルト～粘土	中世		
pit	172	地山上面	C地区	円形	14.0	13.0		2.5Y3/2 極細粒砂混シルト～粘土	中世		
pit	173	地山上面	C地区	円形	29.0	13以上		2.5Y2/1 細粒砂混シルト～粘土	中世	弥生土器	
pit	174	地山上面	D地区	円形	31.0	40.0		10YR5/5 シルト～粘土	中世		
pit	175	地山上面	D地区	円形	42.0	40.0		5Y3.5/1 極細粒砂混シルト～粘土	中世		
pit	176	地山上面	D地区	円形	28.0	34.0		2.5Y3.5/1 極細粒砂混シルト～粘土	中世	瓦器 土師器	椀 皿
pit	177	地山上面	D地区	円形	11.0	14.0		2.5Y4/2 極細粒砂混シルト～粘土	中世		
pit	178	地山上面	D地区	円形	16.0	16.5		2.5Y3.5/3 極細粒砂混シルト～粘土	中世		
pit	179	地山上面	D地区	円形	72.0	40.0		10YR4/1 粗粒砂混シルト～粘土	中世	瓦器 土師器 須恵器	椀 皿 筋
pit	180	地山上面	D地区	楕円形	25以上	22以上	5.0	2.5Y3/2.5 粗粒砂混粘土	中世		
pit	181	地山上面	D地区	円形	20.0	21.0	3.0	2.5Y3/2.5 粗粒砂混粘土	中世		
pit	182	地山上面	C地区	円形	10.0		28.5		中世		
pit	183	地山上面	D地区	円形	33.0		7.5		中世		
井戸	1	地山上面	B地区	楕円形	220.0	112以上	402.0	7.5Y3/1 細粒砂混シルト～粘土 10Y3/1 細粒砂混シルト～粘土 7.5Y4/1 中粒砂混シルト～粘土 7.5Y4/1 中粒砂混粘土	15世紀	瓦器 土師器 須恵器 陶器 磁器 瓦 平瓦 九瓦 軒平瓦 弥生土器 木製品 金屬製品 石製品 獸骨	甕 撥り鉢 火舍 築 皿 筋 甕 撥り鉢 青磁碗 瓦 平瓦 九瓦 軒平瓦 壺 高坏 木製品 曲物 錄の柄 金屬製品 包丁 錄 石製品 砥石 白石 獸骨 骨
井戸	2	地山上面	B地区	楕円形	276.0	130.0	428.0	2.5Y4/2 細～極細粒砂混シルト～粘土 2.5Y3/2 粗～極細粒砂混シルト～粘土 2.5Y3/3 粗～極細粒砂混シルト～粘土 2.5Y4/2 極粗～極細粒砂混シルト～粘土 5Y3/1 極粗～極細粒砂混シルト～粘土 2.5Y3/1 板細粒砂混シルト～粘土 5Y4/1 中粒砂混シルト～粘土 5Y4/1 極粗粒砂混シルト 5Y3/1 極粗粒砂混シルト～粘土 10Y3/1 粗粒砂混シルト～粘土 5Y4/1 粗～中粒砂混シルト～粘土 10Y4/1 粗粒砂混シルト	15世紀	瓦器 土師器 須恵器 陶器 土製品 弥生土器	甕 撥り鉢 壺 築 火舍 皿 筋 甕
井戸	3	地山上面	C地区	楕円形	120.0	102.0	424.0		14世紀	瓦器 土師器 須恵器	椀 皿
井戸	4	地山上面	D地区	円形	127.5	64以上		5Y2/2 粗～極細粒砂混シルト～粘土 7.5Y2/1 極粗～粗粒砂混シルト～粘土	中世	瓦器 須恵器	椀

第6表 西ノ辻遺跡第30次調査遺構一覧表

発掘遺構名	番号	検出面	位置	平面形	東西長(cm)	南北長(cm)	深さ(cm)	埋 土	時 期	種 類	器 種
井戸	4							5 Y2/1 シルト～粘土 7.5 Y3/1 細粒砂混シルト～粘土 7.5 Y2/2 シルト～粘土		陶器	
井戸	5	地山上面	D地区	楕円形	164以上	93以上	472.0	2.5 Y3/2 細粒砂混シルト 2.5 Y4/2 細粒砂混シルト～粘土 5 Y2/2 中～細粒砂混シルト～粘土	中世	瓦器 土師器 陶器 木製品 獸骨	輪 撥り鉢 鏡の柄 曲物 亀の甲
井戸	7	地山上面	C地区	円形	192以上	34以上		2.5 Y4/2 中～極細粒砂混シルト 2.5 Y3/2 中～極細粒砂混シルト 2.5 Y4/1 細～極細粒砂混シルト 5 Y3/1 大疊混シルト 2.5 Y4/1 中～極細粒砂混シルト～粘土	12世紀	瓦器 土師器 陶器 瓦 弥生土器 石製品	輪 盆 筋 撥り鉢 皿 瓶 平瓦 丸瓦 軒平瓦 サスカイト片
井戸	6	地山上面	C地区	円形	280以上	100以上		2.5 Y4/1 細粒砂～極細粒砂混シルト 2.5 Y4/2 中～極細粒砂混シルト 7.5 Y R2/2 中～極細粒砂混シルト 5 Y R3/1 中～極細粒砂混シルト 7.5 Y R3/2 シルト混細～板細粒砂 7.5 Y R3/2 シルト混中～板細粒砂 7.5 Y R2/2 シルト混細～板細粒砂 10 Y R4/1 細～極細粒砂混シルト 7.5 Y R2/2 中～極細粒砂混シルト 5 Y R3/2 中～極細粒砂混シルト 2.5 Y4/1 中～極細粒砂混粘土 2.5 Y3/3 中～極細粒砂混シルト 2.5 Y4/2 中～極細粒砂混シルト 10 Y R4/4 中～極細粒砂混シルト	12世紀		
土壤墓	1	地山上面	C地区	楕円形	116.0	58.5	24.5	2.5 Y3.5/3 細粒砂混シルト～粘土	中世		
溝	1	地山上面	B地区		1390以上	42.0	17.0	2.5 Y3/2 大疊～中粒砂混シルト	14世紀	瓦器 土師器 須恵器 陶器 磁器 弥生土器	輪 筋 撥り鉢 皿 瓶 甕 甌 青磁碗
溝	2	地山上面	B地区		49.5	85以上	6.0	10 Y R2/2,5 大疊～中粒砂混シルト	中世		
溝	3	地山上面	B地区		1160.0	32.5	6.5	10 Y R4/2 板細粒砂混シルト	中世	土師器 須恵器	
溝	4	地山上面	B地区		382.5	*242.5	19.5	2.5 Y3/3 中粒砂～極細粒砂混シルト	中世	瓦器 土師器 陶器	盆 播り鉢
溝	5	地山上面	B地区		276.0	52.0	15.0	5 Y3/1 中粒砂～極細粒砂混シルト	中世		
溝	6	地山上面	C地区		170.0	837以上	54.0	10 Y R3/1 極粗粒砂～中粒砂混シルト～粘土	15世紀	瓦器 土師器 須恵器 磁器 瓦	輪 瓶 漂 播り鉢 火合 皿 鉢 甌 青磁碗 平瓦

第6表 西ノ辻遺跡第30次調査遺構一覧表

整理遺構名	番号	検出面	位置	平面形	東西長(cm)	南北長(cm)	深さ(cm)	埋土	時期	種類	器種
溝	6									弥生土器	
溝	7	地山上面	C地区		167.5以上	34.0	8.0	2.5Y3/1.5極粗粒砂～中粒砂混シルト～粘土	中世	土師器 須恵器	皿
溝	8	地山上面	C地区		270.0	29.0	55.0	2.5Y4/2.5極粗粒砂～極細粒砂混シルト～粘土	中世	瓦器 土師器	輪 扉り鉢 皿
溝	9	地山上面	C地区		71.0	24.0	2.5	2.5Y4/2.5極粗粒砂～極細粒砂混シルト～粘土	中世		
溝	10	地山上面	C地区		126.0	34.0	12.0	2.5Y3/1.5C S～極細粒砂混シルト～粘土	中世	土師器 須恵器	
溝	11	地山上面	C地区		56.0	477以上	7.5	5 Y2.5/2 極細粒砂混シルト～粘土	中世	瓦器 土師器 須恵器 磁器	輪 火舍 皿 鉢
溝	12	地山上面	C地区		42.5	440.0	18.0	2.5Y3.5/2 極細粒砂混シルト～粘土	中世	瓦器 土師器 須恵器 金属製品	輪 扉り鉢 甕 皿 鉢 鐵滓
溝	13	地山上面	D地区		425.0	790以上	90.0	2.5Y3/1.5 中粒砂～細粒砂混シルト～粘土	15世紀	瓦器 土師器 須恵器 陶器 磁器 瓦 弥生土器 金属製品 石製品 土製品 獸骨	輪 扉り鉢 甕 火舍 皿 釜 鉢 擂り鉢 青磁碗 瓦 平瓦 丸瓦 軒平瓦 弥生土器 金屬製品 石製品 石槍 サスカイト片 土製品 転用円板
溝	14	地山上面	D地区		72.5	450以上	22.0	2.5Y3/2 中粒砂～細粒砂混シルト～粘土	中世	土師器	
溝	15	地山上面	D地区		200以上	246以上	8.5	2.5Y3.5/2 大隈～極細粒砂混シルト～粘土	中世	瓦器 土師器 瓦	輪 扉り鉢 皿 釜 平瓦
溝	16	地山上面	D地区		22.0	433以上	6.5	2.5Y4/2.5 極細粒砂混シルト～粘土	中世	瓦器 土師器 須恵器 磁器	輪 皿 鉢 青磁碗
溝	17	地山上面	D地区		23.0	79.5以上	3.0	2.5Y4/2.5 極細粒砂混シルト～粘土	中世	瓦器 土師器	輪
溝	18	地山上面	D地区		324.5以上	128.5以上	2.5	2.5Y3/2 極粗粒砂～細粒砂混シルト～粘土	中世	土師器	
溝	19	地山上面	D地区		324.5以上	37.0	8.5	2.5Y3.5/2 極粗粒砂～中粒砂混シルト～粘土	中世	土師器 弥生土器	
溝	20	地山上面	D地区		990以上	220.0	98.0	2.5Y3/2 黒褐色糞～細粒砂混シルト 5 Y3/1 オリーブ黒色シルト～粘土	弥生	弥生土器 石製品 獸骨	甕 甕 石鐵
溝	21	地山上面	D地区		210.0	600以上	30.0		弥生	石製品	石包丁
土壤	1	地山上面	A地区	方形	395.0	196.0	47.0	10Y2.5/2 中粒砂～極細粒砂混シルト～粘土	14世紀	瓦器 土師器 須恵器	輪 皿

第6表 西ノ辻遺跡第30次調査遺構一覧表

登録遺構名	番号	検出面	位置	平面形	東西長(m)	南北長(m)	深さ(cm)	埋 土	時 期	種 類	器 種
土壤	1									磁器 磁器 陶器 瓦	青磁碗 白磁碗 擂り鉢 平瓦 丸瓦
土壤	2	地山上面	A地区	楕円形	60.0	21.5以上	1.5	2.5Y3/2 中粒砂～極細粒砂混シルト	中世		
土壤	3	地山上面	B地区	長方形	79.5	24.0	22.0	5Y3/1 極粗粒砂～中粒砂混シルト 焼土を含む	中世	瓦器 土師器	碗 皿
土壤	4	地山上面	B地区	楕円形	75.0	64.5以上	18.0	2.5Y3/1.5 極粗粒砂～細粒砂混シルト～粘土	中世		
土壤	5	地山上面	B地区	楕円形	79.0	29以上	4.0	2.5Y3.5/3 中粒砂～極細粒砂混シルト～粘土	中世	土師器	釜
土壤	6	地山上面	B地区	長方形	43.0	81.5	6.0	2.5Y4.5/1.5 極粗粒砂～細粒砂混シルト	中世		
土壤	7	地山上面	C地区	楕円形	167.5	60.5以上	2.5	2.5Y3/2 極細粒砂混シルト～粘土	中世	瓦器 土師器 須恵器 弥生土器	碗 皿 蓋 盆
土壤	8	地山上面	C地区	円形	128.0	115以上	8.0	2.5YR3/1 中粒砂～細粒砂混シルト～粘土	古墳	土師器 須恵器 土器	甕 壺 高坏 製塙土器
土壤	9	地山上面	C地区	円形	66.0	49以上	5.5	2.5Y4/1 細粒砂～シルト	中世	瓦器 土師器 弥生土器	碗 皿
土壤	10	地山上面	C地区	方形	72.5	57.0	5.5	5Y4/2 極細粒砂混シルト	中世		
土壤	11	地山上面	C地区	方形	96.0	104.0	10.0	2.5Y4/1 粗粒砂～中粒砂混シルト～粘土	中世	瓦器 土師器 須恵器 弥生土器	碗 皿 鉢 盆
土壤	12	地山上面	C地区	楕円形	108以上	25以上	3.5	2.5Y3/1.5 中粒砂～極細粒砂混粘土	中世	瓦器 土師器 須恵器	碗 三足釜 甕 皿 釜 鉢
土壤	13	地山上面	D地区	円形	127.0	121.5		2.5Y3/1.5 極細粒砂混シルト～粘土	中世	瓦器 土師器 須恵器 埴輪	碗 皿 擾り鉢 皿
土壤	14	地山上面	D地区	楕円形	48.0	70以上	23.0	10YR2/1 細粒砂～極細粒砂混シルト～粘土	中世	弥生土器	
土壤	15	地山上面	D地区	方形	62.0	80.0	7.0	10YR3/2.5 細粒砂混シルト～粘土	中世		
土壤	16	地山上面	D地区	円形	114.5以上	73以上	67.0	2.5Y3.5/2 極細粒砂混シルト～粘土	弥生	弥生土器	壺 高坏
土壤	17	地山上面	C地区	方形	100.0	90以上		2.5Y3/3 極細粒砂混シルト～粘土	弥生	弥生土器	壺
落ち込み	1	地山上面	B地区		340.0	460.0	48.0	10YR4/1 暗灰色極細粒砂～シルト 10YR5/1 暗灰色中～細粒砂混シルト 2.5Y5/1 黄灰色細粒砂混シルト 2.5Y5/1 黄灰色中～細粒砂混シルト 10YR4/1 暗灰色細粒砂混シルト	古墳～弥生 土師器 須恵器 土器 韓式系土器 弥生土器 石製品 土製品	高坏 甕 高坏 壺 甕 製塙土器 壺 壺 甕 サスカイト片 石鎧 土鍤	

第6表 西ノ辻遺跡第30次調査遺構一覧表

西ノ辻遺跡第30次調査出土遺物観察表

報告No 図版No	層位	出土遺構	出土層位	種類	器種	法量	胎土	色調	特長						備考
									口縁部外面	体部外面	底部外面	口縁部内面	体部内面	底部内面	
001 第9回 図版18	非戸01		土師器	皿	口径 (7.4) 器高 1.2	0.5mm以下の 雲母・くさり 鐵を含む	5Y7/3 浅 黄色	ヨコナデ		不調整	ヨコナデ		ナデ		
002 第9回 図版18	非戸01		磁器	青磁碗	底径 5.3		N8/灰白色			ヘラケズ リ			ヨコナデ	輪の色調は、10G Y6/1 緑灰色 輪の範囲は高台の内外面および底部内面	
003 第9回 図版18	非戸01		磁器	花瓶	底径 9.4		N8/灰白色			糸切り		ヨコナデ	ヨコナデ	輪の色調は、10G Y6/2 オリーブ灰色 輪の範囲は底部外面のみ	
004 第9回 図版18	非戸01		瓦器	壺り鉢	口径 (22.6)	1mm以下の長 石を含む	5B5/1 青灰色	横方向の ハケメ	左上がり のハケメ	ヨコナデ スリ目は 6条1単位	ナデ				内面は使用により平滑化 スリ目の配置は図上復原 体部外面に焼付着
005 第9回	非戸01		瓦器	壺り鉢	底径 (9.9)	1mm以下の長 石を含む	10B G4/1 暗青灰色		ナデ	ナデ		ナデ スリ目は 8条1単位		内外面とも器表面は暈滅 スリ目は逆時計回り	
006 第9回 図版18	非戸01		須恵器	壺り鉢	口径 (30.8)	0.5mm以下の 長石・黒色粒 を含む	N6/灰色	ヨコナデ	ヘラケズ リ	ヨコナデ	横方向の ハケメ後 ヨコナデ			口縁部は片口 スリ目の配置は図上復原 口縁部内面に焼付着	
007 第9回 図版18	非戸01		陶器	壺り鉢	口径 (30.6) 器高 8.9 底径 (14.4)	2~1mmの長 石・黒色粒を 含む	7.5Y4/4 にぶい赤色	ヨコナデ	ヨコナデ 不調整	ヨコナデ	ヨコナデ スリ目は 7条1単位			重焼きの痕跡有り スリ目の配置は図上復原	
008 第9回 図版18	非戸01	第4層	瓦	軒平瓦		1~0.5mmの 長石・角閃石 ・雲母を含む	10Y5/1 灰色							唐草文 段鉄、66と同范、45と同文	
009 第9回	非戸01		石製品	石臼	長 12.1 巾 6.2 厚 3.9									砂岩	
010 第9回 図版20	非戸01		金属製品	銭算	長 18.8 巾 4.6 厚 0.8										
011 第9回 図版20	非戸01		木製品	名前不明	長径 14.3 短径 12.6 厚 0.5									ヒノキ属の一種	

第7表 西ノ辻遺跡第30次調査出土遺物観察表

報告No	層位	出土遺構	出土層位	種類	器種	法量	胎土	色調	特長						備考
									口縁部外面	体部外面	底部外面	口縁部内面	体部内面	底部内面	
012 第9回 図版19	井戸01			木製品	容器板	直径 14.8 厚 0.8									ヒノキ属の一種
013 第9回 図版19	井戸01			木製品	容器板	直径 15.3 短径 15.1 厚 0.7									ヒノキ属の一種
014 第9回 図版20	井戸01			木製品	包丁柄	長 10.3 巾 3.8 厚 2.3									マツ属複雜管束亞属の一種 刃部残存長10cm、巾5.2cm、厚み0.5cm、 刃部は鉄
015 第9回 図版20	井戸01			木製品	鎌柄	残存長 8.2 巾 2.8 厚 1.9									コナラ属アカガシ亞属の一種
016 第9回 図版20	井戸01			木製品	鎌柄	残存長15.8 巾 3.0 厚 1.9									シイ属の一種
017 第12回 図版21	井戸02	第5層	土師器	皿	口径 (8.2) 器高 1.8	0.5mm以下の 長石・雲母・ くさり繊を含む	2.5Y7/2 長石・雲母・ 灰黄色	ヨコナデ	不調整	ヨコナデ		ナデ			
018 第12回 図版21	井戸02	第5層	土師器	皿	口径 (8.2)	0.5mm以下の くさり繊・雲 母・長石を含む	10YR7/3 にぶい黄橙 色	ヨコナデ	不調整	ヨコナデ					
019 第12回 図版21	井戸02	第5層	土師器	皿	口径 (8.3) 器高 2.0	0.5mm以下の くさり繊・雲 母・長石を含む	10YR7/6 黄褐色	ヨコナデ	不調整	ヨコナデ		ナデ	口縁部の歪みが著しい		
020 第12回 図版21	井戸02	第5層	土師器	皿	口径 (9.0) 器高 2.1	0.5mm以下の くさり繊・長 石を含む	10YR7/3 にぶい黄橙 色	ヨコナデ	不調整	ヨコナデ		ナデ			
021 第12回 図版21	井戸02	第5層	土師器	皿	口径 (9.3) 器高 2.4	1~0.5mmの 雲母・長石、 0.5mm以下の くさり繊を含む	10YR7/3 にぶい黄橙 色	ヨコナデ	不調整	ヨコナデ		ナデ	口縁部の歪みが著しい		
022 第12回	井戸02	第1層	土師器	皿	口径 (10.2)	0.5mm以下の くさり繊・雲 母を含む	7.5YR8/4 浅黄橙色	ヨコナデ	ユビオサ エ	ヨコナデ	ヨコナデ				

第7表 西ノ辻遺跡第30次調査出土遺物観察表

報告No 探査No 図版No	層位	出土遺構	出土層位	種類	器種	法量	胎土	色調	特長					備考
									口縁部外面	体部外面	底部外面	口縁部内面	体部内面	
023 第12回 図版21	井戸02	第5層	土師器	釜	口径 (27.9)	0.5mm以下の長石を含む	2.5Y8/3 淡黄色	ヨコナデ ナデ		ヨコナデ ナデ				
024 第12回	井戸02	第1層	瓦器	椀	口径 (9.8) 器高 2.9 石・くさり縫を含む	1mm以下の長石 石・くさり縫 を含む	5B5/1 背	ヨコナデ	エ	ユビオサ ヨコナデ		ナデ	ヘルミガキ	
025 第12回 図版21	井戸02	第6層	須恵器	楕円鉢	口径 (21.6)	1mm程度のチヤート、0.5mm以下の長石 ・黒色粒を含む	5B6/1 背	ヨコナデ ヨコナデ		ヨコナデ ヨコナデ			内面、使用により平滑	
026 第12回 図版21	井戸02	第6層	土製品	軽量円板	長径 5.2 短径 5.1 厚 2.2 重量 51.7		N3/0 暗灰色						丸瓦を転用 凸面綺目あり、凹面布目あり	
027 第12回 図版22	井戸03		土師器	皿	口径 8.1 器高 1.6	0.5mm以下の長石を含む	7.5Y8/2 灰白色	ヨコナデ	不調整	ヨコナデ		ナデ	口縁部の歪みが著しい	
028 第12回 図版22	井戸03		土師器	皿	口径 7.8 器高 1.6	0.5mm以下の長石を含む	10YR8/2 灰白色	ヨコナデ	エ	ユビオサ ヨコナデ		ナデ	口縁部の歪みが著しい	
029 第12回 図版22	井戸03		土師器	皿	口径 (8.4)	0.5mm以下の長石を含む	2.5Y8/2 灰白色	ヨコナデ	不調整	ヨコナデ		ヨコナデ		
030 第12回	井戸03		土師器	皿	口径 (15.0)	0.5mm以下の長石・黒色粒を含む	5Y8/2 灰白色	ヨコナデ	ナデ	ヨコナデ		ナデ		
031 第12回	井戸03		瓦器	椀	口径 10.9	0.5mm以下の長石を含む	N5/0 灰白色	ヨコナデ ユビオサ	ヨコナデ ヨコナデ	ヨコナデ	横方向のヘルミガキ			
032 第12回	井戸03		瓦器	椀	口径 (12.4)	0.5mm以下の長石を含む	N6/0 灰色	ヨコナデ ユビオサ	ヨコナデ ヨコナデ	ヨコナデ	ナデ後横方向のヘルミガキ			
033 第12回 図版22	井戸03		瓦器	椀	口径 12.4 器高 3.2 底径 3.4	1~0.5mmの長石・黒色粒を含む	N5/0 灰色	ヨコナデ ユビオサ	ヨコナデ ヨコナデ	ヨコナデ ヨコナデ	ナデ 横方向のヘルミガキ	ナデ		

第7表 西ノ辻遺跡第30次調査出土遺物観察表

報告No	層位	出土遺構	出土層位	種類	器種	法 番	胎 土	色 質	特 長						備 考
									口縁部外面	体部外面	底部外面	口縁部内面	体部内面	底部内面	
033													キ 見込み部 分に平行 輪暗文		
034	井戸03 第12回 図版22	瓦器	楕	口径 12.4 器高 3.1	1mm以下の長 石を含む	5 B5/1 青 灰褐色	ヨコナデ エ	ユビオサ エ	ユビオサ エ	ヨコナデ 横方向の ヘラミガ キ	ヨコナデ 横方向の ヘラミガ キ	ナデ			
035	井戸06.07 第12回 図版22	土師器	皿	口径 (9.4) 器高 1.5	1~0.5mmの くさり繩、0. 5mm以下の長 石を含む	7.5YR5/2 灰褐色	ヨコナデ		不調整	ヨコナデ		ナデ	口縁部内面の一部に煤付着		
036	井戸06.07 第12回	土師器	皿	口径 (10.5) 器高 1.4	0.5mm以下の くさり繩、雲 母を含む	7.5YR8/4 浅黄橙色	ヨコナデ		不調整	ヨコナデ		ヨコナデ			
037	井戸06.07 ・土壤裏 01 第12回 図版22	土師器	皿	口径 (10.2) 器高 1.5	0.5mm以下の 雲母、長石を 含む	7.5YR8/4 浅黄橙色	ヨコナデ エ	ユビオサ エ	ヨコナデ			ナデ			
038	井戸06.07 第12回	土師器	托	口径 器高 底径 (7.0)	0.5mm程度の くさり繩、雲 母を含む	10YR8/4 浅黄橙色			ナデ	ユビオサ エ		ナデ			
039	井戸06.07 第12回	瓦器	楕	高台径(5.6)	0.5mm以下の 長石を含む	5 B4/1 暗 青灰色		ナデ	ヨコナデ		横方向の ヘラミガ キ	見込み部 分に連結 輪状暗文			
040	井戸06.07 第12回 図版22	瓦器	楕	高台径 5.4	1mm程度の長 石・石英を含 む	5 B4/1 暗 青灰色		ヨコナデ	ナデ		横方向の ヘラミガ キ	見込み部 分に平行 輪状暗文	内面の擦減著しい		
041	井戸06.07 第12回	瓦器	楕	高台径 5.9	0.5mm以下の 長石を含む	5 B4/1 暗 青灰色		ナデ	ナデ		横方向の ヘラミガ キ	見込み部 分に格子 状暗文			
042	井戸06.07 第12回	瓦器	楕	口径 (15.3)	0.5mm以下の 長石を含む	N4/0 灰色	ヨコナデ 後横 のヘラミ ガキ	ナデ後横 方向のヘ ラミガキ		横方向の ヘラミガ キ	横方向の ヘラミガ キ				
043	井戸07 第12回 図版23	瓦器	皿	口径 9.2 器高 1.9	0.5mm以下の 長石を含む	10B G5/1 青灰色	ヨコナデ エ	ユビオサ エ	ヨコナデ	横方向の ヘラミガ キ	ナデ	見込み部 分にジグ			

第7表 西ノ辻遺跡第30次調査出土遺物観察表

報告No	層位	出土遺構	出土層位	種類	器種	法量	胎土	色調	特長					備考	
									口縁部外面	体部外面	底部外面	口縁部内面	体部内面	底部内面	
043												キ		ザグ状の平行範囲文	
044 第12回 図版23	井戸07		瓦器	羽釜	口径 (25.8)	1 ~ 0.5mmの長石を含む	N7/0 灰白	ヨコナデ 色	横方向の ヘラケズ リ	横方向の ハケス後 ヨコナデ	横方向の ハケメ			井戸上部に穿孔有り 体部外間に煤付着	
045 第12回 図版23	井戸07		瓦	軒平瓦	残存長10.6 巾 2.8	0.5mm以下の長石・角閃石を含む	10Y6/1 灰 色							唐草文8、66と同文 頭部ヨコナデ 平瓦との接合部分で剥離	
046 第12回 図版23	井戸05		木製品	鍾柄	長 2.6 巾 2.4 厚 2.1									シイ属の一樽	
047 第12回 図版23	井戸05		木製品	鍾柄	長 17.2 巾 2.6 厚 1.4									クリ	
048 第12回	土壤01		土師器	皿	口径 (7.2)	1 ~ 0.5mmの くさり繩、0. 5mm以下の長 石・雲母を含 む	7.5YR7/4 にぶい橙色	ヨコナデ		ユビオサ エ	ヨコナデ		ヨコナデ	器表面摩滅著しい	
049 第12回 図版23	土壤01		瓦器	擂り鉢	底径 10.4	0.5mm以下の 長石・くさり 繩を含む	N6/灰色		左上がり のハケメ	ナデ		スリ目は 7条1単位		内面の摩滅著しい	
050 第12回	土壤01		陶器	擂り鉢	底径 (14.0)	5 ~ 0.5mmの 長石・黒色粒 を含む	5YR6/2 灰褐色		ヨコナデ	ヨコナデ		ヨコナデ スリ目は 8条1単位		内面は使用により摩滅し平滑	
051 第19回 図版21	溝06		土師器	皿	口径 7.8 器高 1.4	0.5mm以下の 雲母を含む	10YR8/3 浅黄褐色	ヨコナデ		ユビオサ エ	ヨコナデ		ナデ		
052 第19回	溝06		土師器	皿	口径 (13.2) 器高 2.0	0.5mm以下の くさり繩・石 英を含む	10YR8/1 灰白色	ヨコナデ		ユビオサ エ	ヨコナデ		ナデ	器表面摩滅著しい	
053 第19回	溝06		土師器	椀	口径 (14.0)	1 ~ 0.5mmの 長石・くさり 繩を含む	5Y8/1 灰 白色	ヨコナデ		ナデ	ヨコナデ		ヨコナデ	内面に煤付着	
054 第19回	溝06		土師器	皿	口径 (15.2) 器高 2.4	1 ~ 0.5mmの 長石・石英を 含む	10YR8/1 灰白色	ヨコナデ		ユビオサ エ	ヨコナデ		ヨコナデ	口縁端部内面の1ヶ所に煤付着	

第7表 西ノ辻遺跡第30次調査出土遺物観察表

報告No 探査No 図版No	層位	出土遺構	出土層位	種類	器種	法量	胎土	色調	特長						備考
									口縁部外面	体部外面	底部外面	口縁部内面	体部内面	底部内面	
055 第19回 図版24	溝06			磁器	青磁碗	高台径(4.8)		10Y6/1灰 色	回転ヘラ ケズリ	回転ヘラ ケズリ		ヨコナデ	ヨコナデ	輪の色調は5G6/1 緑灰色 輪の範囲は体部外面から高台の内面及び 体部内面全体 削り出し高台	
056 第19回 図版24	溝01			須恵器	甕	口径 (26.4)	1~0.5mmの 長石を含む	10B G5/1 青灰色	平行タタ キメ後ヨ コナデ	平行タタ キメ		ヨコナデ	ナデ		
057 第19回 図版24	溝01			瓦器	釜	口径 (20.0)	1~0.5mmの 長石・チャーベ トを含む	10Y R8/1 灰白色	ヨコナデ	ヨコナデ		ヨコナデ	ナデ	脚下面から体部外面に焼付着	
058 第19回 図版24	溝13			土師器	皿	口径 8.6 器高 1.1	0.5mm以下の 長石・蟹母を 含む	5Y R8/3 淡黄色	ヨコナデ		ユビオサ エ後ナデ		ナデ	口縁端部内面の1ヶ所に焼付着	
059 第19回	溝13			土師器	皿	口径 (8.6) 器高 1.1	0.5mm以下の くさり繩・長 石を含む	5Y R8/2 灰白色	ヨコナデ		不調整	ヨコナデ	ナデ		
060 第19回	溝13			土師器	皿	口径 (10.6) 器高 1.3	0.5mm以下の 長石・くさり 繩を含む	7.5Y R7/6 橙色	ヨコナデ		不調整	ヨコナデ	ナデ		
061 第19回 図版24	溝13			土師器	皿	口径 10.8 器高 2.4	0.5mm以下の 蟹母・長石を 含む	7.5Y R8/3 淡黄橙色	ヨコナデ		ユビオサ エ後ナデ	ヨコナデ	ナデ	器表面の摩滅著しい	
062 第19回	溝13			陶器	擂り鉢	底径 (11.4)	1~0.5mmの 長石を含む	2.5Y R5/4 にぶい赤褐色		ヨコナデ ナデ		ヨコナデ スリ目は 9条1単位	ヨコナデ	スリ目の配置は団上復原 体部内面は使用による摩滅で平滑	
063 第19回 図版24	溝13			土師器	釜	口径 (27.0)	1~0.5mmの 長石・石英・ 黒色粒を含む	5Y R7/3 にぶい橙色	ヨコナデ	横方向の ヘラケズ リ	横方向の ハケメ後 ヨコナデ	ナデ		鉢上面から体部外面、内部全体に焼付着	
064 第19回 図版24	溝13			瓦器	甕	口径 (20.8)	1~0.5mmの 長石・石英・ 黒色粒を含む	10B G3/1 暗青灰色	ヨコナデ	平行タタ キメ後有 輪の継続 状タキメ				内面は摩滅が著しいため調整法不明	
065 第19回 図版24	溝13			瓦器	火盆	口径 (15.0)	0.5mm以下の 長石・石英・ チャートを含 む	5B G2/1 青黒色	縱方向の ヘラミガ キ	縱方向の ヘラミガ キ	ヨコナデ	ナデ			
066 第19回 図版24	溝13			瓦	軒平瓦	残存長10.0 残存巾 5.0								段脚、8と同范、45と同文 凸面ナデ 凹面摩滅のため不明	

第7表 西ノ辻遺跡第30次調査出土遺物観察表

報告No 掲図No 図版No	層位	出土遺構	出土層位	種類	器種	法量	胎土	色調	特長						備考
									口縁部外面	体部外面	底部外面	口縁部内面	体部内面	底部内面	
067 第19回 図版24	溝13		土製品	軸附円板	長径 短径 厚 重量	6.9 6.1 2.3 131.7		N3/0 嵴灰 色							平瓦を転用 凸面条痕あり 凹面ナデ
068 第19回 図版25	Pit125		土師器	皿	口径 器高	8.4 1.5	1mm以下のく さり礫・長石、 0.5mm以下の 雲母を含む	2.5Y8/3 浅黄色	ヨコナデ	不調整	ヨコナデ		ナデ		
069 第19回 図版25	Pit125		土師器	皿	口径 器高	8.4 1.4	1mm程度のく さり礫、0.5 mm以下の長石 を含む	2.5Y7/3 浅黄色	ヨコナデ	不調整	ヨコナデ		ナデ	器表面の摩滅著しい	
070 第19回 図版25	Pit125		瓦器	檐	口径 (10.3) 器高	0.5mm以下 2.5	0.5mm以下の 長石・くさり 礫を含む	N6/灰色	ヨコナデ	不調整	ヨコナデ	横方向の ヘラミガ キ	ナデ		
071 第19回	Pit125		瓦器	檐	口径 (16.1)	0.5mm以下 長石を含む	10B G5/1 青灰色	ヨコナデ ユビオサ エ後横方 向のヘラ ミガキ		横方向の ヘラミガ キ	横方向の ヘラミガ キ				
072 第19回	Pit126		瓦器	檐	口径 (13.9)	1~0.5mmの 長石を含む	N7/灰白色	ヨコナデ		ナデ	ヨコナデ		ヨコナデ	横方向の ヘラミガ キ	
073 第19回 図版25	Pit051		土師器	皿	口径 器高	8.6 1.3	0.5mm以下 雲母・くさり 礫を含む	10Y R8/4 浅黄橙色	ヨコナデ	不調整	ヨコナデ		ナデ		
074 第19回 図版25	Pit051		土師器	皿	口径 器高	8.2 1.4	0.5mm以下 雲母・長石・ くさり礫を含 む	7.5Y R8/4 浅黄橙色	ヨコナデ	不調整	ヨコナデ		ナデ	口縁部の重みが著しい	
075 第19回	Pit103		土師器	皿	口径 (9.8)	1~0.5mmの 長石、0.5mm 以下の雲母を 含む	5Y R7/4 にぶい橙色	ヨコナデ		ナデ	ヨコナデ		ヨコナデ	器表面の摩滅著しい	
076 第19回	Pit042		瓦器	檐	口径 (12.2)	0.5mm以下 長石を含む	10B G5/1 青灰色	ヨコナデ	ユビオサ	ヨコナデ		ナデ	横方向の ヘラミガキ		

第7表 西ノ辻遺跡第30次調査出土遺物観察表

報告No 探査No 図版No	層位	出土遺構	出土層位	種類	器種	法量	胎土	色調	特長						備考
									口縁部外面	体部外面	底部外面	口縁部内面	体部内面	底部内面	
077 第19回 図版25	Pit083			瓦器	椀	口径 (16.0) 器高 5.5	1~0.5mmの 長石を含む	N6/灰色	ヨコナデ 方向のヘ ラミガキ	ナデ後横 ヨコナデ	ヨコナデ	横方向の ヘラミガ キ	見込み部 分に平行 線状暗文	底面にヘラ記号有り	
078 第19回 図版25	Pit072			土製品	土錐	残存長 3.9 外径 1.1 内径 0.3 重量 4.3	0.5mm以下の 角閃石・長石 を含む	10Y R6/3 色							
079 第19回 図版25	Pit049			金銀製品	錢貨	外径 2.13 郭丸 0.6									至道元宝
080 第23回 図版26	溝20			弥生土器		底径 4.9	0.5mm以下の 角閃石・雲母 を含む	10Y R5/2 色	縦方向の ヘラミガ キ	ナデ	右上がり のハケメ	左上がり のハケメ		底部外面にモミ压痕	
081 第23回 図版26	溝20			弥生土器		底径 5.0	1~0.5mmの 角閃石・長石 、くさり織を 含む	10Y R5/2 色	ケズリ後 縦方向の ヘラミガ キ	ナデ	ナデ	ナデ		底部から体部下半に黒斑 上げ底	
082 第23回 図版26	溝20			弥生土器		底径 (10.7)	2~0.5mmの 長石、1mm以 下の角閃石・ 雲母を含む	10Y R6/3 色		ナデ			ナデ	器表面の摩滅著しい	
083 第23回 図版26	溝20			打製石器	石礫	長 5.1 巾 2.2 厚 0.6 重量 6.6									サスカイト
084 第23回 図版26	溝21			磨製石器	石包丁	残存長 5.0 巾 3.5 厚 0.6									綠泥片岩
085 第23回 図版26	落ち込み 01			打製石器	石礫	長 5.9 巾 1.5 厚 0.5 重量 4.1									サスカイト
086 第23回 図版26	落ち込み 01			土師器	甕	口径 (11.8)	3~0.5mmの 長石・雲母・ 角閃石・くさ り織を含む	7.5Y R7/4 色	ヨコナデ ハケメ	縦方向の ヨコナデ	横方向の ヘラケズ リ				

第7表 西ノ辻遺跡第30次調査出土遺物観察表

報告No	層位	出土遺構	出土層位	種類	器種	法量	胎土	色調	特長					備考	
									口縁部外面	体部外面	底部外面	口縁部内面	体部内面	底部内面	
087 第23回 図版26	落ち込み 01	輪式系 土器	平底鉢	口径 (12.9)	3~0.5mmの 長石・石英・ チャート・く さり礫を含む	10Y R8/4	ヨコナデ 浅黄褐色			ヨコナデ					
088 第23回 図版26	落ち込み 01	土師器 高坏	口径 (11.4)	2~0.5mmの長 石、1~0.5mm の雲母・くさ り礫を含む	7.5Y R7/6	ヨコナデ 橙色	ナデ			ヨコナデ ナデ					坏部と脚部の接合部分には棒状の差し込 み痕 黒斑なし
089 第23回 図版26	落ち込み 01	土師器 高坏	胸径 (8.9)	0.5~0.1mmの 長石・くさり 礫を含む	5Y R7/6			ナデ			ナデ				黒斑なし シボリメ
090 第23回 図版26	落ち込み 01	輪式系 土器	鍋	2~0.5mmの 長石・くさり 礫・雲母を含 む	10Y R7/3	斜格子メ にぶい黄橙 色	タタキ後 ナデ			ナデ					把手は差し込み手法によって器体に取付 ける 把手は牛角状で、上面にV字形の切り込 み、下面先端部に棒状の差し込み痕2ヶ 所あり
091 第23回 図版27	落ち込み 01	土製品 土焼	長 3.4 外径 0.3 内径 0.7 重量 1.7	0.5mm以下の 長石を含む	10Y R5/4										
092 第23回 図版27	落ち込み 01	発生土器 壺	口径 (7.5)	3~0.5mmの 長石・石英・く さり礫を含む	10Y R8/3	ヨコナデ 浅黄褐色	縦方向の ハケメ ナデ			ヨコナデ ナデ					体部内面に巾1.2cmの粘土縁のつなぎ目 が明瞭に見える
093 第23回 図版27	落ち込み 01	発生土器 壺	口径 (22.0)	2~0.5mmの 長石・雲母・ 角閃石を含む	10Y R4/3	ヨコナデ にぶい黄褐 色	縦方向の ヘラミガ キ			ヨコナデ ナデ					器表面の摩滅著しい
094 第23回 図版27	落ち込み 01	発生土器 壺	口径 (22.6) 最大径 (19.8) 底径 6.1	1~0.5mmの 長石・くさり 礫・石英を含 む	5Y R8/4	ヨコナデ 淡橙色 刻み目	横方向の ヘラミガキ 7条1準 位の構造 直線文2 帯、その 下部に擦 拭痕状文			ヨコナデ ナデ	ナデ	ナデ			口縁端部に黒斑 器表面の摩滅著しい
095 第23回 図版27	落ち込み 01	発生土器 壺	口径 22.6 器高 43.1 最大径 25.6 底径 5.8	2~0.5mmの 長石・くさり 礫を含む	7.5Y R7/6	構造波状 文	横方向の ヘラミガキ 6条1準 位の構造			構造波状 文	ナデ	ナデ			体部最大径部に黒斑2ヶ所

第7表 西ノ辻遺跡第30次調査出土遺物観察表

報告No 採団No 図版No	層位	出土遺構	出土層位	種類	器種	法量	胎土	色調	特長						備考
									口縁部外面	体部外面	底部外面	口縁部内面	体部内面	底部内面	
095									直線文9 帯						
096 第24回 図版27	土壤17	弥生土器	壺	口径 15.8 器高 34.8 最大径 25.2 底径 5.8	2 ~ 0.5mmの 角閃石、1 ~ 0.5mmの雲母 ・長石を含む	10Y R 6/3 にぶい黄橙 色	ヨコナデ 上部は縱 方向のハ ケメ 下部は縱 方向のヘ ラミガキ	ナデ ヨコナデ 縱方向の ハケメ							体部下半に焼成後の穿孔1ヶ所
097 第24回	土壤07	須恵器	蓋	口径 (12.8)	0.5mm以下 長石を含む	10B G 6/1 青灰色	ヨコナデ 回転ヘラ ケズリ		ヨコナデ	ヨコナデ					
098 第24回	土壤08	土師器	壺	口径 (18.2)	1 ~ 0.5mmの長 石・くさり隕・角 閃石を含む	5 Y R 6/6 橙色	ヨコナデ 左上がり のハケメ		横方向の ハケメ						器表面の摩滅著しい
099 第24回 図版27	土壤16	弥生土器	壺	口径 (17.3)	1 ~ 0.5mmの 角閃石・長石 ・雲母を含む 色	10Y R 6/3 にぶい黄橙 色	ヨコナデ 直線文		ヨコナデ ナデ						器表面摩滅のため調整法不明
100 第24回	土壤16	弥生土器	壺	底径 8.0	2 ~ 0.5mmの 角閃石・長石 ・雲母を含む	10Y R 6/3 にぶい黄橙 色			ナデ?						器表面の摩滅のため調整法不明
101 第24回 図版28	9層	土師器	皿	口径 6.9 器高 1.3	0.5mm以下 長石・くさり 隕を含む	5 Y R 7/6 橙色	ヨコナデ		不調整	ヨコナデ					
102 第24回 図版28	9層	土師器	皿	口径 8.1 器高 1.2	0.5mmの長石 ・くさり隕を 含む	7.5 Y R 8/4 淡黄橙色	ヨコナデ		不調整	ヨコナデ					口縁部と底部の境目に粘土紐のつなぎ あり
103 第24回 図版28	9層	土師器	皿	口径 7.9 器高 1.0	1mm以下の長 石・石英を含 む	2.5 Y 8/1 灰白色	ヨコナデ		不調整	ヨコナデ					
104 第24回 図版28	9層	土師器	皿	口径 8.0 器高 1.2	0.5mm以下の 長石・くさり 隕を含む	5 Y R 7/6 橙色	ヨコナデ		不調整	ヨコナデ					口縁部と底部の境目に粘土紐のつなぎ あり
105 第24回 図版28	9層	土師器	皿	口径 8.4 器高 1.5	0.5mm以下の 長石を含む	2.5 Y 8/4淡 黄色	ヨコナデ		不調整	ヨコナデ					
106 第24回 図版28	9層	土師器	皿	口径 8.0 器高 1.4	0.5mmの長石 ・雲母を含む 淡褐色	5 Y R 8/3 淡褐色	ヨコナデ		不調整	ヨコナデ					

第7表 西ノ辻遺跡第30次調査出土遺物観察表

報告No 掲図No 図版No	層位	出土遺構	出土層位	種類	器種	法量	胎土	色調	特長						備考
									口縁部外面	体部外面	底部外面	口縁部内面	体部内面	底部内面	
107 第24回 図版28	9層			土師器	皿	口径 8.4 器高 1.1 縁を含む	0.5mm以下の 長石・くさり 混を含む	7.5Y R 8/4	ヨコナデ		不調整	ヨコナデ		ナデ	
108 第24回 図版28	9層			土師器	皿	口径 8.1 器高 1.2 縁・茎母を含む	0.5mm以下の 長石・くさり 混を含む	7.5Y R 8/4	ヨコナデ		不調整	ヨコナデ		ナデ	口縁部の歪みが著しい
109 第24回 図版28	9層			土師器	皿	口径 9.9 器高 1.8 縁を含む	1~0.5mmの 長石・くさり 混を含む	7.5Y R 8/4	ヨコナデ		不調整	ヨコナデ		ナデ	口縁内面端部に焼付着 底部くぼみあり
110 第24回 図版28	9層			土師器	皿	口径 13.8 器高 2.1 くさり縁、0. 5mm以下の茎 母を含む	1~0.5mmの くさり縁、0. 5mm以下の茎 母を含む	10Y R 8/3	ヨコナデ		不調整	ヨコナデ		ナデ	
111 第24回 図版28	9層			須恵器	砵	口径 (30.6)	5~0.5mmの 長石・チャート・黒色粒を 含む	5 B G 6/1	ヨコナデ	ヨコナデ		ヨコナデ	ヨコナデ		
112 第24回	9層			須恵器	蓋	口径 (13.0)	1~0.5mmの 長石・黒色粒を 含む	5 B 7/1明	ヨコナデ	回転ヘラ ケズリ		ヨコナデ	ナデ		
113 第24回	9層			須恵器	有蓋壺	胸径 (10.3)	0.5mm以下の 長石を含む	5 B 7/1明			ヨコナデ			ヨコナデ	胸部の透は台形状で3方向
114 第24回	9層			陶質土器			0.5mm以下の 長石粒を含む	10R 5/2灰		繩文沈 線			ナデ		
115 第24回	近世溝			埴輪	円筒埴輪		1~0.5mmの 長石・黒色粒を 含む	2.5Y R 6/6		左上がり のハケメ 後ヨコナ デ 円孔透し			ナデ		須恵質
116 第24回	9層			瓦	板瓦円板	長径 6.2 規径 5.8 厚 1.9 重量 88.9	2~0.5mmの 長石・茎母・ チャートを含 む	5 Y 4.5/1							瓦転用
117 第24回	9層			土製品	土鍋	長 4.0 外径 1.0	1~0.5mmの くさり縁・長 灰白色	10Y R 8/2							土師質

第7表 西ノ辻遺跡第30次調査出土遺物観察表

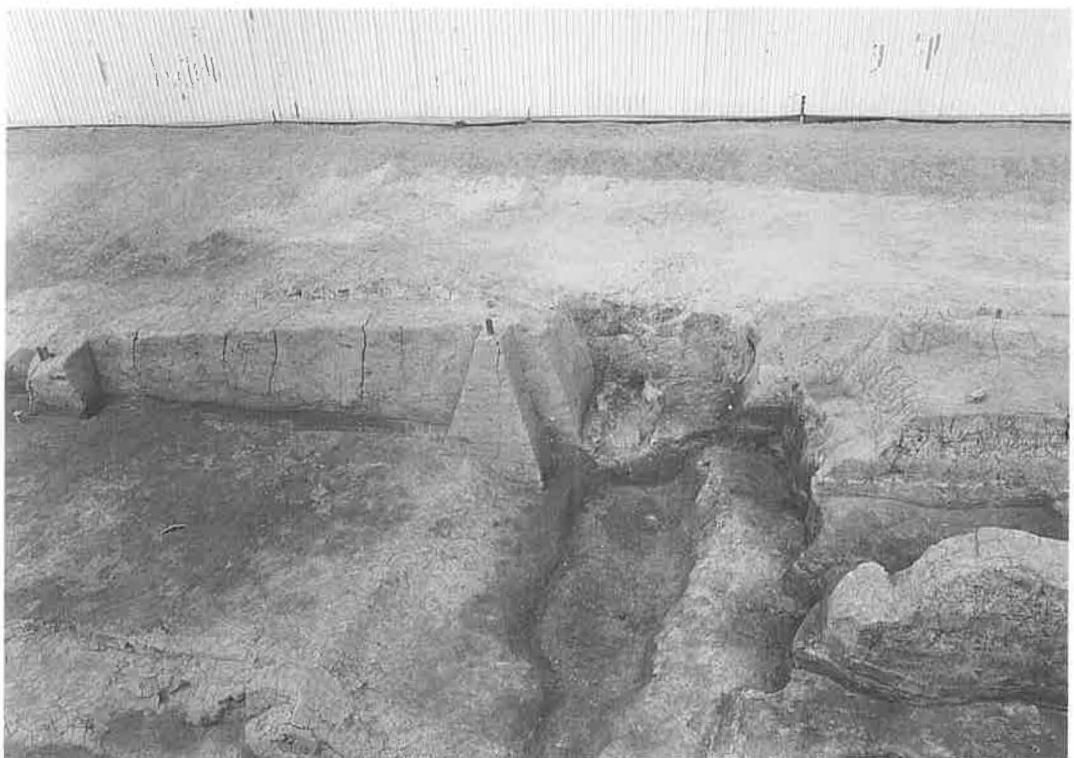
報告No 発掘No	層位	出土遺構	出土層位	種類	器種	法量	胎土	色調	特長						備考	
									口縁部外面	体部外面	底部外面	口縁部内面	体部内面	底部内面		
図版28						内径 0.3 重量 4.2	石を含む									
118 第24図 図版28	9層		土製品	土縛	長 3.6 外径 1.15 内径 0.25 重量 4.3	1-0.5mmの くさり繩・及 浅黄橙色	10YR 8/3									土質
119 第24図 図版28	9層		金属製品	錢貨	外径 2.15 郭丸 0.6											祥符元宝
120 第25図 図版28	9層		磨製石器	石包丁	残存長 6.7 巾 3.5 厚 0.8											粘板岩
121 第25図 図版28	近世津		打製石器	石鏃	残存長 3.0 巾 1.2 厚 0.5 重量 1.9											サスカイト 原礦面が残っている
122 第25図 図版28	9層		打製石器	石鏃	残存長 3.4 巾 1.1 厚 0.5 重量 1.8											サスカイト
123 第25図 図版28	近世津		打製石器	石鏃	残存長 2.4 巾 1.7 厚 0.4 重量 1.6											サスカイト
124 第25図 図版28	不明		打製石器	石槍	残存長 3.2 巾 2.3 厚 1.0 重量 6.5											サスカイト

第7表 西ノ辻遺跡第30次調査出土遺物観察表

# 図 版



1. 近代以降の段に伴う抗列検出状況(西より)



2. 北壁東端部分断面

図版2

遺構



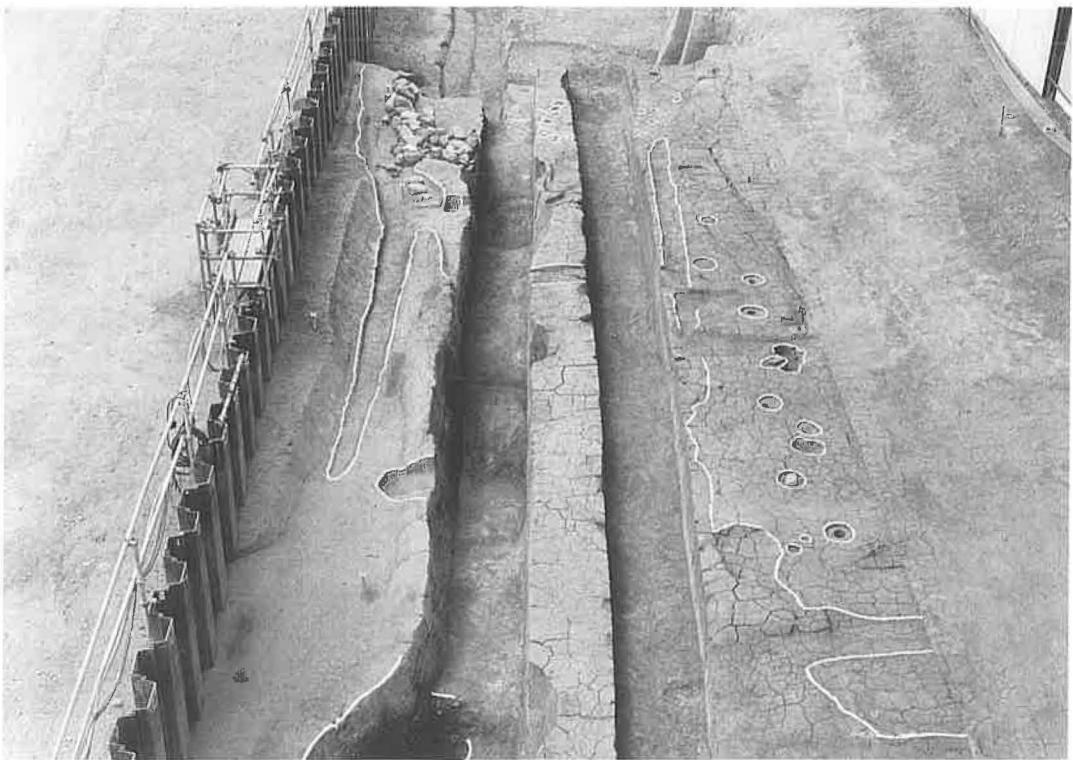
1. 近世遺構検出状況(南より)



2. 近世溝検出状況(西より)



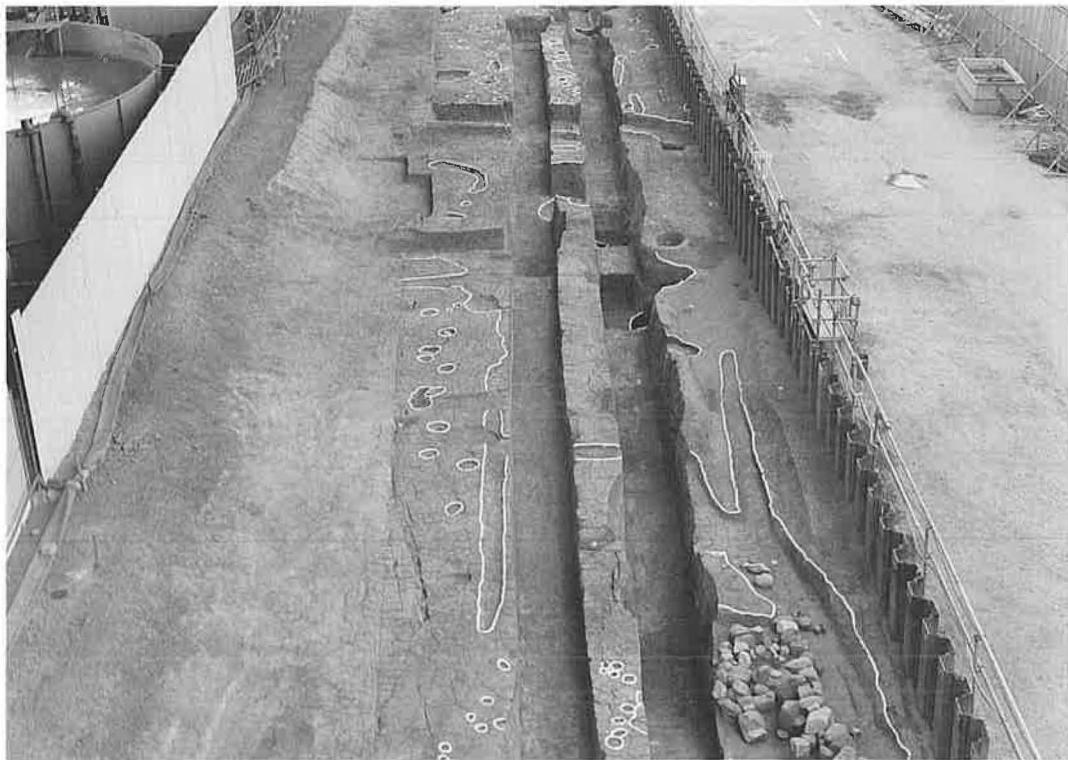
1. 中世から古墳時代遺構検出状況（西より）



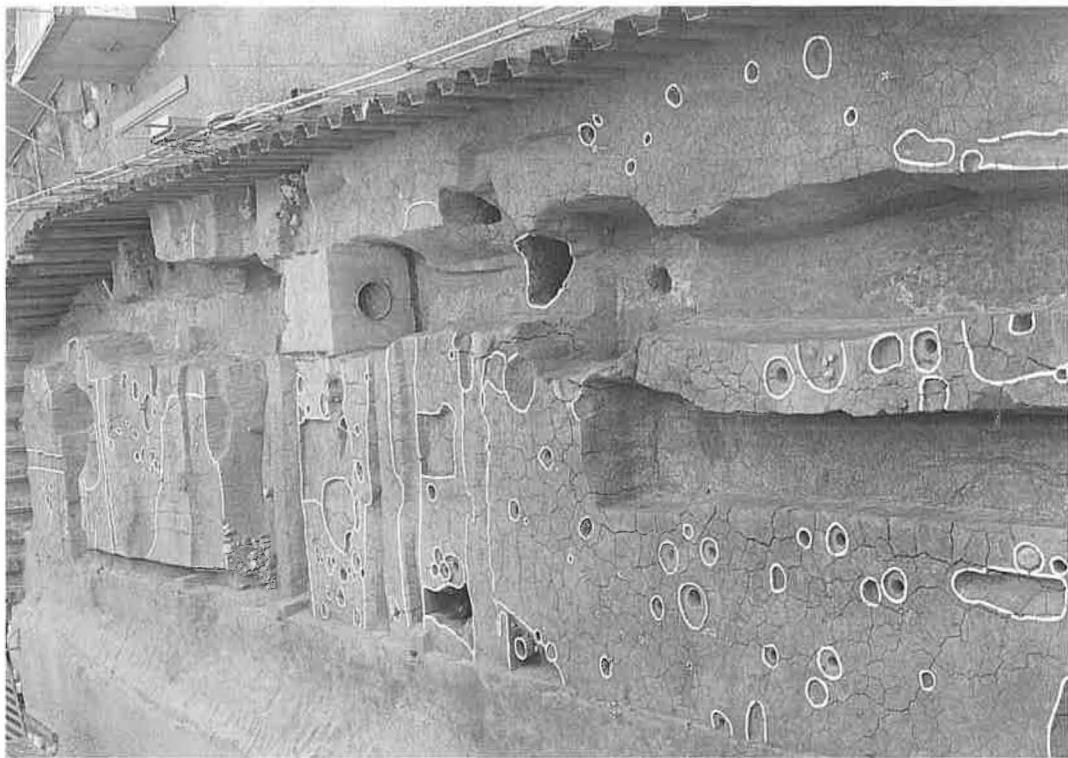
2. 中世から古墳時代遺構検出状況（調査区西より部分）

図版4

遺構



1. 中世から古墳時代遺構検出状況（調査区中央より部分）



2. 中世から古墳時代遺構検出状況（調査区東より部分）



1. 井戸 1 東西断面

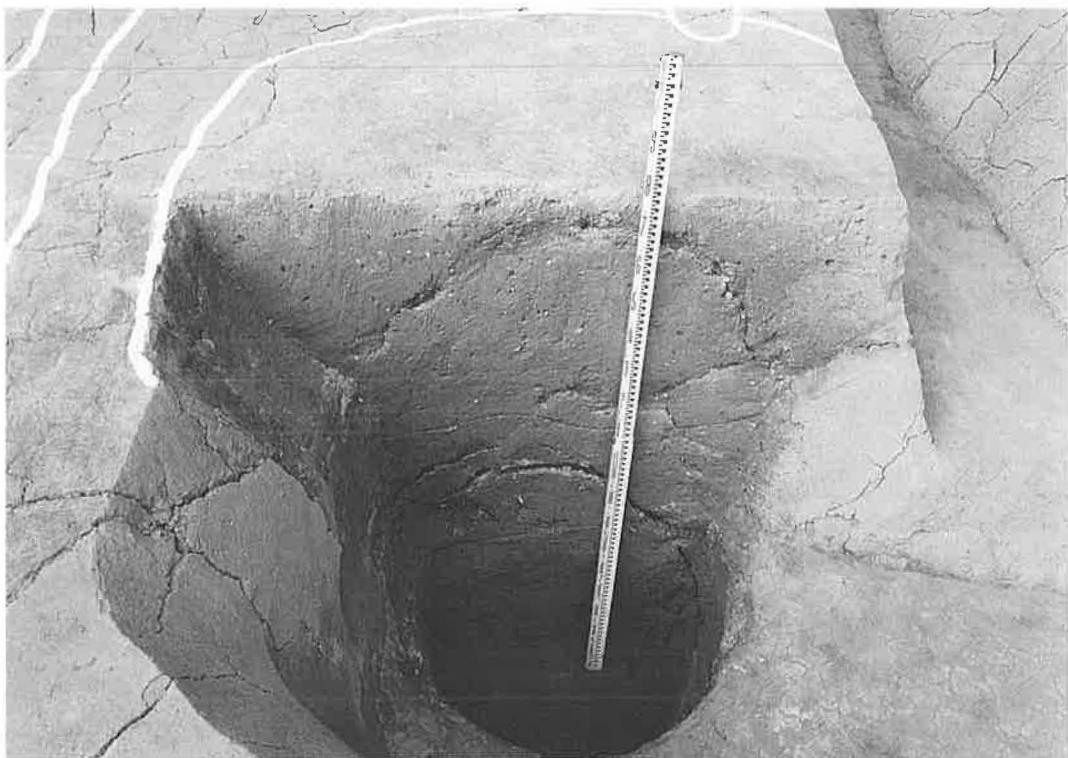


2. 井戸 1 検出状況

図版 6  
遺構



1. 井戸 4 遺物出土状況



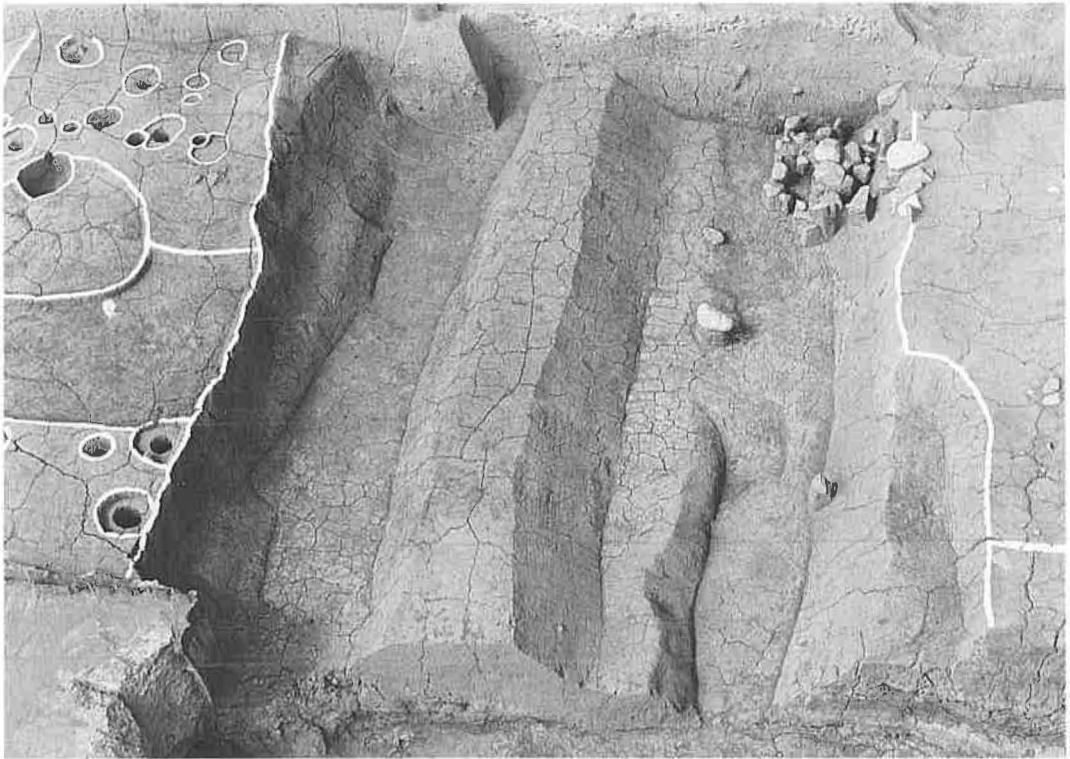
2. 井戸 5 東西断面



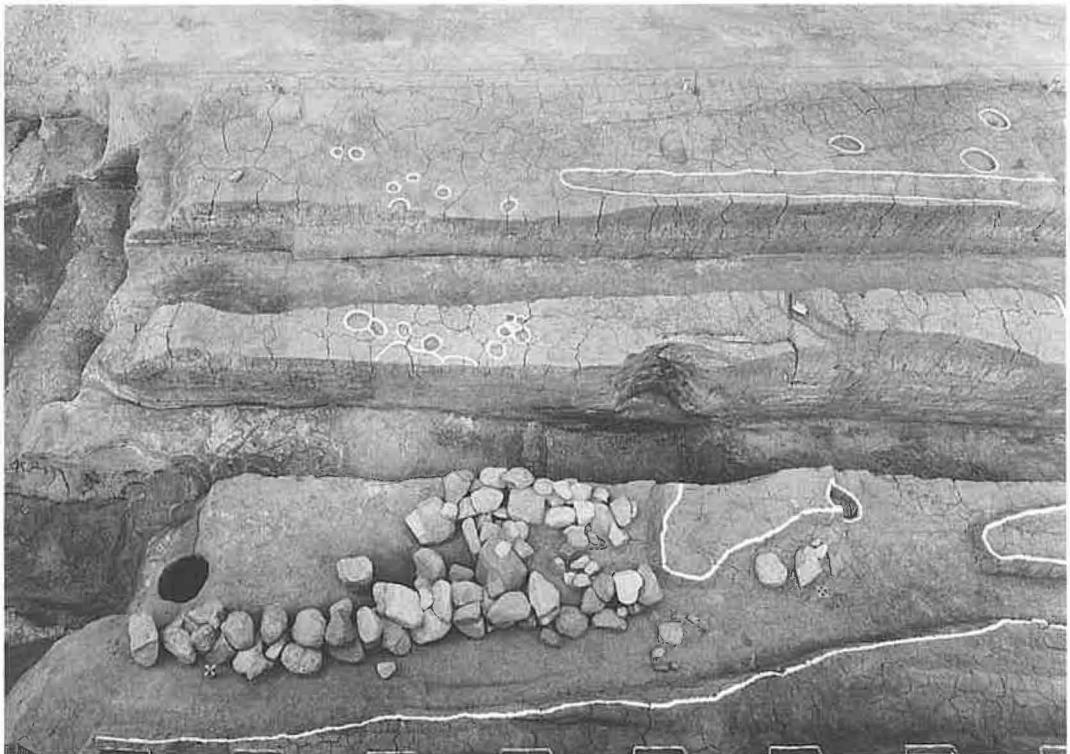
1. 井戸 5 立割状況 (南東方向)



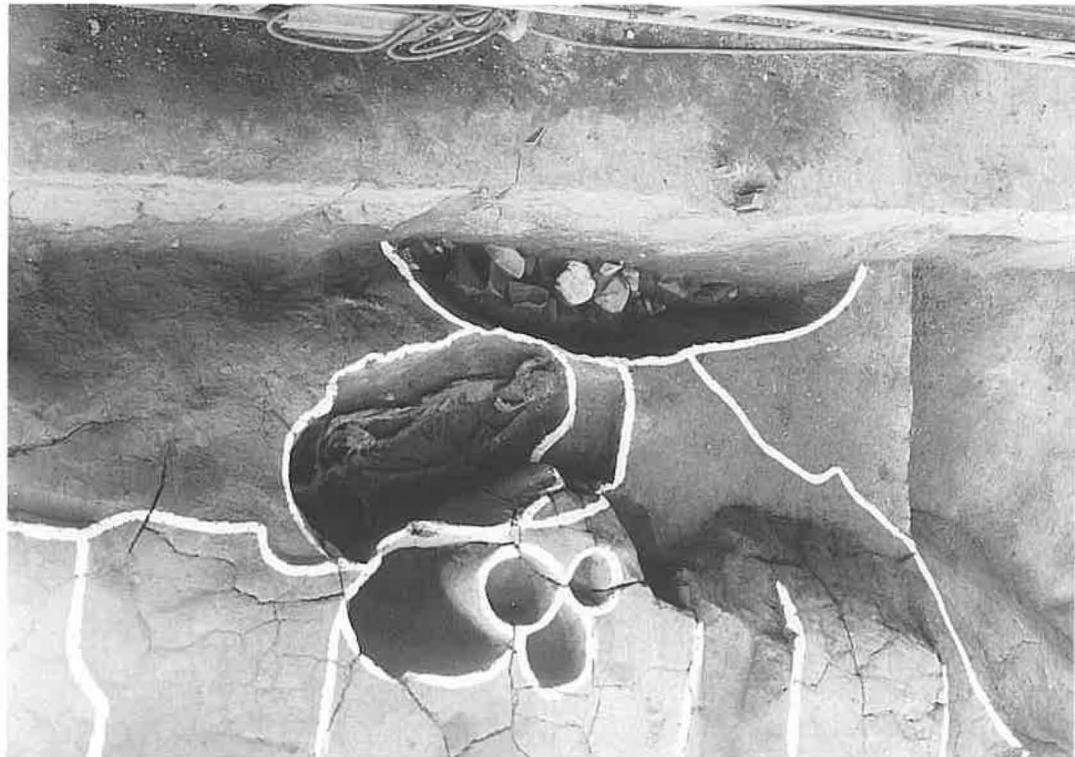
2. 井戸 2 立割状況 (東西方向)



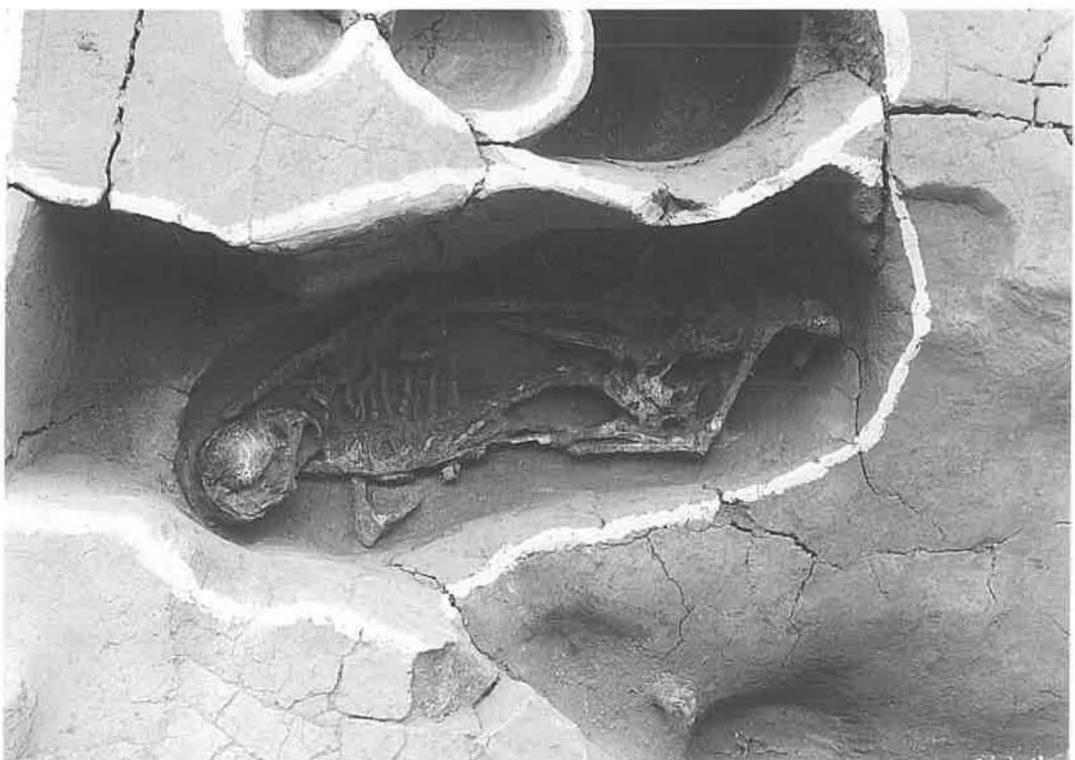
1. 溝13検出状況(南より)



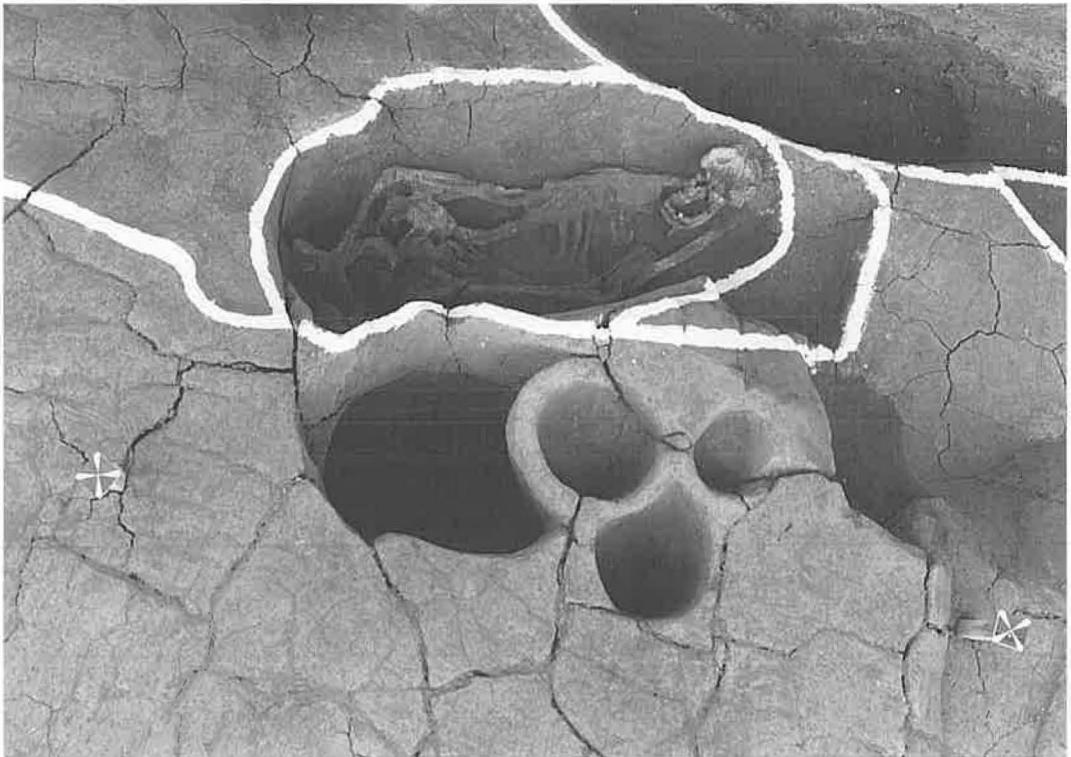
2. 土壌1検出状況(南より)



1. 土壙墓 1・井戸 6・井戸 7 検出状況(南より)



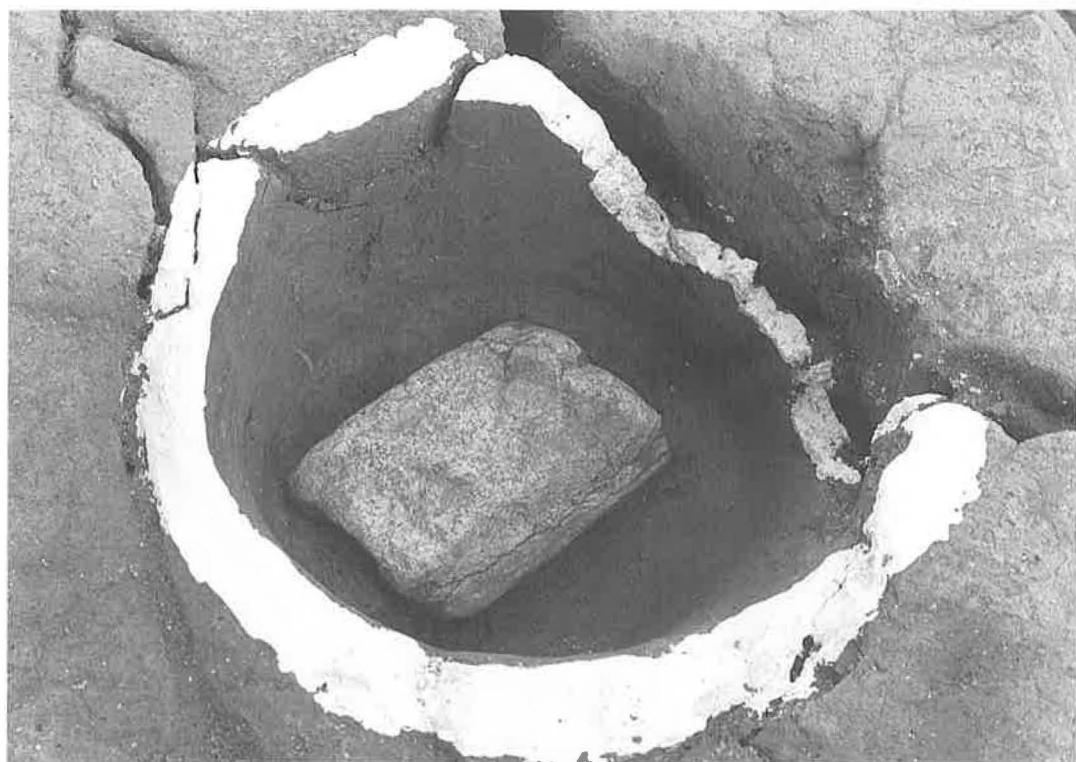
2. 土壙墓 1 人骨出土状況



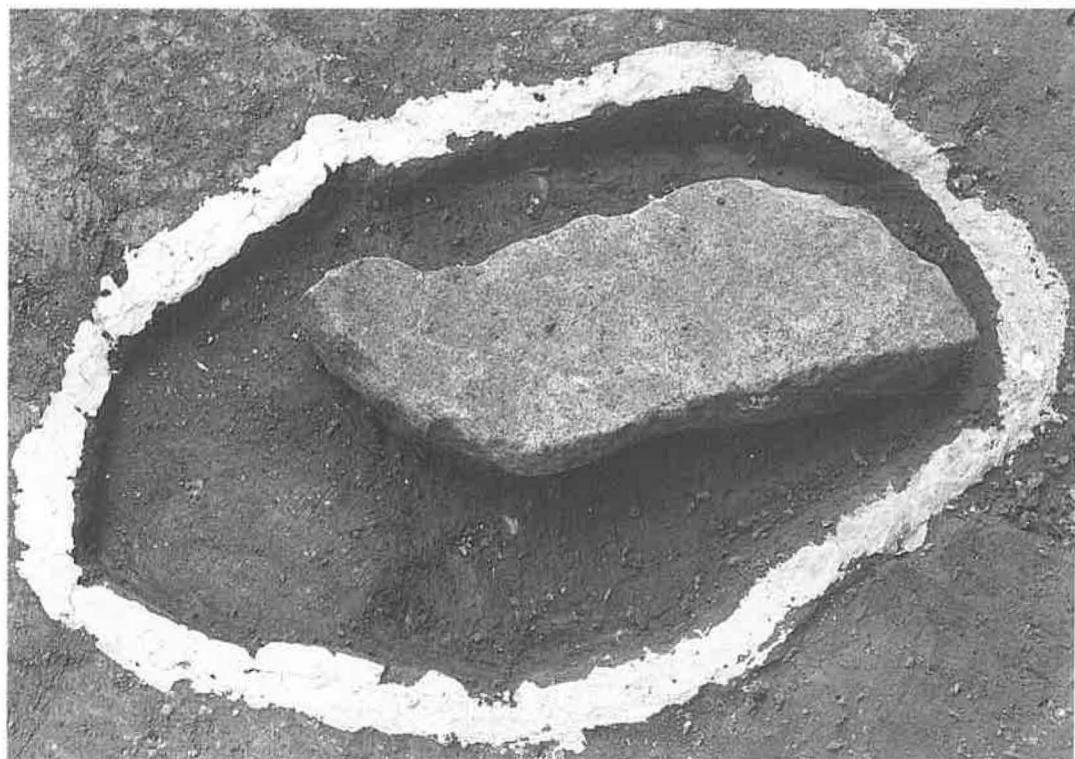
1. 土壙墓 1 人骨出土状況



2. 土壙墓 1 人骨出土状況



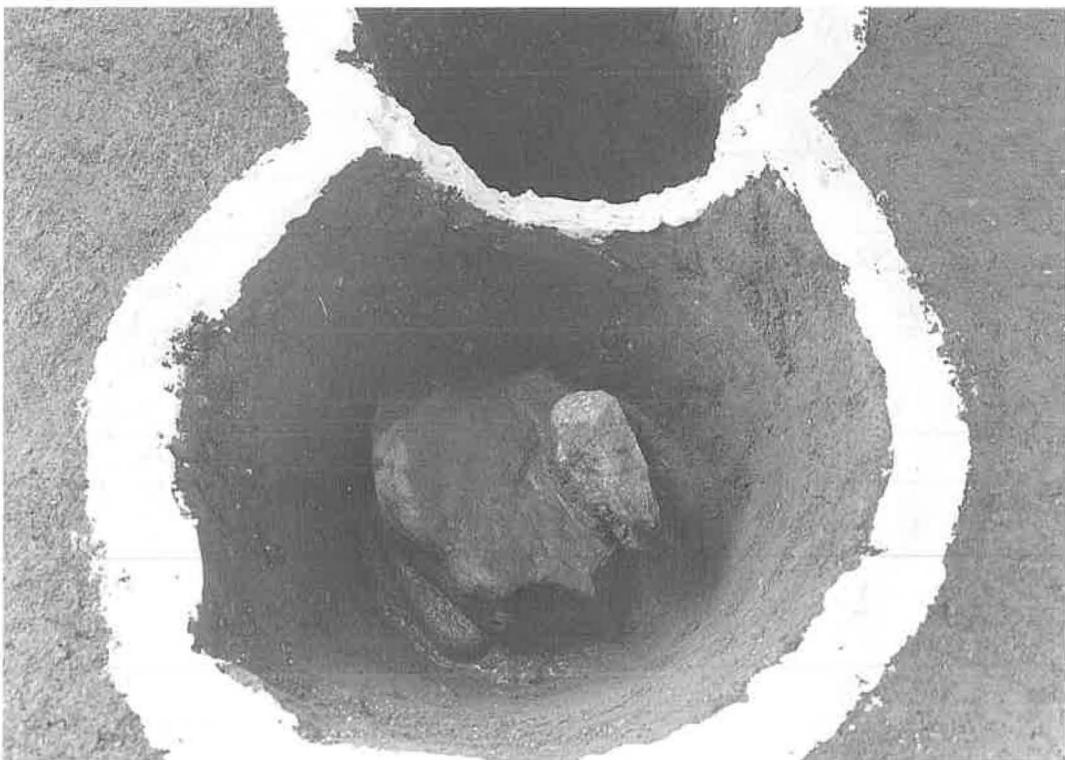
1. pit61根石検出状況



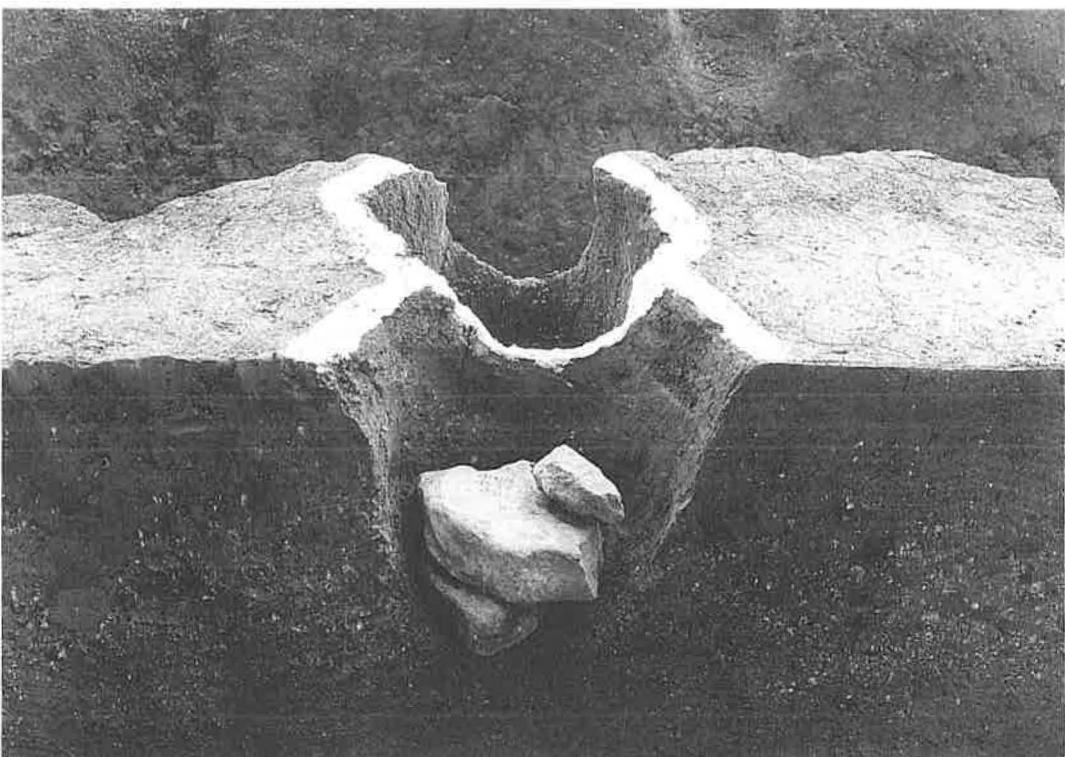
2. pit26根石検出状況

図版  
12

遺構



1. pit169根石検出状況



2. pit69立割状況



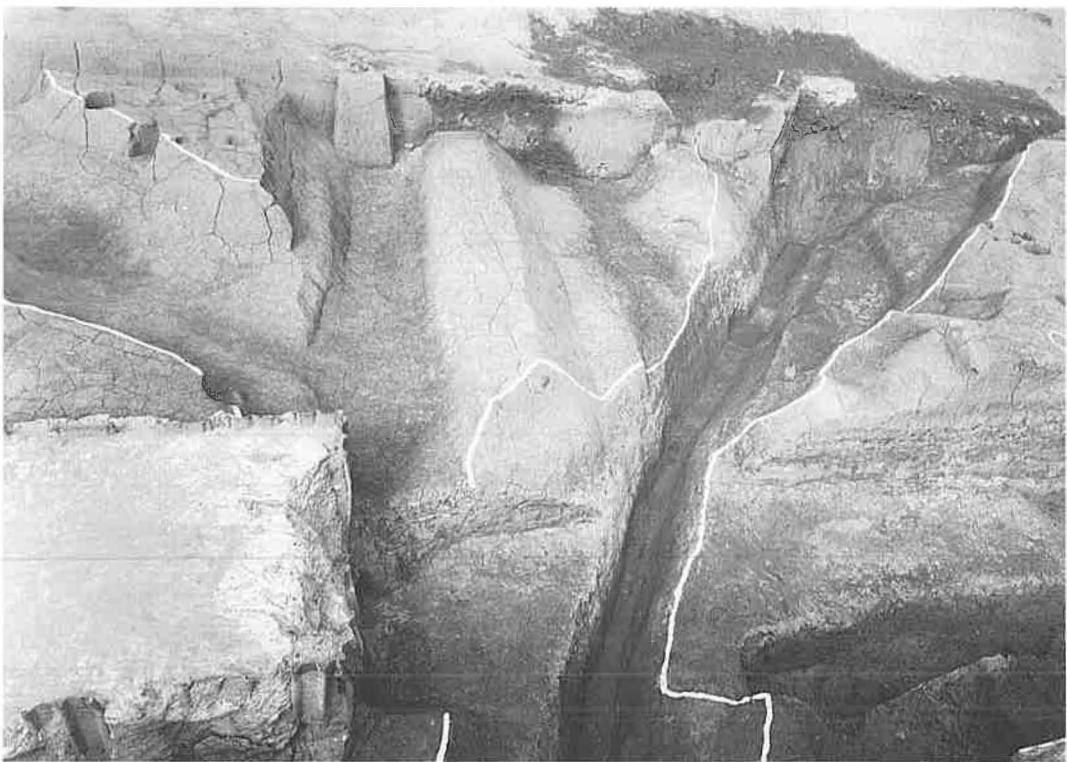
1. 弥生時代遺構検出状況(西より)



2. 溝20・溝21検出状況(南より)

図版  
14

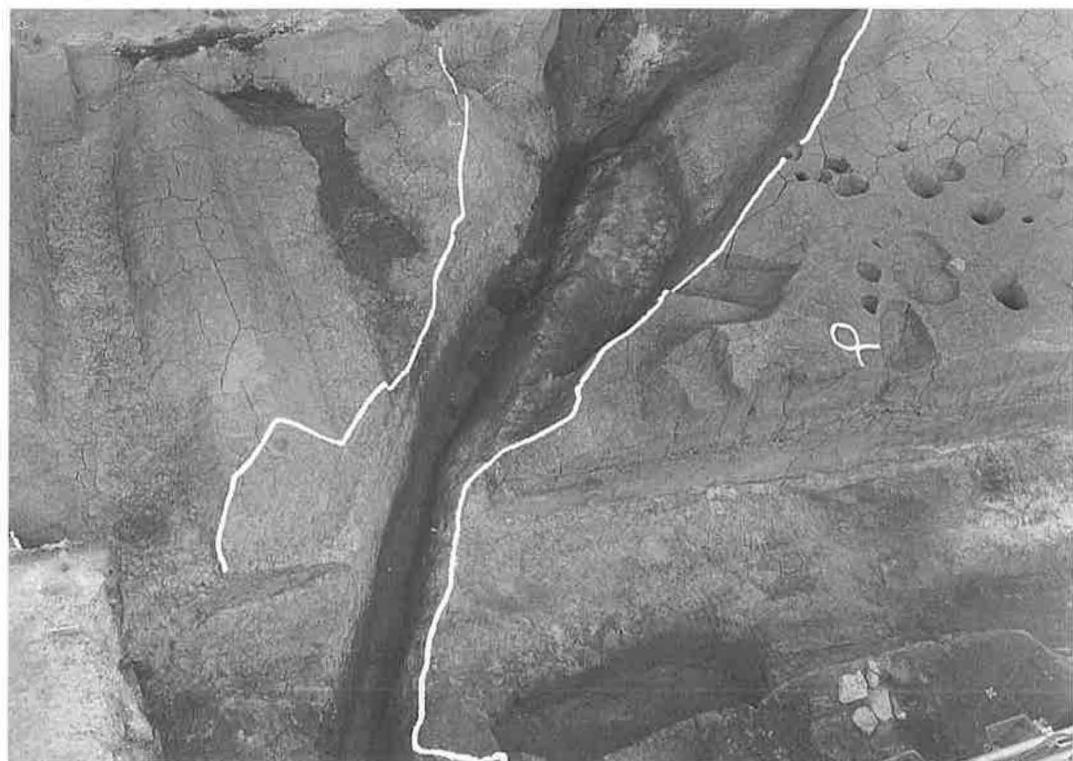
遺構



1. 溝20・溝21検出状況(南より)



2. 溝21検出状況(南より)



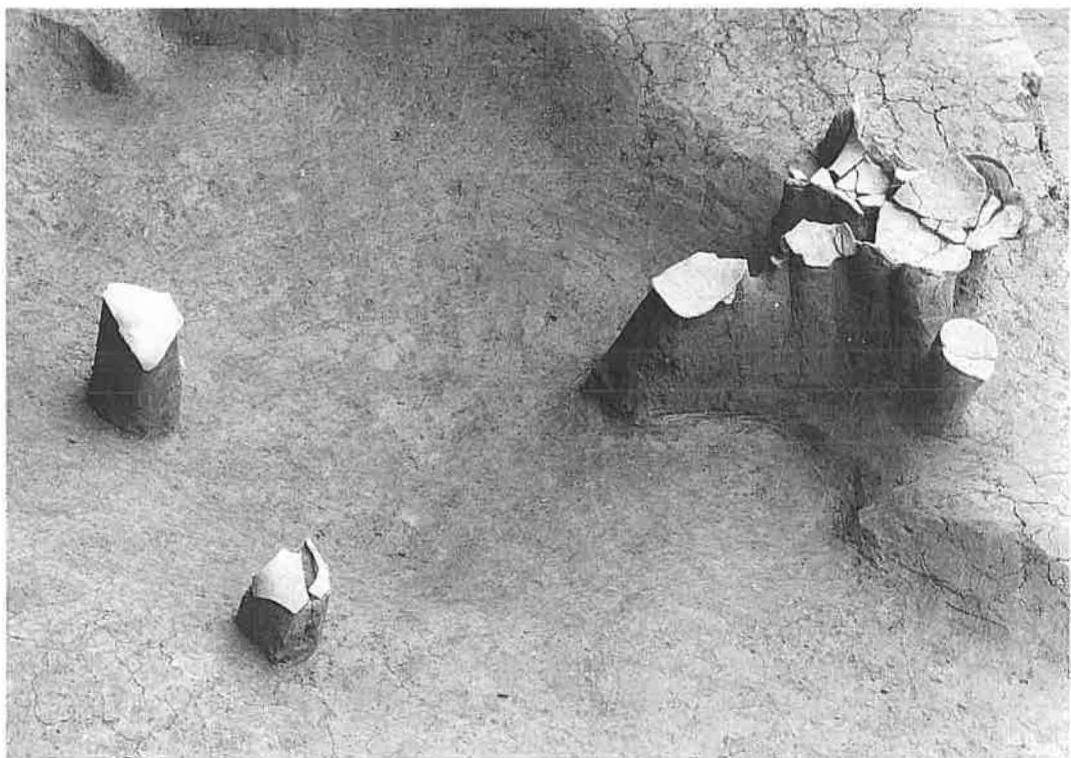
1. 溝20検出状況（南より）



2. 溝20東西断面



1. 落ち込み 1 検出状況 (南より)



2. 落ち込み 1 土器出土状況

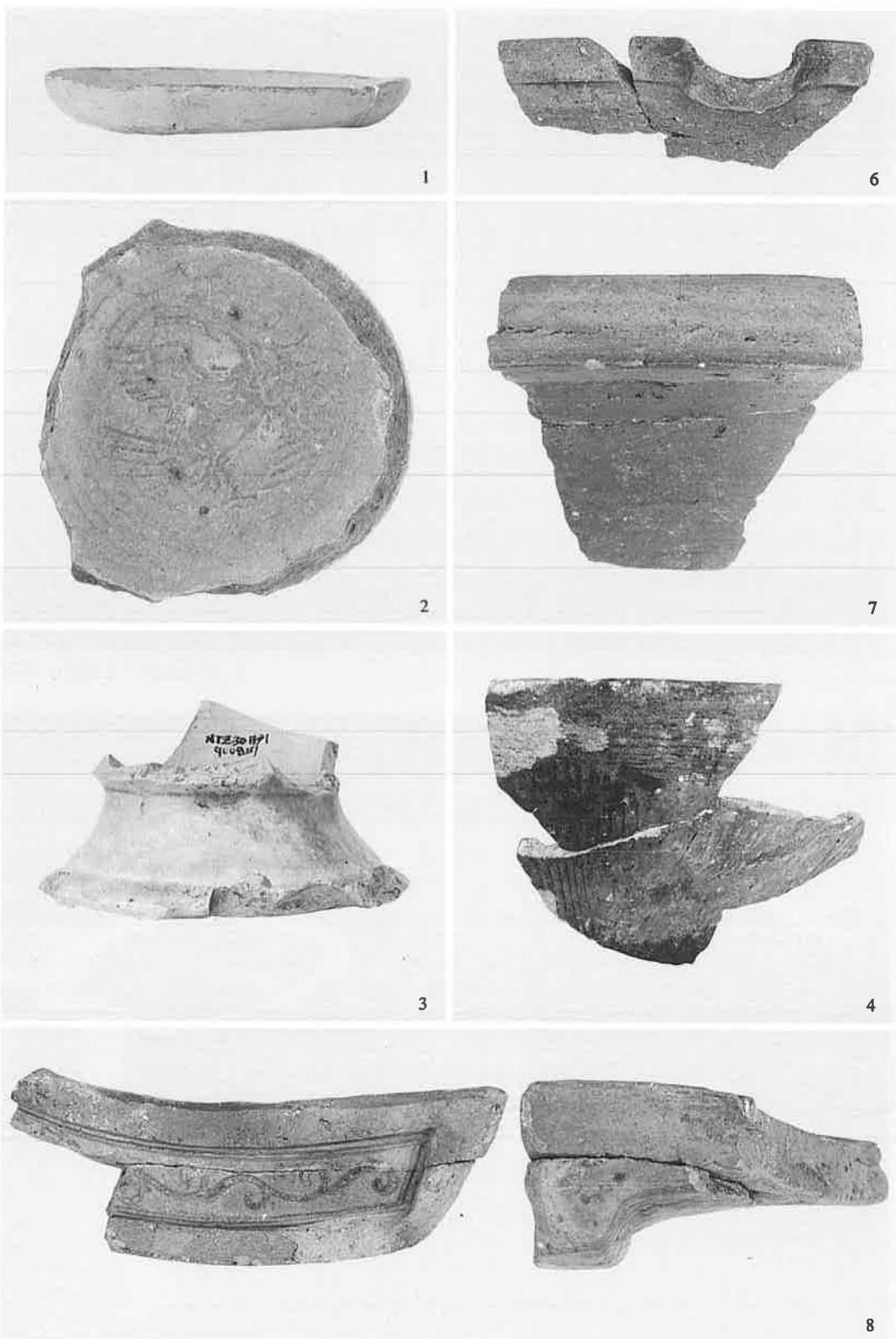


1. 落ち込み 1 土器出土状況



2. 土壌17土器出土状況

図版 18  
遺物 井戸 1 出土 遺物



図版 19 遺物 井戸 1 出土遺物

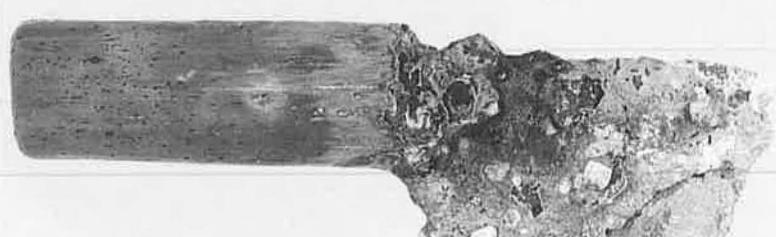


12



13

図版 20  
遺物 井戸 1 出土遺物



図版 21  
遺物 井戸 2 出土遺物



17



23



18



25



19



20



26

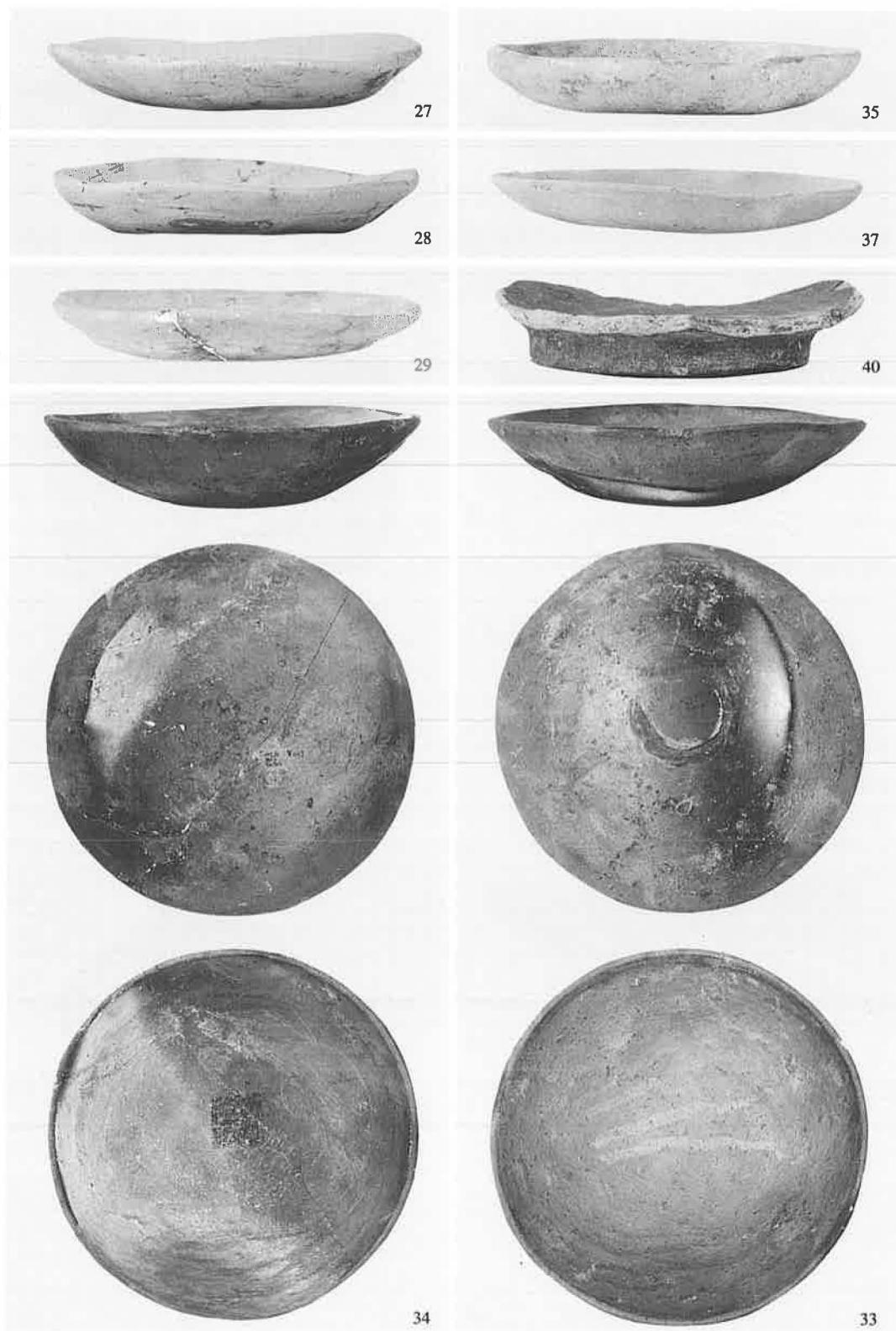


21

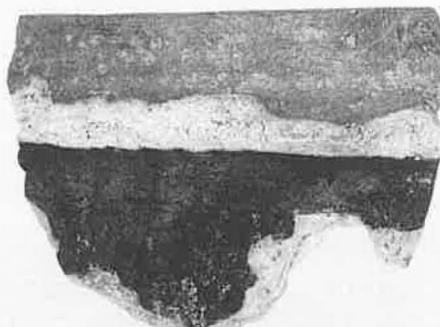
図版  
22

遺物

井戸3・井戸6・井戸7・土塙墓1出土遺物



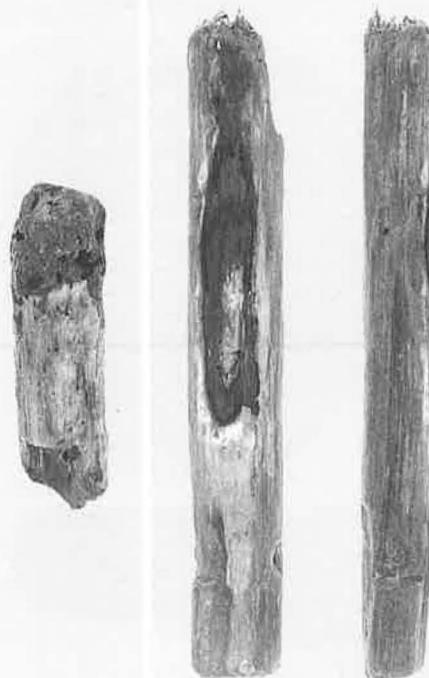
図版 23 遺物 井戸 5・井戸 7・土壤 1 出土遺物



44



45



46



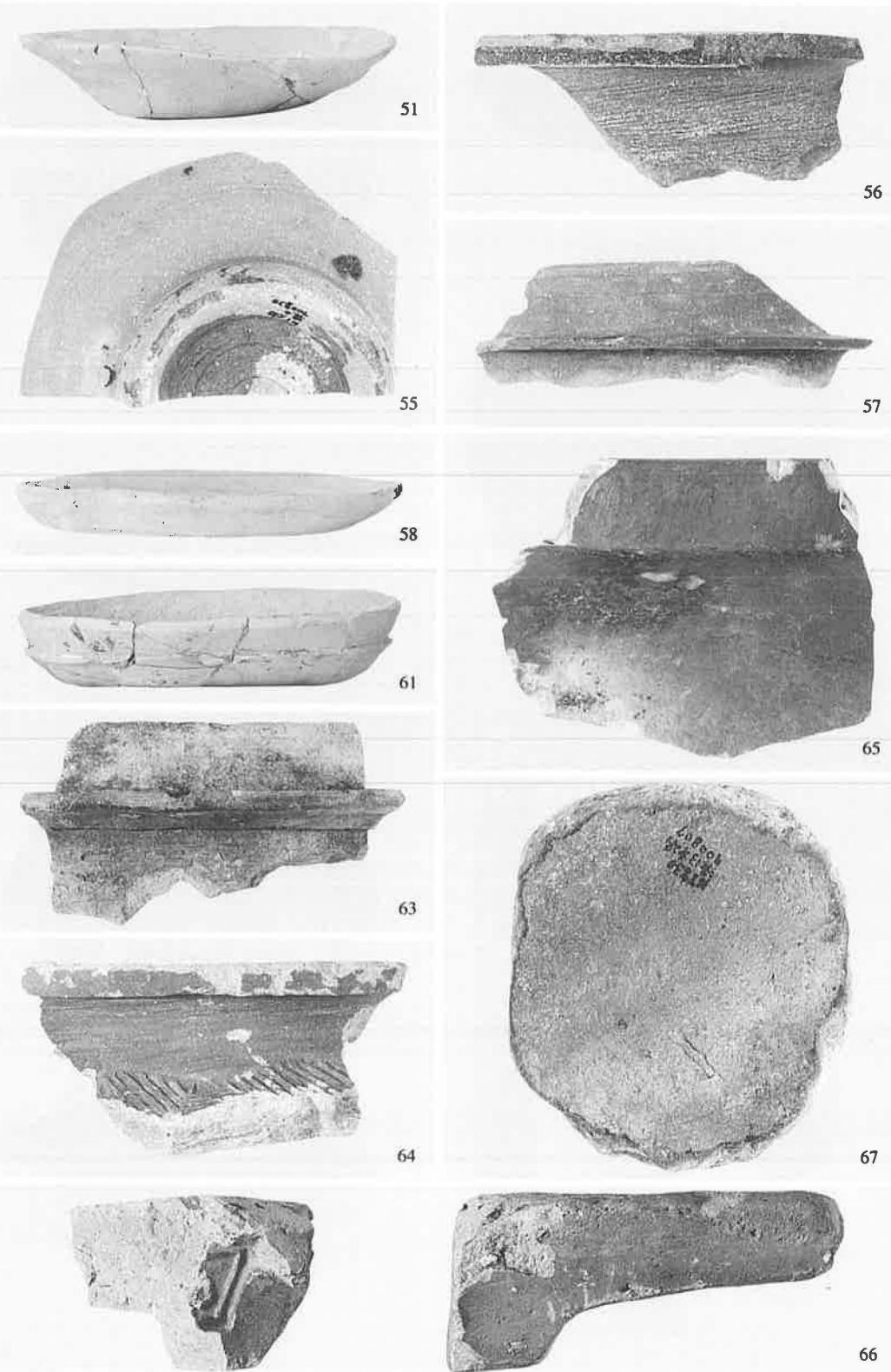
47



49

図版  
24

遺物  
溝1・溝6・溝13出土遺物



圖版  
25

遺物

pit  
49  
·  
pit  
51  
·  
pit  
72  
·  
pit  
83  
·  
pit  
125  
出土遺物



68



73



69



74



70



71



72



73



78

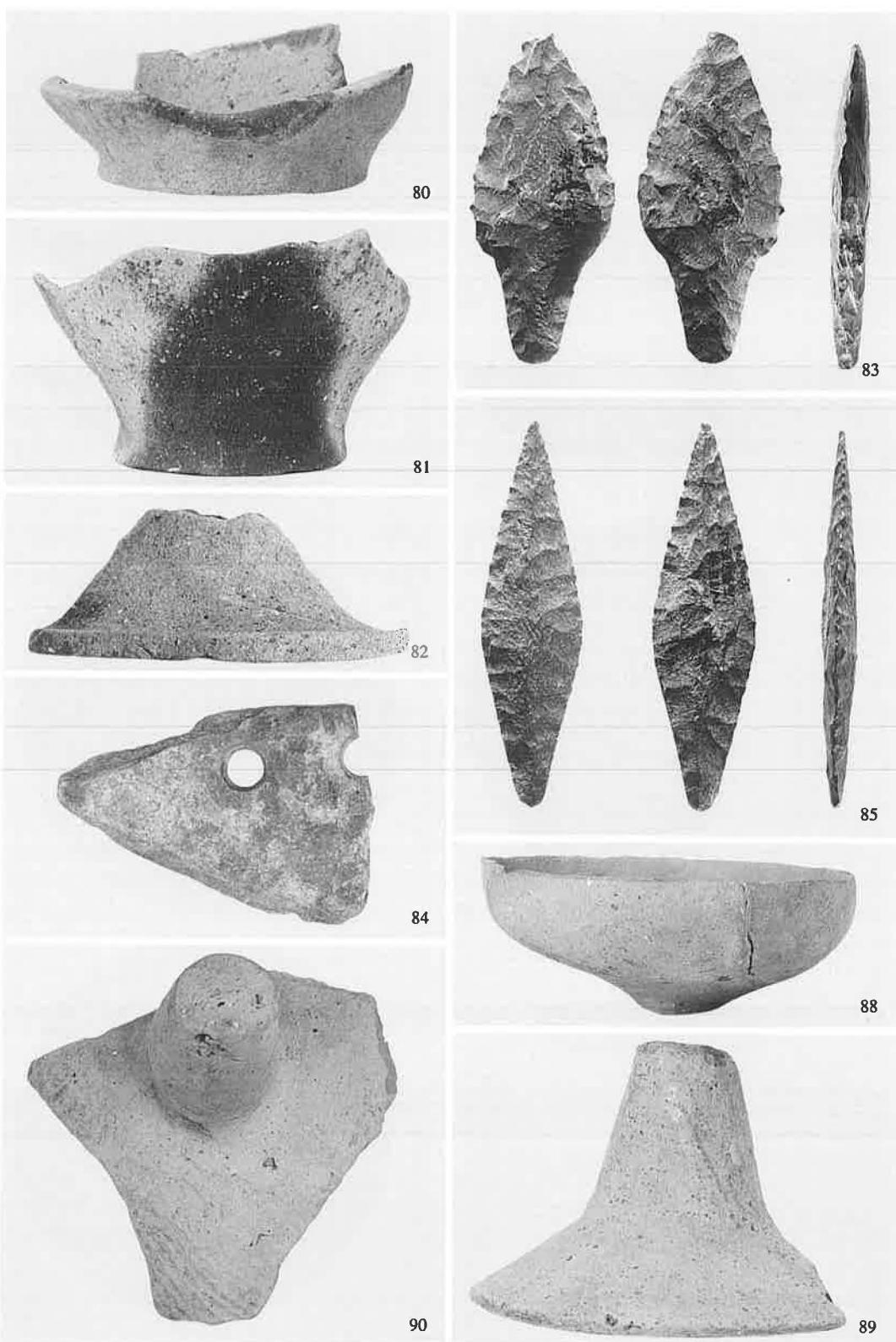


79

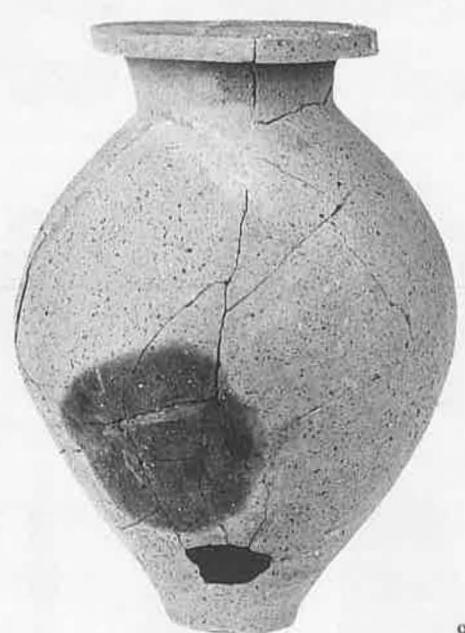
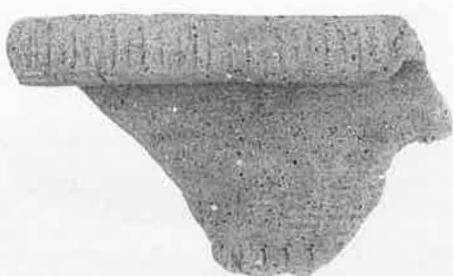


77

図版 26  
遺物  
溝 20・溝 21・落ち込み 1 出土遺物

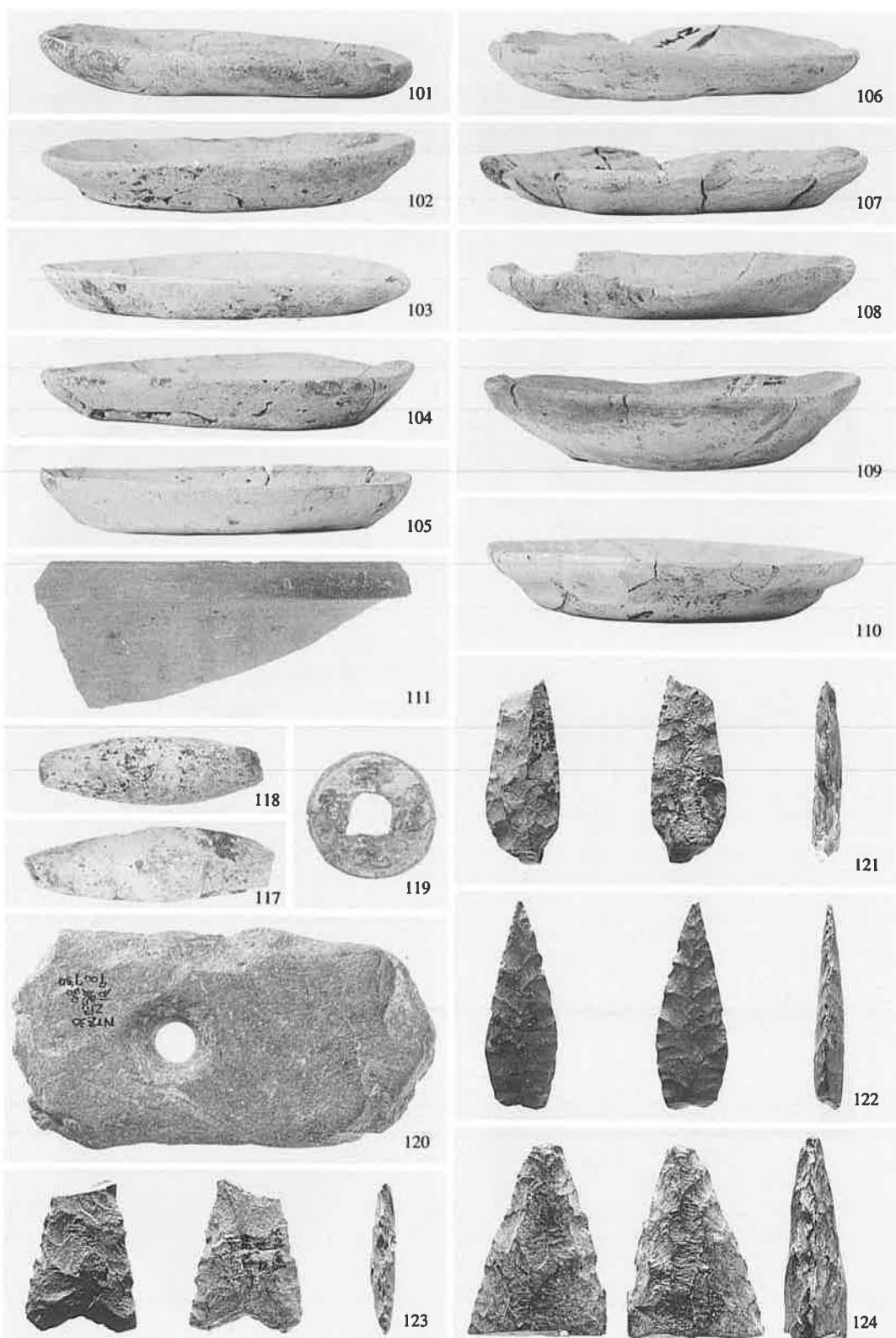


図版 27 遺物 落ち込み 1・土壤 17 出土遺物

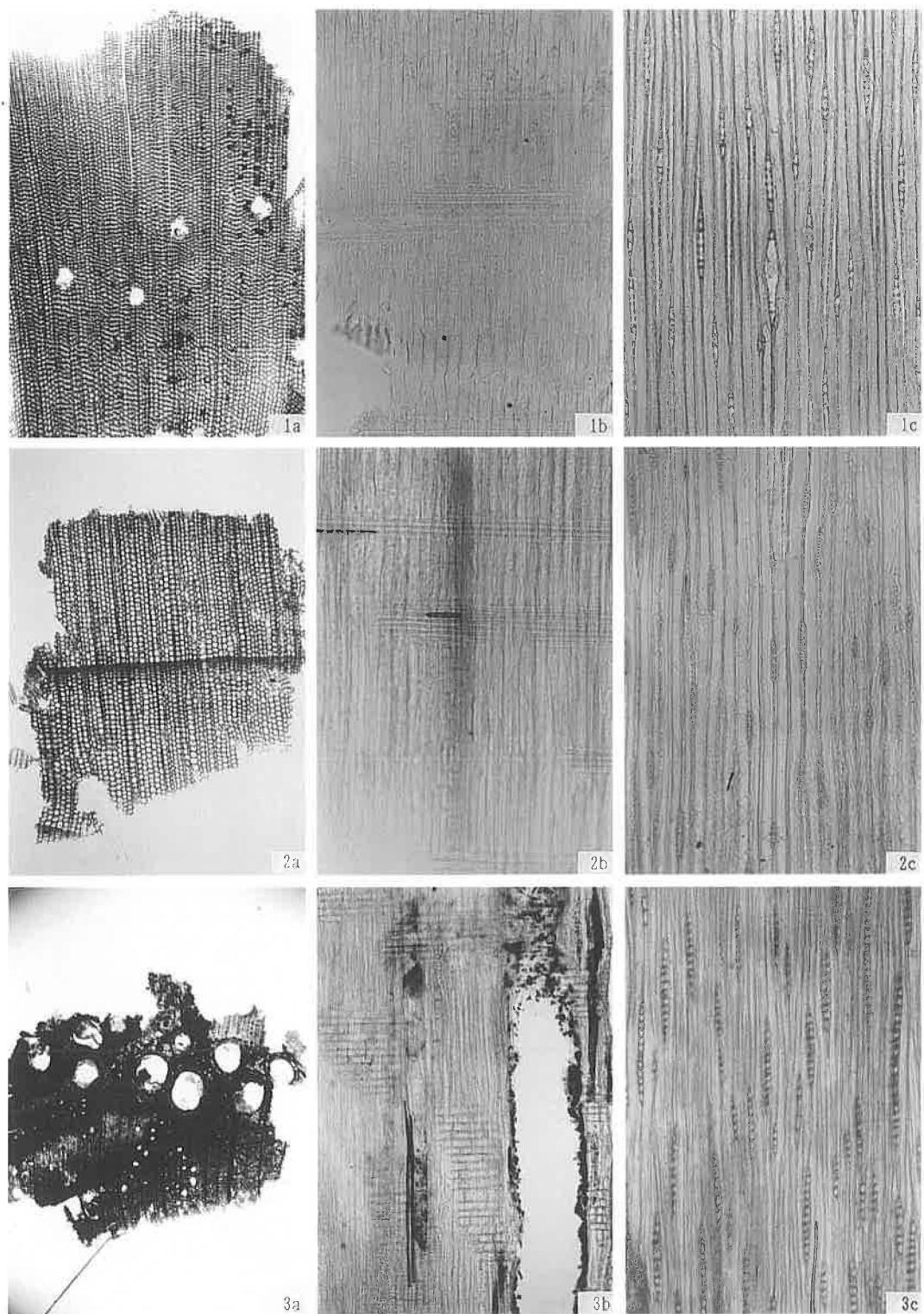


図版  
28

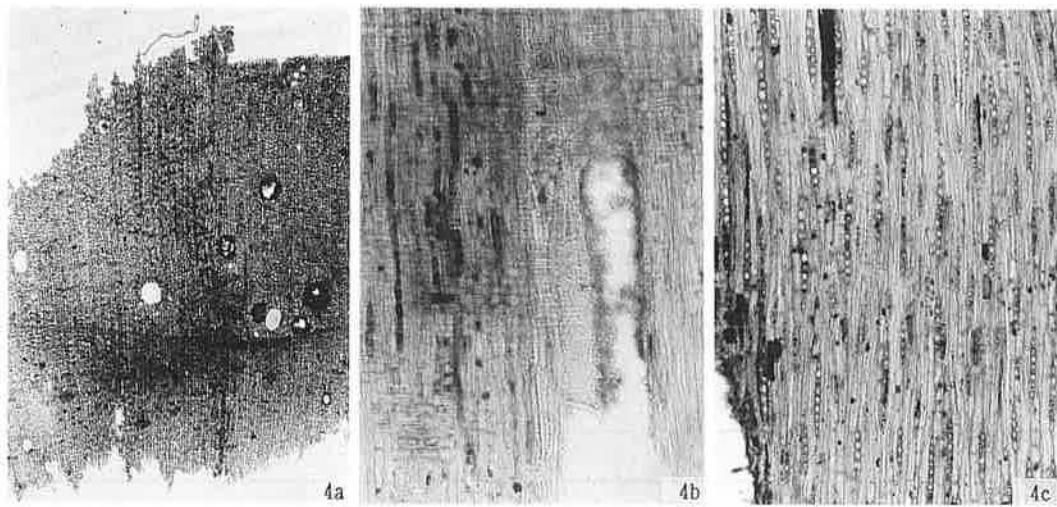
遺物　近世溝・第9層出土遺物



図版 29 遺物 樹種顕微鏡写真



図版  
30 遺物 樹種顕微鏡写真



西ノ辻遺跡第30次発掘調査報告

発行年月日 1995年3月3日

発行者 財団法人 東大阪市文化財協会

印刷所 (株)近畿印刷センター

0729-72-5918(代)